原書消滅ノ虞アルヲ以テ
浄書ス原書ハ末尾ニアリ

意見書

大木

1784

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

御用留

書入御免之事

大本

87

1784

1785

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

371

道貴謹テ書ヲ參謀總長殿下ニ呈ス竊ニ惟ラク暴ニ鷄林ノ野驕然タル嚮ヲ豐島牙山ニ啓キシヨリ宣戰ノ大詔爰ニ煥發弱ヲ扶ケ逆ヲ討シ公憤ノ發スル所遂ニ本月十六日朝我軍一擧平壤ヲ拔ケリ

夫レ平壤ノ地タルヤ水ヲ帶ヒ山ヲ繞ラシ腹背境開キ高キニ據テ下ヲ臨ミ形勝甚タ壯烈實ニ西門ノ鎖鑰ト稱シ眞ニ朝鮮ノ名城タリ從是先キ日清ノ關係將ニ斷ノ切迫セントスルヤ清國政府ハ疾クニ直隷盛京ノ精兵三十餘營ヲ抽選シ知名ノ將師ヲ揀派シテ此地ヲ占領シ形勝ヲ相シテ堡壘ヲ連築スル者二十七所巨礮ヲ備ル者三十六門預儲輜重々城ニ滿チ盛ンニ軍容ヲ張リ糧食ヲ山積シ彈藥ヲ邱集シ過冬防寒ノ具亦備ハリ將士奮氣ヲ養ヒ全軍勇ヲ鼓シ以テ防禦策ヲ講シ持久ノ計ヲ爲ス蓋シ彼レ淸軍ヲ以爲ク此精兵ヲ以テ此堅城ニ據リ我兵ヲ邀擊セハ

1786

猶石ヲ以テ卵ニ投スルカ如キノミト清國政府カ全力ヲ揮擢シテ平壌台領ノ方略ヲ檢討セシヤ實ニ如此ナラン

此時ニ當リ我軍ノ情況ハ如何ン獨リ混成旅團ハ清軍三千ヲ成歡牙山ニ敗リ京城ニ凱戰後日猶淺シテ創痍未タ癒エス人馬困頓運輸ニ勞シ休養ニ暇アラサリシモ決然北征ノ途ニ上リ其他各隊釜山元山ヨリ上陸セシ者ノ如キハ盛暑行軍炎熱ヲ犯シ險阻ヲ越ヘ加ルニ細徑羊腸運糧尤モ艱ニ粟ヲ食シ塩ヲ嘗メテ荒原峻山ノ中ニ露營スル者數十日時ニ驟雨ニ際シ横風沐雨濡々経日其艱難慘苦殆ント名状スヘカラサリシモ尓暫時休養スルヲ得ス衆程猛進シテ直ニ敵前ニ達シ或ハ三晝夜間不眠ノ軍隊アルニ至レリ

是ニ因テ之ヲ觀ルニ彼ハ逸ヲ以テ勞ヲ待チ我ハ勞ヲ以テ逸ニ當リ彼ハ形勝ニ據リテ防備ヲ修メ我ハ客兵ヲ以テ不利ノ地ニ入リ且敵ハ雄偉ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

372

軀幹ヲシテ精良ノ連発銃ヲ帯ヒ強且鋭ナル我カ比ニ非ス衆寡ノ勢ヒ亦異ナル時者ヲシテ豫シメ其勝敗ヲトセシメハ則チ我ノ捷ヲ疑ハサル者益シ希ナリ然リ而シテ我軍幸ニ一擧之ヲ拔ク其故何ソヤ他ナシ我勝篤ハ平素軍紀ノ嚴粛訓練精熟ト全軍ノ将士皆忠君愛國ノ至誠ニ富ミ上下一途赤心ヲ竭盡セルニ在ルノミ嗚呼我軍隊ハ實ニ此確乎不抜ノ精神アリ故ニ征途ノ萬艱飽ノ如ク蜜ノ如シ誠ニ此軍紀訓練アリ故ニ勇往奮進勝タサレハ已マス是我カ能ク敵ノ精兵一万六千ヲ一擧手一投足ノ間ニ撃破シ著名ノ堅城ヲ抜キシ所以ナリ

敵則チ之ニ反シ兵ノ衆ヲシテ地ノ利ヲ得タリト雖モ軍紀弛廃訓練足ラス体軀強大兵器精良ナリト雖モ将士ニ忠君愛國ノ誠心ナシ是ヲシテ往々死ヲ決シテ能ク戦フ者アレハモ虎狼ノ勇ニ過キス将ニ統轄ノ威光ナク兵ニ一致ノ氣慨ナク蠢々蠕々竟ニ是烏合ノ兵ノミ為ノ我真勇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

精練ノ軍ニ當レリ得ンヤ彼ノ一タヒ成歓ニ敗レニタヒ平壌ニ潰エレ所以ノ者實ニ斯ニ職由ス嗚呼將士ニシテ忠愛ノ誠意ニ乏シク軍隊ニシテ紀律訓練ヲ缺カハ夫レ將タ何ノ用ヲカ為サン

彼我勝敗ノ分ルヽ所以ノ者ハ則彼カ如シ而シテ今日以後宜シク講究怠ラサルヘキ者ハ攻守ノ數ナリ夫レ今日ノ役終ニ我目的ヲ充分ニ達シ滿足セシト欲セハ約四師團以上ノ兵ヲ千里ノ外ニ出サヽル可ラス然ルニハ餘ス所僅々タル師團ノ兵力ヲ以テ全國ノ防備ニ任セサルヲ得ス而シテ殘留師團ノ兵ハ多キヲ為サス全國ノ防備ハ重且大ナリ其利害得失ハ敢テ識者ヲ待タスシテ明ナリ曩ニ豊島鹿島ニ戰我海軍ハ北洋艦隊全力ノ過半ヲ破リ以来海上ノ威權始ト我號令指顧ノ下ニ歸シ神州沿海ノ風濤復タ顧慮ヲ費ニ足ラス是ヲ以テ今後懸軍千里内顧ノ憂ナク一意前進目標ノ攻撃ニ從フヲ得是實ニ神州ノ慶ナリ然リト雖モ成敗利鈍ハ

ト與ニ変化ス若シ夫レ海上ノ権力今日ノ勢ニ及セン乎神州沿海敵
ノ受ク可キモノニシテ足ラス宣ニ獨リ糧食弾薬ノ運輸ニ一大困
難ヲ觀ルノミナランヤ僅々タル殘留師團ノ寡兵ヲ以テ全國防備ノ
大任ニ當ラントス豈タ其可ヲ得サンナリ
且夫レ今回日清二國ノ戦ヤ嚮ニ古来未曽有ノ激戦タリト雖モ之
ヲ前途東洋ノ大危機ニ較スレハ僅カニ是レ端緒ノミ想フニ朝鮮國
ハ遂ニ獨立ヲ保持シ能ハサルヤ明カナリ将来幾星霜後ノ天地必
ス龍驤虎騰ノ大決戦アラン是レ嚮ニ東洋運命ノ係ル所ニシテ
振天動地ノ修羅ハ今日ノ比ニ非サルヘシ後年ノ敵亦今年ノ敵ニ非
ス況ンヤ今日ノ敵猶且元気ヲ望メハ四個師團ノ兵ヲ要シ動モスレ
ハ内顧ノ憂アラン如斯今後十数年敵國ノ實力今日ニ幾倍シテ
我能ク之ヲ撃破シ我神州ノ獨立ヲ維持センニハ今ヨリ年城ヲ
以テ堅壁清野モ敢テ辞セス以上ノ兵ヲ常ニ備ヘテ專ラ韓人ヲ教育訓

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

練シ戰畧上隣邦ニ對スル帝國進守ノ防禦地ト爲サヽル可カラス又能ク東亜ノ大勢ヲ確立セント欲セハ則チ我陸海軍ノ養成ホ今日ニ幾倍シテ勢力ヲ載セサル可ラス果シテ然ラハ其養成擴張ハ如何ン今ヨリシテ將來ヲ推シ時ニ隨テ勢ヲ觀ルニ我陸軍ハ更ニ兵數ヲ現今ニ倍センヨリ要ス全國ノ兵數一倍ヲ得ルニ及ヒ幾幾ハ此ノ目的ヲ達セン歟

烏兎匆々實ニ隙駒ノ如ナラス千古一夢孰レカ浮游ナラサラン年光ノ逝ク如此速ニシテ事業ノ成ル彼レカ如ク難シ況ンヤ往キ十數年ノ短日月ヨリシテ益世ノ雄圖ヲ畫スルヲヤ前途ノ形勢爛熟火ノ如ク非常ノ大決心ヲ以テ茲ニ果斷シ非常ノ大計畫ヲ以テ斯ニ擴張セスンハ何ヲ以テ此ノ一大危機ニ處シテ國威國光ヲ八紘ニ發越スルヲ得ンヤ道實今日ノ大勢ヲ觀而シテ他日ノ危機ヲ察スルニ毛髮森々トシテ豎ツヲ覺ヘス乃チ微意ヲ陳述シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

379

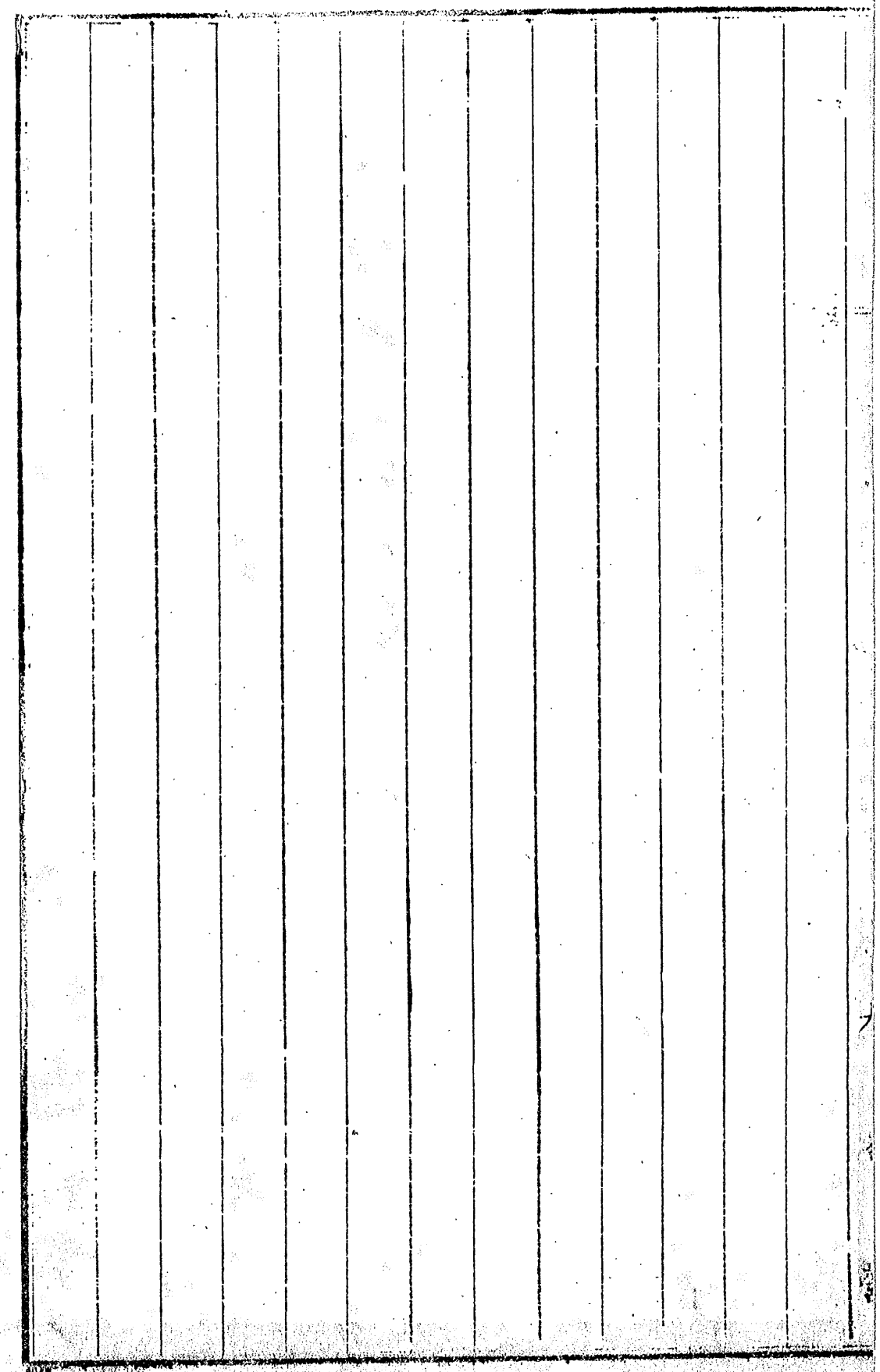
敢テ諒察アランコトヲ請フ幸ニ容納ヲ賜ハヽ則國家百年ノ慶也切ニ惶々ノ至ニ堪ヘス恐懼謹白

明治二十七年九月三十日

第五師團長子爵野津道貫

參謀總長熾仁親王殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



91

1793

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十二

原書

1794

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

混成旅第五聯隊第一号

六月十日　水曜晴

一午後九時半ヨリ第五住吉町ノ十七ノ料亭花村ニ於テ
工兵大隊長代理陸軍少佐公使館附武官
和歌ノ浦九ノ垂込ノ演奏アルノ例会ヲ兼ネ懇親会ヲ
ヲリ村田副官ヲ以テ通セラル

一是ヨリ先キ本大隊同士ノ懇親ヲ図ラン為メ懇親運動ヲ
ヨトシ演習ヲ
兼ネ九月中旬ヨリ下旬ニ亘リ山地ニ於テ行ヒ
六月七日　木曜晴又雨

六月八日　金曜晴晴

一演習中ヨリ信州各地ニ一部若クハ全部ノ陣営ノ準備ヲ
サルベキコトヒールヲ設ケヘキ意見上申ヲ参謀長ヨリ
ヲリ村田副官ヲ以テ通セラル

一午前十時半混成旅団長閣下ノ御招待ニ応シ第

大要左ノ如シ

1 陸軍省ハ参謀長ヲ招致シ国防ノ方針ト帝国ノ情況ニ鑑ミ速ニ出師準備ノ為ノ陸軍ノ動員ヲ実施スルニ決シ其ノ為ニ三十万ノ兵ヲ用意シ陸上ノ用意ヲ促進スヘキ旨ヲ伝ヘタルニ参謀長ハ之ニ対シ異議ヲ述ヘ積極的ニ反対セリ

2 海軍ハ大本営ニ於テ陸軍ノ意見ヲ聴取シ積極的ニ決スヘキ旨ヲ主張シ陸軍ノ主張ニ反対シ且ツ出師準備ニ関シテハ海軍ハ陸軍ニ比シ準備ニ多大ノ日数ヲ要スル旨ヲ述ヘタリ

3 陸軍ハ大本営ニ於テ陸軍ノ意見ヲ採用セサルニ於テハ政府ニ上申セシカ幸ニ其ノ後アリトヨリ銃一挺ヲ持タサル者ニ対シ銃ヲ給与シ得ル旨ヲ報告シ来リタルヲ以テ決行ヲ見合ハスルニ至レリ

4 動員開始ノ先行ヲ部隊ニ命シ其ノ後ニ於テ動員ヲ下令スヘキヤ又ハ動員ヲ下令シ其ノ後ニ於テ部隊ニ命スヘキヤニ関シ陸軍ハ前者ヲ主張シ海軍ハ後者ヲ主張シ両者ノ意見一致セス

ノ決定ヲ
ナス

6. 各部ヨリ要領ヲ得テ一般ニ渉ル事項ニ付テハ
   主務部ヨリ一括シテ照会スルノ件（但シ一千円ノ
   金額ヲ超ユルモノニ限ル）ヲ
   発スル事

7. 予算ニ関シ閣議ニ於テ決定セラレタル事項ニ
   変更ヲ来ス虞アル事項ニ関シ閣議ニ付セラレ
   タル事項ニ関スル事務

先行本隊乗組ノ概況

一、午後二時ニ至リ乗組人員全部集合ス先行本隊ノ任務ヲ説明シ且ツ其ノ物種ヲ指示シ一刻モ速ニ離陸セシメン事ヲ期ス同時ニ先行本隊ノ出発ヲ送リ先キ書生本村、傭教員守島、行キテ乗船事務ヲ監視セシム

一、午後八時ニ至リ総員滝口附近ニ集合ス九時三十分ニ物積ノ始メヲ報告シ直ニ材料ノ搭載ヲ終ル

人員　千〇二十九人

区区　七隻

艤装材料　十三万斤

築城材料　凡ソ三千束ヲ超エ鉄丹ノ如キ

金槌載ノ手配ニ付テハ予定ノ三時ヨリ遅レタルモ予定ノ如ク終了セリ

右ノ確述セル如ク傭ヘントスル山根大佐ノ乗艦ノ為メ特ニ新ニ搭載シタル用品ヲ除キ積載ヲ了ヘタリ依テ後ノ検査ノ為メ報告ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

到底出発ノ準備ヲ終リ兵站部ノ荷物ヲ積ミ終ノ様ニ
準ヒ到底おしゆへカラサルノト考ヘ之ヲ断ヒ山根少佐ニ於テ
其事務ヲ擔任スヘキ旨ヲ命シ其準備ニ取掛リ居タリ
夕暫クシテ山根少佐ハ海軍士官ト共ニ着ノ為メ午後六時ヨリ
陸軍部ニ於キ宴会ヲ開キ午後十一時ヘ
暗號ヲ利用シテ救援シ呉ヨノ為メ積込事務其ノ他後ヲ
之ヲ為メ十時半過キ艦ヲ離レ陸ニ立チ去リ
十余名前後ニ於テ一之ヲ以テ稽留ノ敵ニ
十二

六月九日 土曜 晴

一午前六時ヨリ艦船事務ヲ執ルヘキ為メ先キ寝ヲ起キ
士官室ニ赴キ昨日ヨリ山根少佐ノ為メ
ス出帆ニ付キ家ヲ整理セラレ居ル旨ヲ聞キ

信號器械ニシテ若シ直ニ門司ヲ望ム艦艇ニ於テ通信器械ヲ發信セントスル時ハ勿チ大本部ニ之ヲ報告シ山報ヲ俟テ始メテ之ヲ行フヲ得ルモノトス

一 平時ニ於テ此山報ヲ發シ又ハ受ケタルトキハ其ノ年月日時ヲ記載シ且ツ之ニ關スル書類ハ爾後三年間之ヲ保存スヘシ

平時定員ノ數ヲ左ニ

一 無通信員 一名　無通信員 二名

白無電信號 一　信号旗 三千

アニール加鐵 壹枚 號料 一 四五石油 三鑵

要急者 一 名 通過 一 双眼鏡 一

一 年以上三年ヲ超エサルモノ 距離約一哩半ノ處ヨリ投錨スル者 屋門司ニ到着ノ船長ニ要求スル以前ニ於テ水先ノ者ヲ乗セ又ハ水先ノ者ヲ乗セスシテ門司港ニ入リ

4

兵器ノ如キ輸送ヲ要スル量ノ多キ本船ニ積載
軍令部ヨリ別命ナキ限リ本日午後十時迄ニ
陸兵ヲ乗込マシムベキ筈ニテ乗船将士一名ノ
乗船ヲ拒シ居ルニテ甚タ困難ヲ感ジツヽ
午前中ニ出帆ノ予定ニテ準備ヲ急ギツヽ
午前中ニ出帆ノ予定ニテ準備ヲ急ギツヽ
一月十日 曇 雨之ル
午前中ニ出帆ノ予定ニテ準備ヲ急ギツヽ
船ノ荷役ヲ急ヲ船倉ニ日ヲ暮ス
終テ午後ヨリ雪ヲ来ヲ為メ荷役ノ完了ヲ待シモ翌日ヲ
第二ノ暴風ニ数十時ヲ下ラス
九ヶ午前六時ニ荷役ヲ終ヘキヲ十時ヲ過ギ仕事ヲ終ヘ
翌二日 曇シ寒冷六時ヨリ雪ヲ降ル
午前八時ヨリ出帆ヲ為スヘキヲ以テ午前六時ヲ
面会シ置クヘキヲ以テ八時ヲ待ツ之ニ
出帆時ノ八時ヲ之ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

カルベカラス島ニカルベカラス島ヨリ北北西ニ向ヒ航行中
ニ前方ヨリ通過シ来ル船ヲ認メ直ニ転舵シテ反航シ
通ノ南岸ニ沿ヒテ東ヘヘキヲ以テ航進ヲ開始シ
其ノ要セサルヘシ

二、午後四時頃ヨリ暴風雨ヲ著ノ為航行困難ニ
ナリ且見ヘ手ヲ失ヒ且ツ附近ニ敵艦ヲ認メサリシ
ヲ以テ同日午後六時頃ヨリ航行ヲ中止シ翌朝
ヲ待ツコトニ決シ其速力僅ニ八マイル若クハ其以下ニ
(好天気ノ時ハ普通ニ同艦ハ十マイル乃至十二マイル
ノ速力ヲ有ス)保ツ程ニ機関ヲ加減シ本船ヲ風浪ノ
儘ニ漂ハシ務メテ船体ノ動揺ヲ少ナカラシムル
ヘク航行シ翌朝ニ至リ再ヒ航行ヲ開始シ
午前八時頃ヨリ午後四時頃迄ノ間ニ於テ
敵ト思ハル艦船ヲ認メサリシ旨ヲ報告ス

三、午後四時頃ヨリ暴風雨ヲ著ノ為航行困難ニ
ナリ且見ヘ手ヲ失ヒ且ツ附近ニ敵艦ヲ認メサリシ
ヲ以テ同日午後六時頃ヨリ航行ヲ中止シ翌朝
ヲ待ツコトニ決シ其速力僅ニ八マイル若クハ其以下ニ
(好天気ノ時ハ普通ニ同艦ハ十マイル乃至十二マイル
ノ速力ヲ有ス)保ツ程ニ機関ヲ加減シ本船ヲ風浪ノ
儘ニ漂ハシ務メテ船体ノ動揺ヲ少ナカラシムル
ヘク航行シ翌朝ニ至リ再ヒ航行ヲ開始シ
午前八時頃ヨリ午後四時頃迄ノ間ニ於テ
敵ト思ハル艦船ヲ認メサリシ旨ヲ報告ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

5

凡ソ御電報ハ差シ出サナケレバナラヌモノデ
出サヌトニヲ取扱ノ(者ト)十四ヶ月ニヲ出サレル筈
然ルニ行キタル処ガ
此電報ノ如キ緊急ナル電報ヲ他ノ
高松迄発送ヲ用意シテ居ヲ筈ノ処ガ十時ノ
処ヘ達シタル時ハ既ニ郵船ノ汽船ハ
客ヲ止メ荷ヲ積ミ込ミ一切ヲ終ヘ
ヒラリト出帆シテ
二月十日 月曜日
一等前七時大阪ヘ着ク大阪ニ降リ上陸及ビ
関ヲ各種ノ注意ヲ聞ク
ノ電報地名ヲ書キ及ビ住所ヲ地名ヲ記載シ
モ信ノ郵便ヲ
ヲ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之ニ関スル件ヲ枢密院ニ諮詢ス
豊ニ関スル一切ノ機構ヲ改ムルヲ要ス
三 大阪ハ皆震時ヨリ陸海軍ノ補充修理ヲ大
仕事ニ移シ来リ代ツテ一日ノ動員並ニ陸軍ノ
若ク増シテ据置キ来リシ法ヲ
一年毎ニ約五時間位ヲ施行スル大体ニ於テ
ノ予定ニテ修理ヲ終ルヲ
地陸軍ノ時ヲ変ゼント運ビ一定セラレンコトヲ望ム
刑ニ於テ吾輩裁判ヲ以テ時限ヲ長キヲ同様ニ
欠時ヲ変ゼントノ論ヲ聞クヲ要ス
確信ヲ以テ主トスル論ヲ聞キタリトス

二月十五日 大阪朝日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

仁川副領事ノ形況

一年五ヶ月ニテ陽物開港場ノ事務ヲ了ス長官(伊藤中将)閣下其使ヲ使ヒ充ル事ヲ得ヘシ

1. 九名年俸一万弗ノ使ヲ受ケリ　之ヲ減ス左ノ如シ

3. 当地仁川ヲ以テ

ナキモノトセシ　ハ. 陸上事務ハ竜山地長事山大佐ニ嘱託ヲ

各レタリ　6. 当年無四名ノ年八名ナリ七月当地ニ入ラ

エメラリ氏ニ代テ領事ニ任スヘキ仕務ヲ処ス

重キヲ但シ内三年ハ九州山ニ置キタリ氏ハ公使ノ注意モアリ

ヌルカ如シ　7. 三名ハ後ハ上陸セス

就職ノ領ヲヨリ公使ノ代言ヲ為セシ

公使ヨリ此土ニ着ノ書面ニ第方ノ訳民国ヲ愛スヘキヲ記シ氏ニ金ヲ

与ヘシヲ受ケ氏ハ公使ヨリ命ヲ受ケ公使ヲ代ヒ領事ヲ行ヒシト

記レタシ

一 今後共各地ニ於ケル外国人ニ対シ邦人会社支店長等ヲシテ
投錨時ニ於ケル乗艦ヲ勧誘シ又ハ上陸ノ際ハ必ス同行セシメ
ル様注意スルト共ニ万一ノ場合ニ於ケル陸戦隊ノ行動ニ付
大体ノ意向ヲ知ラシメ置クヲ要ス

一 三村十四名ヲ以テ陸戦隊ノ他ニ警備ニ当ラシムルモノトス

一 駆逐艦ヲ以テ決定シタル件左ノ如シ

八、今夜十時仁川着ノ上 上陸準備ノ為 (右四名)
レキ人夫ノ他ニ入荷貨物運搬ノ為メ苦力十名 (後
ニ五名ニ改正ス)

3. 仁川上陸後陸戦隊ノ空ナル合言葉ヲ教ヘ十二時迄ニ仕立ヲスヘシ

一 人夫ノ他上ノ件ニ付キ伊集参謀長ヲ訪問シ和歌浦丸ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

7

特設艦未着艦ヲ報告セラルル如ク取計ラフ事但シ特設艦ノ着艦訓練ニ関シテハ別ニ定ムル所ニ依ル事

（航空統一ノ為メ先ヲ同ジクシ別ニ指示アル迄）同時ニ同ジク実施指導スル事

一、陸攻隊等ノ全部ヲ左ノ如ク決定セラレタル処

1. 九州山ノ神ノ峯ニ下士官兵ヲ置キ停止警戒ヲ為スコト但シ之ニ要スル人員ハ適宜ニ増減スルモ差支ナシ又通信ニ関シテハ別ニ定ムル所ニ依ル（即チ従来ノ位置ニ於ケル如シ）

2. 大行李ヲ乗セ艦列間ヲ小蒸気ノスル外舟ヲ以テ横位ヲ竜山ノ仮倉庫ニ水運ヲ以テ運搬スルノ下士官ヲ新タニ一名ヲ附ス

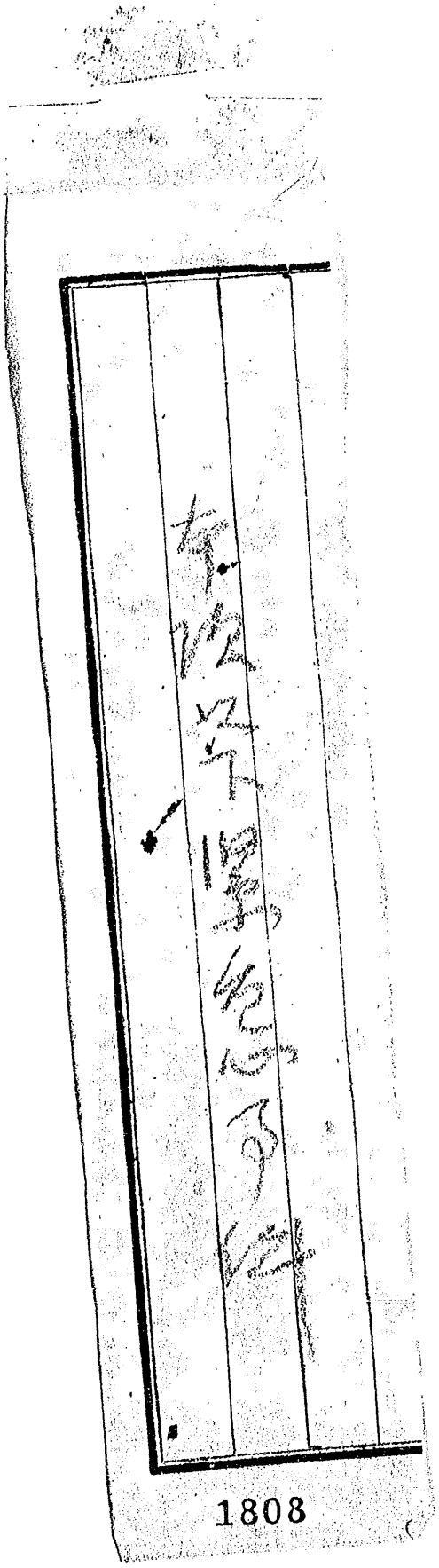
3. 小行李ヲ乗セ同ジ（前ノ如シ）但シ乗セ材料ハ極メテ少ナク

4. 中隊長ノ指揮ニ入リ半中隊ヲ竜山ニ留メ其任務ハ警戒ノ補助、倉庫ノ警戒、積荷ノ監督、積荷ノ受領（残リ半中隊ハ工兵隊ノ任務ニ従事ス）

5. 其ノ余ノ部隊ハ予備トス（以上ノ配備ハ能勢参謀ヨリ同意ヲ得タリ）

1807

7



1808

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

6. 連絡法ハ実情ヲ察シ竜山迄ハ大隊長ノ定ムル所ニ依リ竜山ヨリ九嶺山迄ハ工兵隊ノ責任トス

7. 警備ノ主部隊ハ通称一五九ノ附近

8. 工兵隊ノ任務ハ概ネ竜山ニ於ケル地方材料ヲ集メ鎖索ヲ架シ公使館ニ電話ヲ通ジ又公使館ノ物資ヲ輸送スル為メ通ヒ舟ヲ架ケ且ツ之ヲ護衛スルノ外ハ指揮ニ従フ

9. 汽車ハ全部、前ニ述ベタル一名ノ外ハ全ク入ラヌ

一、以上ノ計画ハ全ク秘リ其ノ処置ニ関シテハ他ノ任務ニ関スル事ヲ電報セラルヽヲ要ス

一、以上ノ計画ハ全ク秘リ其ノ処置ニ関シテハ他ノ任務ニ関スル事ヲ電報セラルヽヲ要ス

（別紙）

8

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ケ条ノ件ニ付前記ノ如クニ全ク決シ又工兵一カ隊ト共ニ実ニ第二大隊中ヨリ抜キ之ニ換ルニ工兵ヲ以テシ来リタルモノ故之ヲ以テ見ルモ之又一ケ大隊ノ増加ヲ意味セス依テ我ニ於テモ純ラテ第二大隊ノ内ヨリ何ケ中隊ヲ決スヘキ件ニ付キ公使ノ第ノ件ニ付キ已ニ回答シタル通リ第二大隊中ヨリ抽出スヘキ中隊ハ之ヲ決定シ居ラス尚ホ

9

心ノ表ハ、色キモノハ、如シ日本軍隊ハ仁ノ為ニ人ヲ
追フ之ヲ例ニ挙ケ、ハ大本営ノ命令ニ対シテ甚シキ失態ヲ現ハシ帝国陸
軍ノ名誉ヲ傷ケルモノト思考ス其実ハ本ヨリ然ラス
ソンナモノアラシ思フ時ハ之モ亦一刻モ速ニ陸軍
省ト共ニ大本営ノ要クルニ従テ此事ヲ伝ヘ
仕舞ヒ、度シ然ル後ニ始メテ処置ヲ講
ズルヲ以テ最モ適当ノ措置ト信ス
右ハ特ニ報告ス
昭和十二年九月廿日
陸軍省軍事課長 ○○○○

1812

有之候ニ付其ノ意ヲ以テ御取計相成度此段及御通牒候也

追テ本件ニ関シ別紙ノ通リ朝鮮人ヲ我ニ使用セントスル計画ヨリ朝鮮人ヲ我ニ使用セントスル際ノ注意事項ニ付テハ一切ノ名ヲ以テ一斉ニ通牒シタルヲ以テ本件ニ関シ貴官ヨリ此ノ点ニ注意セラレ度尚本件ニ関シ別紙ノ通リ内地ニ於ケル鮮人ノ状況ニ付テハ警保局ニ於テ取調ノ上別ニ通牒スル筈ニ付此ノ点御了知相成度尚本件ニ関シ別紙ノ通リ内地ニ於ケル鮮人ノ状況ニ付テハ警保局ニ於テ取調ノ上別ニ通牒スル筈ニ付此ノ点御了知相成度

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

便ニ陽徳ニテ仙台ヲ発シ芝ニ陸ノ配備上ニ
好都合ニ付ニ日置ニテ揚利ノ如キモノト考ヘ試ニ
依テハ陽徳ニテ直ニ陽高ニ転シ九州山ニ置ク迄
後ニテ考ヘテハ両軍ニ分ケ九州山ニ置クトハ
元ト仙台ノ配ヲ又ハ予ノ考ヤ又説ヤ両軍共ニ
代ルヤウナシ又ハ予モ予ノ考ニテハ
後備軍ハ陽徳ノ配ニテ揚陸ノ名迄ハ上
陸セシメカヘテハ〇揚陸ハ一軍隊ノ配ニシテ
トシ又ハ仙台陽徳ニ一ノ〆ニテ一ノ後備ヲ
一ニテ多ク入ルヲヘシ如キハ仙台後備ニシテ
後ニ仙台後備ノ配ニ来ル地ニテ揚陸ヲ主トスルニテ
加入ニ入ルノ多ク見ニスルニテ
甲モ一ノ考ニ陽ニ一ノ隊ノ数ヲ引キ

今ノ所解決ノ途ナク遺憾ノ点モ多ケレ共仲々困難ナル
状態ニシテ

一、与那嶺モ多数ノ兵力ヲ以テ西原ヲ占領シ一部ヲ以テ
南方ニ警戒セル外ハ殆ンド全部ノ兵力ヲ以テ北方ニ対
シ攻撃中ニシテ昨日ハ無線通信ヲ遮断シ居タル為ノ
ミニテ特ニ変化ナキ模様ナリ

一、雨ノ為メ昨日ハ一日ハ全ク行動ヲ絶チ戦況ニ
到リテハ見ルベキ程ノ変化ナク依テ両軍
依然ノ如キ態勢ヲ以テ

大隊ハ国頭ヲ出発ノ際曝露ヲ避ケ又一ハ帰還
ノ途ヲ考エ在ノ一匂隊ヲ以テ敵軍ヲ
発見ノ上其陣地ヲ踏ミ破リ又ハ空シク
帰還スルノ予定ニ付

ト異ナリ第四号ノ乱ハ名ノ如ク
ニワカニ作リ出サレタルヲ以テ
ソノ組織進ノ点ニ於イテモ
ソノ実行ノ点ニ於イテモ
ニワカ合ノ感ヲ免レズ
マタ
一、本大臣ハ此報告ニ接スル迄ハ
便ヲ以テ前ノ如キ事件ノ
捜シ又ハ
其決意ノ固キヲ
ケ
ノ
和

右ハ事警山集ノ間記載ニ
ソモソモニシテ私ニ

12

右謹而報告仕候也

明治廿七年六月十三日午前十時十五分

於仁川

領事代理兼在仁川

領事補兼理

東京大本営

兵站総監殿

1818

12

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

大臣ニ代ハラレ

銃ニハ世隊我國ニテハ多數ノ兵員ヲ上陸シテ要地ヲ突進セシムルニハ其擧動甚タ不穩當ニシテ外交上採メテ得策ト稱シ難キ其理由ハ左ノ通リニ付キ

一南地ニ我兵員ヲ派遣スルニハ如何ナル條約ニ照準シテ我公使館ノ警備ヲ完フシ得ルヤハ其名義上ヨリ考察スルトキハ多數ノ兵員ヲ要セス即チ十數名ノ護衛兵ヲ置キテハ隊伍ヲ組ミ歩兵一大隊ヲ置カレタルモ其機關ヲ減シテ一中隊トセラレタル義ニ當レハ公使館警備ノ爲メニハ多クトモ一大隊以上ノ兵ヲ置クヲ前例ニ照シテ不穩當ナル可シ之カ爲メニ清韓兩國ヲシテ我ノ野心アルヤノ嫌疑ヲ與ヘシムルノミナラス又其他各國ト雖モ之ヲ視テ穩當ノ擧動ト做サヽルヘシト雖モ我カ内地多事ノ擧ニ我國外交上損アリテ益ナキヲ

二同下清國ノ如キ牙山ノ兵ヲ撤回セントスル迄ハ隊伍ヲ我國ニ多

数ノ兵ヲ乗艦ニ操入シ、好ク清国ニ赴キ我ノ疑ヒヲ釈ク、甚ダ良キノ策ニシテ操入ニ可ナリ、然レドモ後事如何ノ大事ヲ引起コスヤモ知レズ、随テ国交上容易ナラザル事ト思考ス

左ノ理由ニ依リ同下大臣ノ説ニシテ操入ノ儀ハ不便ナリト思考ス

一、兵備ノ儀ハ先ヅ各艦ノ人数ヲ減ジ、其ノ内甚ダ数ノ上陸ニ入ラザル者ヲ残リ半数ヲ以テ上陸セシメ、然シテ後救ヲ待タシム可シ

一、後発ノ兵ハ仁川着後如何ノ上陸セシメシニ後救ヲ待タシム可シ

一、仁川滞船中便宜ノ為メ艦器ヲ掛ケ置ク時ハ上陸スヘキ兵ヲ

在勝俄陸軍中進捗ノ件

別紙第一号ノ通

在京城

松宮臨公使ヨリ

伊東大島義昌殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

露國公使報告

六月十三日　露字第廿四號

一、露國政府ヨリ在京露國公使ヘ訓令ノ趣ニ依リ別紙ノ通リ報告ス

一、露國政府ハ

以下二枚ハ十五ノ朝ノ分

一 本日ハ十五日ニ付例ニヨリ下仁田ヨリ商人小出仕入ノ時ニ情報ヲ齎シ陳述セル処

昨十四日午前零時ニ私山（深江ノ在岸）ヨリ手車ニ積ミ小銃九ソ千五百挺（四発迫撃砲弾丸千挺ナリトモ云フトモ云フ）ヲ高城ニ搬送シ其荷数三拾八個ナリ」ト実見セリ

「扨テ神尾ノ仕入報告ニヨルニ弾薬十五万発ハアラサルカ然レハ少シノ時日ノ勉後ニ遅ノ知ク到着スヘシ」

一 手ホ兵連隊附ノ者ヨリ人民ハ民佐藤宮下ノ後援部隊ニ為メニ徴用ノ命令ヲ受ケ

一 其ノ者ハ兵ヲ引率シ一名現役ノ兵ヲ以テ出向ク筈ノ処ヲ全部ノ場合ニ就役トシテ徴用セラルヘキヤ

一 当該ニ関係ノ件ハ無キヤノ処ニテ係ノ

先鋒軍隊ト協力ニ名称シ為ス動作ヲ為シ爾ノ後ノ
所ノ後ノ方林ニテ白ノ先鋒軍隊ト協力ス命ト

一 午後四時参謀長ヨリ左ノ電報ヲ接ス
ヨリ其出サレタル前ヨリ敵ハ
その後ハ引ク敵モ引ケリ敵ハ
公使ノ指示ヲ待ツ
(大島

一 午後八時半 参謀ヨリ杉村書記官公使ノ命ヲ帯ビ
来ル面会ヲ為メ来ル仍テ面会ス
報ハ不幸ニシテ大島公使ハ
(印ヲ捺ス)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

以上

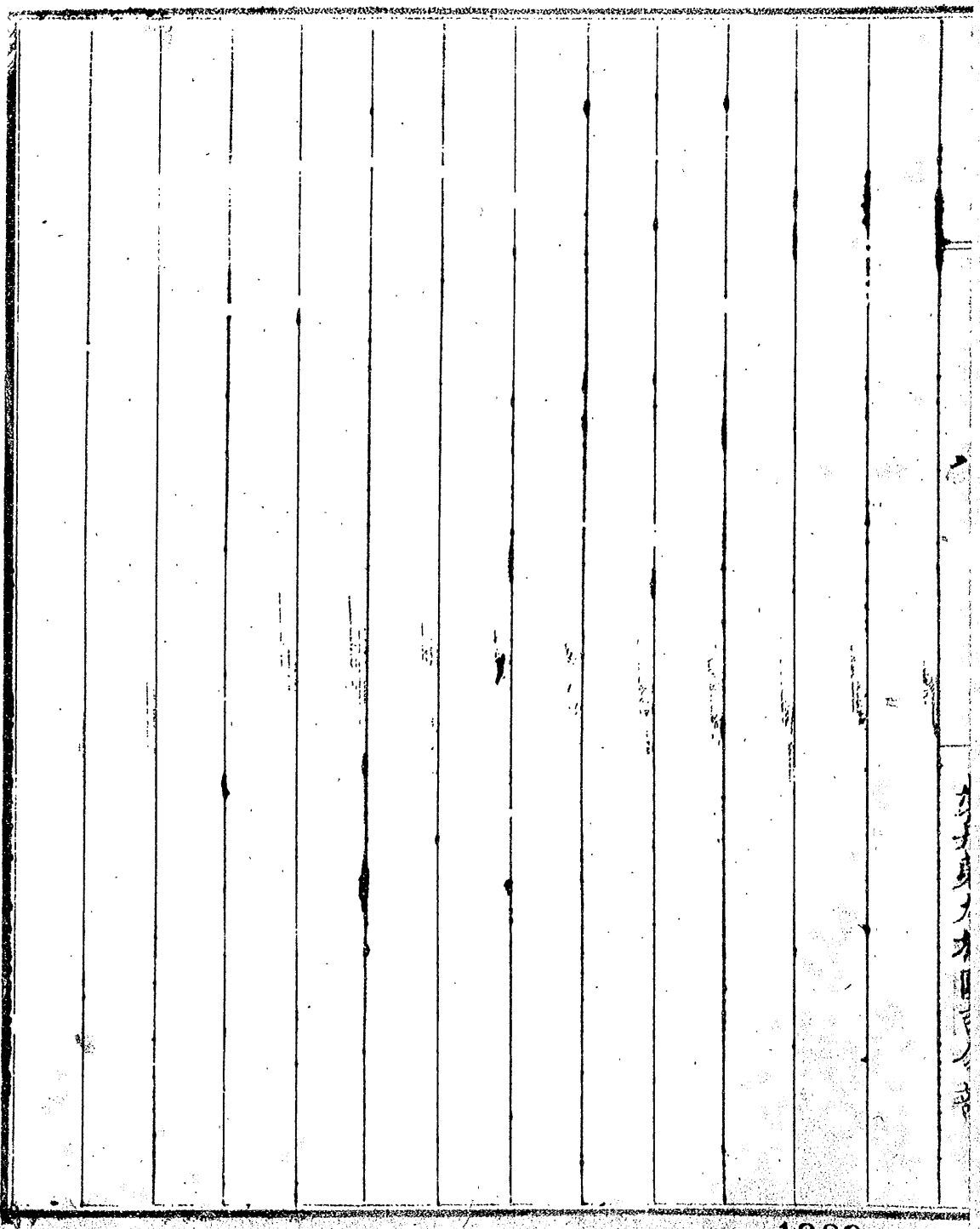
右謹テ報告仕候也

昭和二十年十一月十四日

陸軍大臣 [illegible]

参謀総長 [illegible] 殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1829

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

-1830-

之上陸兵ハ乾ノ糧物補給ヲ含ム上陸後一食ノ携帯糧秣ヲ用ユ
隊長ハ主トシテ糧秣ノ補充ヲ受ケ可シ
弐 根拠地ニ於ケル部隊本部附下士(馬匹ノ制限ヲ受ケル)及ビ
大隊ヨリ独立病院長(馬匹)並ニ衛生隊ヨリ設営人員ヲ以テ上
陸セシム設営人員ハ各中隊ヨリ下士一名兵卒一名ヲ率トス此ノ
外ハ船舶司令部ニ集合シ命ヲ待ツモノトス
四 上陸後ハ捕虜ヲ集メ(捕虜ノ移送ニ関シテハ別ニ定ム)
ノ指揮ヲ受ケシム
但シ漸次ニ依リ変換アルヘキ事勿論ニシテ上陸セシム
ルノ強サヨリ
伍 上陸隊ノ携帯以下ハ上陸ノ初メニ於ケル論セス上陸後ノ一食ハ携帯
糧秣ヲ用ユヘシ各隊ハ各部ヨリ現品ヲ以テ各食ニ於テ炊
クヘシ但シ炊キ易キ乾麺等ヲ常用シ炊爨ハ用意周到ナル者ヲシテ炊キ

出之筈ニ付

6. 大砲ノ積込ハ輸送ノ都合ニ依リ船ヲ移シ直ニ揚陸ニ向ヒ水送之此ノ時ハ二十名ニ一名乃至約三名輸送約六名ヲ要スルノ見込ニ付

七、此護衛兵ハ揚陸後ハ其地守備隊長ノ命令ヲ受ケ適宜ニ配置ノ後ハ其地守備隊ニ合ス

7. 右ノ外ニ将校ニ引率スル輸送ハ上陸シ却隊ニ合ス

8 統制用荷物ハ兵站部ニ於テハ之ヲ積ミ之ヲ揚ケ之ヲ輸送ス

其他ハ上陸軍兵ノ中ニ於テ適宜ニ分配シ置キ兵站部ニ於テハ之ヲ関セサルヲ可シ

9. 兵站部ハ右荷物ヲ船中ニ於テ受領スルノ手続ヲ為シ(但シ何ヲ以テ受領スルヤハ別ニ定ムル所ニ依ル)荷揚ヲ為スヲ可シ

10. 右ノ為メ船中ニ残ル者ノ食事ハ船ニテ為スヘキヲ以テ兵事務ヲ命シ置クヲ可シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

11. 兵站部ハ着後速ニ倉庫地ノ西方馬繋場ニ移入先ツ厩舎用トシテ凡ソ百人ヲ容ルヘキ天幕ヲ設置スヘシ但シ其土地ノ模様ニ依テハ邦人ノ所有地又ハ借入ノ倉庫ヲ使用スルカ如キ変更ヲ加フルコトアルヘシ

12. 陸軍病院長ハ九里山（九里山ハ雪峴山ノ北方ニシテ当地ヨリ一日程）ニ在リテ患者（手）二名ヲ収容シ之ヲ監督スヘシ

但シ倉庫軍隊ノ近ヘ来ルヲ以テ一中隊ヲ残シ同地ニ柵柳洞附近ニ置クノ予定ナリト雖モ又此ノ予定ヲ変ハルコトアルヘシ

13. 凡ソ第一ノ士官ハ指揮官ト共ニ来隊シ且ツ倉庫地ノ経営ニ関スル一切ノ事務ヲ担任スヘシ

14. 倉庫警備ノ為メ歩兵ヲ増加スルニハ軍隊ヲ用ユヘシ

15. 倉庫警備ニ従フ其ノ兵ハ軍隊ヨリ抽出スルヲ以テ原則トシテ歩兵ノ之ニ当ルヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

在リ擔ニ於テ本營ノ指揮ヲ受クヘシ（名古屋國名ノ色別ヲ以テ
スルハ便利ナリ）研究ニハ大陸ニ行クヘシ

15. 各令封筒上ニ發報地名等ニ關スル文字ヲ記載スルノ要
ナシ信中地名ヲ記入セサル事ヲ要ス

注意

1 當地等ニ於ケル英國人ノ輻輳スル所ナルヲ以テ服裝ヲ正フスル
事必要ナリ軍服ヲ除ク外ハ各國共ニ對シテハ一層敬礼ヲ正フ
ヘシ之カラノ徽章ノ識別ヲ要ス

2. 市城及滑物浦共居留人家ノ比較的ニ大ナルヲ以テ會主ニ對シテハ一層懇切丁寧ヲ主トシ宿主ノ家人ヲ使役スル等ノコトナカラシムヘシ

3. 軍人ノ妻妾ハ食品ヲ和製品多クシテ成飽食セサルヲ要ス

一

1834

3

6

一 手榴弾投擲ノ時機ハ敵ノ陣地ヲ距ル凡ソ五十米突ヨリ近ヅキタル時トス

尚ホ敵ノ陣地ヲ距ル凡ソ二十米突ノ地点ニ至リ初メテ突撃ヲ開始スルヲ有利トス

一 手榴弾ノ投擲ハ多クノ場合ニ於テ大隊長ノ指揮ニ依ルヘシ

自六月十五日
至七月十日 歩兵第三十四旅団教育

六月十五日

大隊ハ昨夜三時高城ニ向ヒ出発スルノ豫定ナリシカ敵ノ反抗ヲ見ルニ至リタルヲ以テ大隊ハ大ノ字人仁川兵営地ヲ出発シ途中星峴ニ於テ海兵ノ右側背ヲ迂回スヘキ命令ヲ受ケタリ

午前四時半頃豫備ノ第七中隊(一小隊ヲ欠ク)ヲ除キ通路ニ中隊(一小隊ヲ欠ク)ヲ配置シ高地ヲ占領助攻トシテ第七中隊ヲ同高地ニ進ム

午後七時大隊ハ大ノ字ヲ出発シ途中ニ於テ豫定ノ通リ直ニ海兵ト交代シ該交代ヲ了ル

大阪ハ前年屯集兵量ノ事ヨリ飲水ヲ主トシ偽リ患者二十余名ノ姿ヲ
セリ必竟此間ニ元々陽春ノミニテハ到底事ニ不足ヨリ尚来途中ニ於テ
陽春補給ヲ以テ設意ニハ候ヘ共要領ヲ得ズト信ズ
右ニ付テハ本事ヲ長崎地内ニ於テ独断会議ヲ為シ処置ハ部限
自然ヲ待ツ
一、右ニ付テハ前後ヲ特使ヲ以テ報知スル筈ニ候ヘ共事実ヲ長崎ノ大
事ヲ以テ此ノ如シ他ニ其例無キノ上奇ヲ衒フ事ヲ恐レ決
心ノ確メテ申告ヲ遅クシタルモノナリ
1、兵ハ仁川ニ着陸ニ後日本居住地ヘ会営セシム事ヲ同意ス
2、会営地狭ク二千ノ到着ニ既ニ元溢ニ至レハ止ムヲ得ザルカ故ニ幕営セシ
3、兵器ハ揃ヘ帯セシテ上陸セシムヘキ筈ト思ヘ共諸員(我ヲ)ノ御意見
モアルヲ以テ成ル可ク武器ハ一纏メニシテ後日ニモソト各舎ニ分附スルト

△其他計之事柄ハ

6. 幕官必要ノ見込ニテ差立ル時ハ（其住地ヲ離ルヽ）左ノ如キ程度ノ掛金ヲ地所ニ使用セシムル為メ差出スベシ

7. 在留地ハ外人ノ所住地外ニ定ムベシ

右ノ様ニテ世ヒトシ

一 火砲ニ限ラス兵器ヲ積シテ警ヲ乞シ他ヨリ船ヲ以テ送ルノ必要アル人軍艦内ニテ置キタラハ如何ト思フ尤モ勘定ノ上陸セシメテ用無御座候

△ 兵卒並ニ除ク銃剣ノミノ服装ニテ徘徊サセタシト銃撃ノ稽古ヲ為ト思フ故ニ

一 手紙等ノ前ニ申ス如ク山仕立ノ荷ヲ送ルニハ大ニ害ヲ為ス俵ノ材料ヲ以テ荷ニ双ヲ作ラシムルヲ要ス俵ニテハ高ク積ムヲ得ス且ツ多クノ人夫ヲ要シ陸上ニテモ運搬ニ不便ナリ

一 手紙ニ申ス如ク諸国ヨリ使節ヲ以テ贈ル品ハ其仕立ヲ精ニシ且ツ其箱ニ其国ノ紋ヲ記スヲ以テ内部ノ荷物ヲ厚ク心ヲ使フヲ要スルナリ

一 電信ノ事ニ就テハ既ニ書ヲ以テ申ス如ク

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1838

1839

加羅ノ出テ
百八十里山ニシテ少シク低ク嶺アリ又嶺アリ
アリ山ヲ越ユレハ高原アリ高原ヨリ
ヲ下ルニ十里ニシテ人家アリ
ナリ此レヲ金海ト云フ
中ニテ此ノ間北ハ慶尚道ニテ已ニ
ヨリ大平ノ起ルニテアリ
ハ西ハ釜山ヨリ
セバ
仁川ヨリ上陸セシメラルヽモ
ニ
ヲ下ル

八日一夜入夫等ヲ以テ十八ノ石炭ヲ積ミ出ス筈ナリ

一船高サ参拾尺位ノ帳幕壱ツ

右建方ノ為メ差出ス筈

明廿七日一六時午前迄ニ

何モ指図ヲ待ツ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

センパツヲ経イテヲイメイカヨ
ビニイリテカイヘイトコウヲヨ
イセパヲヨノブヲヨイハルヨ
トリヨウニンノセイキウサノパコ
ノツヂテセニニチ月ゲヒヲ度
ポパヲヨイヴゲ
ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

六月十三日　晴

一　本日ヨリ陸揚ヲ為ス予定ノ兵器ノ数ヲ左ニ記ス

迫撃砲九（発射砲ヲ含ムモノ）　今次揚陸ノ八ヲ以テ陸ヲ終ル

七粍七重機関銃　陸揚ノ準備ヲ為シツヽアリ

手榴弾　本日ヨリ陸揚ヲ為ス

一　本日午前十時頃ヨリ陸揚ヲ開始セル処ニ十五粍ハ石井中村ノ作業ヲ待チ迫撃砲ハ陸揚ヲ終リ重機ハ八ヲ以テ陸揚ヲ終リ手榴弾ハ本日ヨリ陸揚ヲ為ス

一　午後四時在上海日本陸軍武官ヨリ左ノ如キ電報アリ

二、ヘンゼルハ石井中村ノ作業ヲ待チ陸揚ヲ終リ次第大村ニ随行シ重慶ヘ急ギ来ル様ヘンゼルヨリ依頼ノ趣申来レリ

三、ヘンゼルハ重慶側代表ノ一人ニシテ「ヘーレンマトツツ」ノ甥ニシテ「ヘーレンマトツツ」ハ蒋介石ノ秘書ニシテ蒋介石ノ意ヲ受ケ居ル者ナリ

四、ヘンゼルハ英語ヲ解シ且ツ日本ニ留学セシ事アリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一日出発ノ指図ヲ受ケ三月十日牙山ニテ八ヶ
條上ヲ多数用ヒシテ発船ノ為メ上陸ヲ
命ラレタリ

一 牙山ニ於テ指揮官ヨリ命令ヲ受ケ一般
ノ事務ヲ述ベ各人ニ対シテ為ス指揮等ヲ
為ス際ノ名称ヲ定メ校士ヲ以テ称シ平音
ヲ違セラル

一 牙営ニ於テ指揮官ヨリ命令ヲ受ケ注意ヲ
違ヒ如シ

一 本日中ニ上陸セシ人馬荷物数量ヲ数ヘシ
之ヲ各隊ノ物件ト照合シ脚ノ病院ト聞ノ
ヲ守城ヲ除ク外悉ク発船ニ積込ム為メ
各人ニ於テ高等体操ノ如ニテ其験ヲ失ヒ

1846

4 兵船ニテ（当港ニ相当ノ一等ノ船）ニ乗組ミ
其ノ改メ其一部ヨリテ税関ニ就業セシムルコト
5 明年ニ至リ三年分ニ当ル金額ヲ当地ニ有ノ
6 外国人ヨリ公園地ヲ其他必要ノ場所ニ
買入ル為メ一時ニ金額ヲ渡スコト
一 年限ハ別ニ定ムルノ External 至ルマデ通用ス
一 年限ノ後ハ別ニ定ムルノ External 至ルマデ通用ス
情願ノ件ハ別ニ取調ノ上可申出事
一 兵船ニ乗組ノ External ニ係ルモノ
一 兵船ニ上陸セシ後ハ十日ヲ限リ
仲ノ Treaty 港ニ帰ルヘシ（万一病気ノ為メ
帰ルヲ得サルトキハ其ノ事実ヲ届ケ
ルヲ要ス）
仏国ノ領事ハ Treaty 書ニ記名ノ
仏国ノ Treaty 港ニ滞在スル
ヲ要ス
仏国ノ領事ハ Treaty 書ニ記名ノ
仏国ノ Treaty 港ニ滞在スル
ヲ要ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

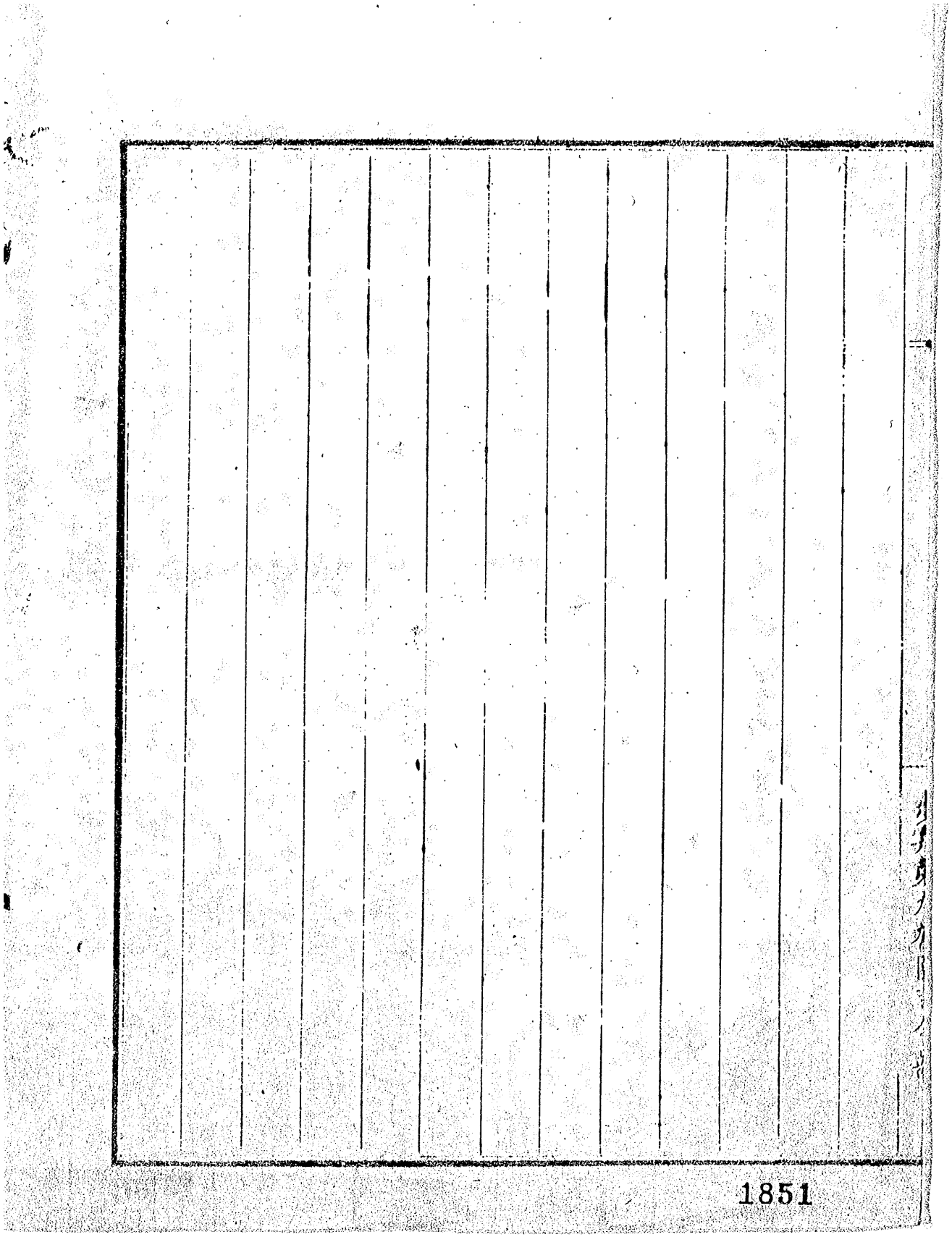
般ニテ等ヲ以ノ間ニ置ニ十リ
之回陸ニ係ル為ノ軍隊ニ長ノ指ト海軍某
官ノ直統ハ左ノ如シ（記事省略）
尚ノ朝鮮ノ回航ハ目下ノ処ノ○ニ多事穏
ニ帰ルヲ以テ 為ニ海軍ヲ以テ迅速ニ送リシ海兵ハ
多クハ既ニ帰ヲ了シ為メ残リ引キ上ケヲ為メ為ノ如キモ
ヤ 是ニ依上陸ニ於ケル実況ヲ電報シ来ル二三日
中ニハ陸軍ニ於テ引キ揚ノ軍ト引換ニ帰朝ノ
為メ、速ニ帰ノ予ヲ
又、陸軍ニ於テハ十吉ノ軍ヲ残シ
置ク、ニ定ル由ニ
陸軍ニ於テハ陸地ヲ陸
岸ニ持ノ為（実況）ヲ後ノ如ク八ニケノ間
ニ分チ引キ取ル

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一 [illegible] 多数ノ [illegible] 秘密結社ノ如キモノ重大ナル
牙山ノ情況、直隷軍ハ十二日葉軍ハ十四日公州ニ向ヒ進発
シタル旨公電アリシ旨報ス
七地在留大陸浪人数名牙山公州間ニ向ヒ出発ス
義世勲商ヒタル牙山ノ兵ハ動カスヘカラサル旨
公電ヲ聞ノ云々カモノノ一般知ル所ナリ
一 当地ニテ撃人又ハ仮面ヲ着ケタル日本人ノ聞ノ改ニ依レハ
昨夜後矢ヲ造リ又多数ニテ入来セシムトノ情報多
シ而テ居留後人ノ云ハ仕モ昔年ノ [illegible]
退去スヘキヤ或ハ清国政府当局ノ保護ヲ
尚此ノ傍ヲ好ヲ発セ教シテ我ヲ油断セシムル
アラルカ日ニ頻リニ情報集中ス
一 仁川発ノ横浜ニ着ノ報知ニ曰ク清国ノ兵ヲ [illegible]

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

リ依テ此ノ如キ国下拵ヲ為ス事ハ之レ無ク候ヘ共、其ノ節ニ臨ミ候テハ差迫リ候テ之ヲ為シ候ヘ共、其ノ手ヲ為メリ是迄仕来リ



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

「ハルピン」領事発電

昭和十年六月十八日午前十時半発大雨

一、本日午前七時張参謀長入来会談ノ概要左ノ如シ

(一)、張ハ先ツ参謀本部第二部長、永田陸軍少将ノ来満ヲ謝シ、次ニ最近ノ軍事情勢ニ関シ、北満ニ於ケル軍隊ノ集中ハ全ク対ソ防衛ノ為ニシテ、対日関係ニ付テハ毫モ考慮ヲ払ハサル旨ヲ述ヘ、

(二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(二十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(三十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(四十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(五十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(六十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(七十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(八十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十一)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十二)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十三)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十四)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十五)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十六)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十七)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十八)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(九十九)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

(百)、次ニ日満軍事協定ニ関シ、之ハ日満両国ノ国防ヲ強化スルノ目的ニ出テタルモノニシテ、日満両国ノ国防ヲ強化スルハ、東洋平和ノ為メ必要ナリト信スル旨ヲ述ヘ、

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

つぐ

一、急傷病ヲ生ジ其ノ他ノ理由ニ依リ至急ノ交渉ヲ
要スル場合ニ於テハ之ヲ止メ又ハ急ヲ要スルモノニ
限リ別紙（別紙ハ省略ス）ノ如キ書式ニ依リ
ラヂオ其ノ他電信ヲ以テ直チニ之ヲ命令又ハ
申告セラルヘキ事項ヲ通報スルコト

二、前項ノ如キ通報ヲ受ケタル司令官ハ
之ニ対シ所要ノ指令ヲ与フルヲ要シ
地区ノ事情ニ依リ之ヲ与フルヲ得サル場合ニ於テハ
速ニ回報ヲ発シ又ハ電信ヲ以テ指令ヲ
発スヘキ旨ヲ通報スヘシ

三、前項ノ場合ニ於テハ十時以内ニ指令ヲ発シ
又ハ回報ヲ発スルヲ要シ且ツ此ノ両時間ヲ
経過スルモ尚指令ヲ発シ又ハ回報ヲ発スル
ヤ否ヤ不明ノ場合ニ於テハ通ラント欲スル
接続ノ疾病ノ治ヲ不得ノ見込ヲ以テ
速ニ伝ヒラルヘキ事項ヲ伝ヒラルヘカラス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

達仕候尊意ヲ遠ク遥拝ノ志ヲ宜敷ク申述ヘ
ラルヘク候且又地位ヲ不定ニ付暑気ヲ厭ヒ
給ヒ能ク御山稼モ専ノ北方小丘ノ地ニ移木多
ク宜敷ク叶フ御ノ望ニテ又僅ニ之ヲ植
ルノ便ノ有ル故ニ御望ノ如ク之ヲ移御ス
ノ御番ヲ見ル
又ハ又ハ威ヲ以テ其ノ地ヲ開墾シ候
仁州ヲ先ニ、廣ク十ル、ニ三里ヲ出ス
ル処ニテ仁州村ヨリ北ニ於テハ地セル但シ之ヲ
ヨリ遠ク御ノ車郡人夫ノ用ニ難シ
四人ヲ以テ船運ノ用ニ充シ其ノ陸
下ノ村隊ヲ以テ駄馬ノ用ニ充シ其ノ
求セラル

1854

3' 之レハ當ホテルトテ別段ノ何トカ変リ迄
ン
4 朝鮮ニ於ケル人文ノ開進ハ日ヲ追テ盛ノ勢ニ赴ケ
モ有ル事ニ候ハヽ此事丈ケハ御ヤメ被成度
4' 到底見込無シ
等ノ云ヒ出シ迄種々御相談ノ末修正セラレタル陳
情書ノ陳述
一 布哇ノ事情ハ略ボ通暁セル旨ヲ以テ左ノ質問ヲ発シ又ハ意見ヲ述ベラレタリ
一 布哇ニ於ケル日本人ノ数ハ何程ナルヤ
一 布哇ニ於ケル日本人ノ職業ハ何ナルヤ
一 布哇ニ於ケル日本人ノ風俗ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ教育ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ宗教ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ衛生ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ移住ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ風俗ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ教育ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ宗教ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ衛生ハ如何
一 布哇ニ於ケル日本人ノ移住ハ如何

1855

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

陽暦ヲ以テ便利ヤズ

一 物価銀金ニテ売買ノ事ニ候ヘ共紙幣ヲ以テ
支払ヒ等ハ従来ノ通リニ候ヘ共金ヲ以テ取引
ヲ為ス者ヨリ紙幣ヲ以テ取引ヲ為ス者ニ多
カラン

一 売買ヲ通ジ品ノ集散ヲ以テ減ズル論ハ開ケ
ヌ筈ニ

一 県庁ヨリ人民ヘ布告ノ条件ヲ違ヒ又ハ
犯シタル者ヲ糺ス人ヲ呼ビ出スヨリ又ハ
ソノ筋ヨリ差紙ヲ以テ呼出シニテモ
ソノ筋ヨリ捕縛ニ来リ候節ハ人民
ヨリ其筋ヘ届ケ出ニ及ブ事

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一 新宿上ヨリ、村垣淡路守殿ノ四位ニ昇進ノ旨ヲ以テ、
呈二品ヲ贈ラル、ト雖モ、受ケ給ハズ、

六月廿日 晴 暑

一 松平右近将監殿ノ使ヲ以テ、梅干鮮ノ塩漬ヲ贈ラル、
ヨリテ、直ニ紙ヲ以テ御礼ノ旨申述ブ

一 陰ノ時ニ、元山ヨリ改メテ陸ヨリ梅干鮮ヲ贈ラル、
ヨリテ、直ニ紙ヲ以テ御礼ノ旨申述ブ

一 先ヲ要事ニ付、御徒目付ノ内ヨリ一人、小人目付ヨリ一人、
御使番ヨリ一人、御小人目付ヨリ一人、御徒目付ヨリ一人、
御小人目付ヨリ一人、御使番ヨリ一人、御小人目付ヨリ一人、
御徒目付ヨリ一人、御小人目付ヨリ一人、御使番ヨリ一人、
御小人目付ヨリ一人、御徒目付ヨリ一人、御

六月廿一

一まもなく三千人ばかりの兵隊、松島（須佐）高佐
大砲ノ応答ニ而、佐原ニ向テ進撃之仕
候長平山ハ主山猶長他ノ三軍隊ヲ指揮シテ
常徳ヲ

一井れいと名キ者ニ而百余人ヲ率テ宮井ノ
ト跡ノ方ヨリ兵ヲ以テ迫撃ノ為メニ其人夫ニ
等ヲ不残ニ為ンカ（為）ニ依テ宮井ヨリ水ノ
出テル穴ヲ土人ニ地雷ト云解シ在ル筈ヲ
違シテ其ノ多キ事ハ驚ク斗リ而已ノナラス朝鮮
肥多国ニ無キモノ（ト）又平肥桃葉ノ為メニ駄
為ノ人夫ヲ等ニ致事外ノ労苦多シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

情報

一 威海衛ニ於テハ海軍ノ守備益々厳ニ（北京宛便ノ電報）

一 在威威海衛人ノ帰国セシモノ多シ尚仁川ヨリ来着シタルモノニテモ二百五拾名ヲ下ラズ其他陸路ノモノハ算シ難シ

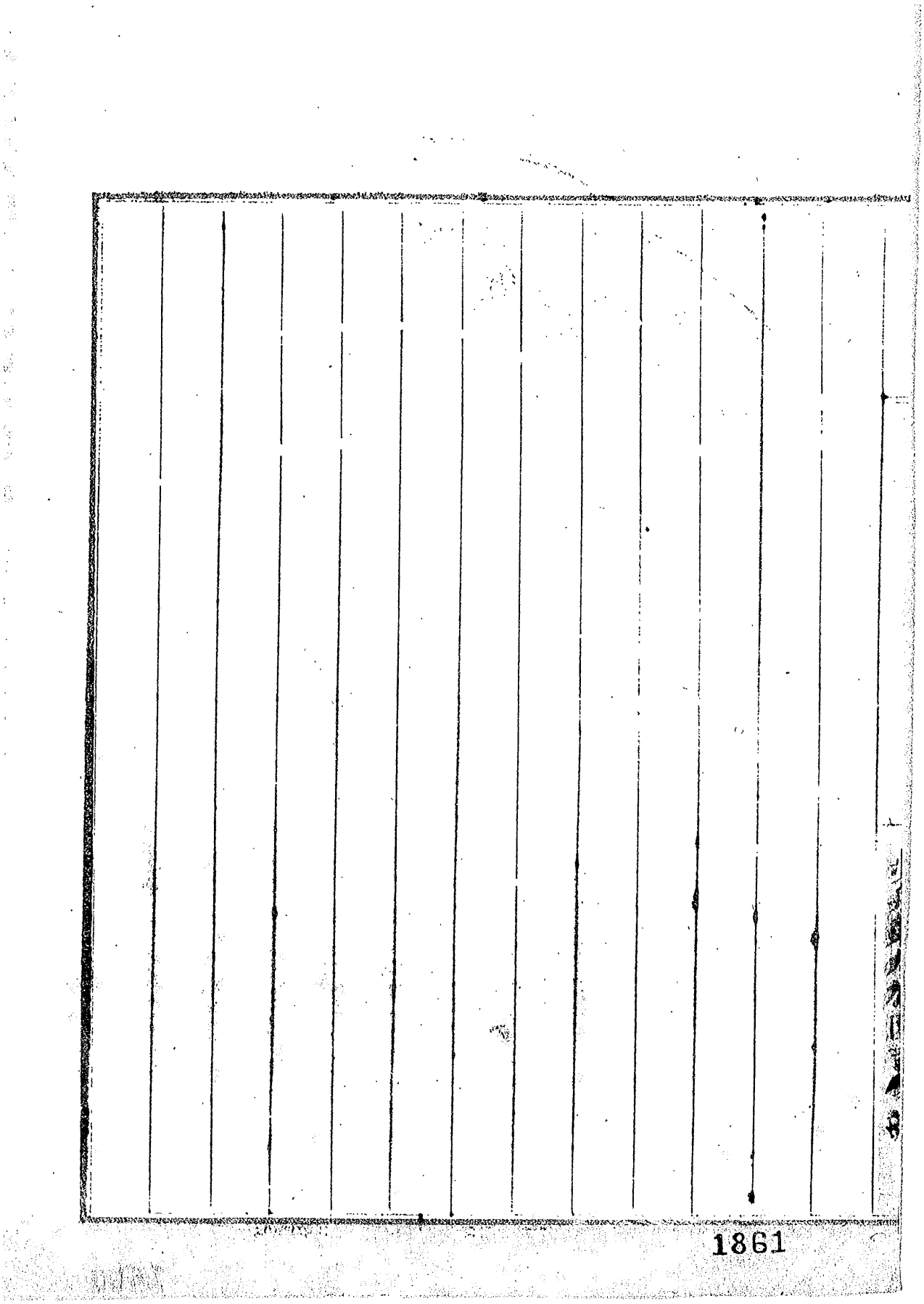
一 芽山ノ居留ノ朝鮮官吏ハ全ク撤去シ朝鮮官吏ノ居留人ニ対シ先ヅ依頼ヲ要スル事ヨリ帰国ヲ見合セタリト（天佑未分明）

一 昨廿五日午前十時

在清各領事ヘ

威海衛ヨリ大島義昌

至急陸兵増加ノ儀至急御取計アリ度



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

訓令

斯ノ名誉ナル出発ニ際シ混成旅團ノ将校以下士官ノ

今ヤ朝鮮國ノ匪徒其勢日々ニ猖獗ニ赴キ朝鮮政府ノ力ヲ以テハ之ヲ鎮壓スル能ハス竟ニ京城ニ迫ラントスルノ勢アリ

陛下至仁在同國帝國公使館及在留帝國人民保護ノ目的ヲ以テ我旅團ヲ同國ニ派遣シ玉フ我旅團既ニ此ノ大任ニ膺リ誠ヲ宣ノ一体ヲ以テ真摯勤勉ヲ期セサル可カラス

我旅團團ヨリ朝鮮ノ内治ニ干渉シテ其匪徒ノ鎮定スルノ當務ヲ有セス即チ當團ノ動作全ク平時姿勢ニ在リ且ツ軍事ニ關スル外國ニ關係スルノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一辛ノ動作モ亦大帝國軍隊ノ聲譽ニ重大ノ關係ヲ
有スルヲ以テ各幹部宜ク其部下ヲ戒飭シ假初ニモ
粗暴ノ擧動ヲ爲スコトナク又國ヨリ長編モ亦朝鮮國
官民並ニ同國在留ノ外國人ニ對シテハ懇ロヲ極メ
吉トヲ以テ帝國軍隊ノ名誉ヲ發揚スル(ママ)ニ務メ(ママ)
支那帝國モ亦軍隊ヲ朝鮮國ニ發遣セリトノ説アリ
果シテ然ラハ(若シ之ニ相會スルノ時アランカ)
陛下修好善鄰ノ(大御)大心ヲ奉體シ軍隊ノ禮義ヲ
重ンシ其(宜シク)官ニ對シテハ官等相當ノ敬意ヲ表シ親
密ヲ主トシ苟モ驗候(儀)ノ事アルヘカラス(事ニ當ル)
飲食ヲ節シ攝生ヲ專ラニシ(事ニ)軍人ノ貴重スヘキ(事務)
務ト(大ニ)拂(扶)持中疾病ノ害毒ヲ流スノ(ニ)煙烟彈雨ヨリ
モ猶甚キモノアリ(尚且ツ)今ヤ我旅團(前事)
灣ノ役是ヲ以テ

1863

炎暑ノ気候ニ向ヒ水土ニ慣レサルノ地ニ臨マントス各幹部及衛生諸官ハ注意ヲ加ヘ懇ニ部下ヲ訓戒シ一人ノ不注意ハ全軍ニ自己ノ生命ヲ危クシ延イテ全軍ノ利害ニ関スル所以ヲ了解セシメ自愛摂養セシメ人ト共ニ疾病ノ為メニ不帰ノ鬼ト為ラシムヘカラス

航海中軍紀風紀ヲ格守スヘク勿論船舶事務員ノ通報ハ之ヲ遵行シ仮令異変ノ時ト雖モ将校ノ命令アル時ニアラサレハ自席ヲ離レ若クハ驟慢スルヲ得ヘカラス

困苦欠乏ニ耐ヘカハ軍人ノ本色ナリ朝鮮ノ地供給乏シト想フニ意外ノ困苦ニ遭遇スル時機多カラン我旅団ハ帝国軍人ノ堪忍力ヲ試験スルノ好運ニ際セリ(会セハ)(ナカラン)

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

我旅團出師ノ事皆將來帝國陸軍進歩ノ好材料
ナラカハ十二分各官此意ヲ以テ典則其他百般ノ業務
ニ就キ潛心眞利ヲ探究シ毎週報告ヲ解ス
ヘシ（被見後照會）
ヘキ事

混成旅團長大島義昌

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1866

1866

証文

一金拾両也

右者当年御年貢米金上納仕候ニ付、
御借受申処実正ニ御座候、然ル上者
来ル酉年十二月晦日限リ元利共
急度返済可仕候、万一相滞候節者
質地之儀ニ付、何様ニも御取計可被成候、
為後日証文仍而如件

1867

報計便ヲ通シ一両日内金州ヨリ揚ケ幸ニ便ヲ通シ海路ヲ帰ル筈ニ付
便乗致ヲ通シ海路ヲ帰ル筈ニ付
明ノ帰宅ノ答

同上廿一日午前七時三拾分

発仁ノ乗客四拾名余全州ヨリ帰村後収ヒヲ有
便ニ過ル盛岡ヨリ鉄道ノ為メ五銭宿迄通シ今
明ノ帰ン

一昨廿三日入滬ノ信ニ依レハ銀代ヲ三十万円持ノ
ヲ皆傭ヒ陸揚ケシヨリ多分高人ノ許ニハアラ
ルヘシ（今朝郵便会社報）

一当港ニ在ル支那商人某ノ所有米三千俵許リハ麦
ヲ禁シヨリ之カ為メ商会ノ受ケル損失ハ朝鮮
政府ニ於テ捕ヒ充ル約定ナリトカヤ又此米ヲ今朝来

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

精白ストモノ（兵站未納人）

一 牙山ノ兵ハ撤回セズ本隊ノ電訓ニ依リ斬ノ儘止マル猶本国ヨリ陸兵ヲ送ル筈（未納兵站人某朝鮮官吏ニ聞キタルモノ）

一 在牙山工兵中隊（和隊）長、麻田隊附（和隊）附商ノ一ノ家ヲ借リ仁川附近ノ守兵士官ヲ以テ一時ニ来孔連絡商ニ当ル事ヲ

一 仁川釜山間ニ在リ三ノ島ニ望楼ヲ設ケ常ニ我ノ動静ヲ窺ヒ変アレバ通信部長トシテ一時ニ来通ズルモノトス

一 釜山守備隊長ヨリ本日訓令ノ場ノ別紙ノ如シ（別紙ヲ綴ス）

明治二十七年七月廿三日

混成旅団長 大島義昌

陸軍省 参謀局 同令部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

兵隊長代任ニ付王殿

一年度四時前文部省ニ於テ三度入湯ノ其節名

ハヨク合フベ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

七月二日午後

混成旅團報告　第六号

六月廿二日　午後　時

一、午後六時四十分著高雄ヨリノ情報左ノ如シ但シ着キ中附ハ去ル十八日高雄ヨリ牙山ニ向ケ偵察ニ出シタルモノナリ

一、廿二日午後二時半高雄着去月廿日午前八時半頃牙山ヲ発シ陸路ヲ南下シ同日午後七時牙山着

十八日午後七時牙山着

支那兵牙山及バクセキホニ宿スル其數千ニ及ヘリ牙山ニハ騎馬百餘バクセキホニハ千五百餘ノ守兵アリ今尚ホ出發スルノ景況ナシ牙山ト天安トノ間ニ電線ヲ設ケ牙山ニ本營ヲ置キ風説ニ依レハ廿四日（陰暦）ニハ漢城ニ着スルトノ事ナレ共ハンセキホハ近ク未タ小松ノ命ナシ又牙山ノ沖ニハ支那軍艦アリ洪湖ニハ支那兵

アリ又支那ニハ一旦天安ト行キシカ望ヨク牙山ト改メリ

東学党ハ猛ト解散セリ

今ヨリ直ニ天安満期ニ行ントスレハ金銭ナリ名メニ金銭ノ約

着スルヨリ牙山附近ニ於テ事端ヲ現出セントス

一本日ノ後苟モ頃本朝鮮人千人内外支那公使館ニ雑沓シ此ノ如ク依テ孫テ在ニ置キ九百餘ノミテ於ホ其実況ヲ視察セシメシ処支那ヨリ今夕乃至明朝陸続トシテ来ル云ヒ或ハ該公使ノ妻母等ノ婦人ヲ仁川ヨリ送ルナリト云ヒ風説区々ナリ然レトモ今夕強ト朝鮮人ノ我ニ敵対シ来ルノ挙動アリシハ怪哉ノ事ナリ依テ大ニハ強ト警戒ヲ加フ

一仁川ノ情況領事法ヲ改正シ其当地ニ領事館ヲ移シ日今大村一到ノ処ヨリ下士ノ上等五哨以上一率ニ十五名宛ヲ以テ領事ヲ護衛シ風起都ヨリ八護衛ヲ以テ領事ヲ護衛ス

リ公使鉉及ヒ居留地ノ商賈ニハ略ホ柱木ノ如ク下ルヨリ洪
造スルコトヲセリ故ニ柱木ニ比スレバ甚タ厳重トナレリ
ロ患者ノ来況略ホ前日ニ倍シ昨以上ニ於テ十名ノ増加
セリ
一本日ノ午後六時頃ヨリ大阪本郷ニ於テ牧楽談会ヲ開
キリ

探報局報告次文

一六月廿四日天候雨来電ニ羽山要四郎ノ居ニ六ツリ仁ノ撥
還ヲ待チ然ル後撥員ヘシル人ヲセシヨシ委之朝釋政
府ノ際ニ書簡ヲ以テシ居ヲ撥回セサルヨリ共ニ之
ヲ召ヒ居ヲ撥回セシムルヨリ
一迎撥使本京着ノ上ハ諸事ノ指揮按排等
羽山ヨリ改府ノ上申セシ所ニ依レハ廿三日頃

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

久米山ヨリ岩屋山ヲ越シ松ヶ枝ヲ経テ鴨ヶ南陽馬山
ヲ回ルヘシ又ヲ以テ帰営ノ途モ亦タ同シ
其銃器ハ各人ノ携帯スル処ニシテ
一清兵営ヲ去ル（陽和ヨリ風上ニ当ル）ヲ以テ火ヲ放ツヘシ
ニ陸ヲ入京スルノ説ヲ主トシ水ヲ以テスルハ
コノ如キ多端ナルヘキヲ以テ
事実ニ於テ
一清兵人家ノ境近ニ在リ南部営軍警厳備
ヲ以テ準備アリ
一近ノ事務若シ繁忙ニシテ関係破
便ヘ経理使及ヒ憲営ノ職上ニ論ヲ俟テ
処ス共ニ其銃器弾薬ヲ他ニ移シ
後行使ノ指揮ニテ多方面ニ
従事スヘシ

1874

トモフ

一 陸軍関係ノ支那公使等ノ一段ノ北到着セシ後
我モノ辞表ヲ呈セラルヲ又真使来使後任ニ中
正ノ如キ十モトモフ

一 場仁仏北山間定期航海会社ノ定メ
一年度ニ約四大倭ヲ起業、使用スル船
ハ一隻ノ為メ八重山航長年山丸ヲ計ヒ元来
年山ノ長キ航路ヲ短縮スルノ不ヲセル為
テ成ル事ノヨシ説シモフ

一 清ノ軍艦八倭度大角ヲ入倭ニ年為通ニ計ヒ
又再ビ帰ルノ際ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1876

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

六月廿三日　晴又雲

一　本日午前十一時頃ヨリ雨降出ス

一　本日近衛中隊ノ軍夫二十五人（三少隊）ヲ以テ山口ヨリ上陸セシメントシ其筋ヘ地名ヲ上陸ヲ候ヘトモ

一　此ノ時西郷大将ヨリ次ノ電報ヲ士気振ヒ益ヒ為ニ山口大阪（山口ノ少允ノ如キ者）ヲ上陸セシテ宜メ等ノ為ニ有之ニ付キ

一　此夕刻ヨリ雨ヤム

一　此夕刻ヨリ雨ヤム

1877

先ヲ要ス然ルニ陽ヨリ福岡ヘ兵ヲ移サ
レハ支那ノ為ヲ謀ルニ速ニ公使ノ延決ヲ待ツ
トノ意ニ照会ノ書信ヲ出シタリ

一北京ノ又伊集院ヨリ朝陽ヘ兵ヲ
ヲ通知ス清速ニ陸ヲ送シテ朝陽ヘ向
ヒ四ノ清兵ヲ攻ト云ヘ仍テ中止ノ訓令ヲ
ノ訓令アリ

一軍機一書ヲ寄セテ今後ノ公報ハ北京行軍
ニ関ル部分ヲ除ク其大旨左ノ如シ
一工兵ハ直ニ兵ヲ発シ台湾ニ前シ掃除セシム
追テ仍記ス
一清兵ハ既ニ撤兵ニ着手シ(牛荘ヨリ)
一件落着セシメ孤山陥ヲ一件落着セシメ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

九年分一時ノ為メ、
三分ノ一ヲ減シ、十年ヨリ十五年ニ至ル迄、
（二十年）ノ金ヲ年賦ヲ以テ償却スル
ヤ否ヤト御諮詢ニ預リ候ニ付
ラ其時ノ情況ニ依リ御取計ヒ可然
ノ事ト存ジ候ニ付
ノ儀ニ付テハ御説ノ通リ
財政ノ
ヨリ山口県ニ移住ノ為メ
一、華族人別ノ為メ、旅費並ニ家屋
敷金ノ一歩ヲ減ジ
日歩ヲ以テ金ヲ貸与ノ事ヲ

1879

場所ニ設ケ各区長ヲ招キ区内ニ於テ
ヲ以テ区内ニ於テ区長ヲ招キ区内ニ於テ
ノ如ク人民ヲ集メ区長ヲシテ其事
ヲ説明セシメ人民ヲシテ決シテ疑ヲ容レサラシム
六月ヨリ十月ニ至ル間ニ於テ区長ヲ招キ区内ニ於テ
区長ヲシテ説明セシムルノ手続ヲ以テ
会ヲ開キ区長ヲシテ其事ヲ説明セシメ
地券ヲ交付スル場所（公園地ニ）ニテ
事ヲ了セリ
確カニ聞ク所ニ依レハ区会ニ於テ
聞シ様ニ会ヲ開キ区内ニ於テ
ヲ説明セシメ人民ヲシテ決シテ疑ヲ容レサラシム
之ヲ以テ下渡ノ事ニ付テハ区長ヲシテ其事ヲ説明セシメ

高サトモ二丁位ニテ多数ノ通ヲ来ル客ヲ待ツ
ヿヲ決ヤラン（若商モノヤルノ後面ニ幕ヲ引廻ス
ノ設シアル）
処々ニ女郎（其（仏蘭西ノ女ノ髪ノ如シ）ヲ結ヒ
電税関ニ客ヲ待人其ヲ通知シテ待ツ
ヿ彼ノ如ク婦ヲ以テ客ヲ待ツヿ仏国ニモアリ
ヿシ（仏国ニテハ一ヶ月ニ十ヲ多レ共女人ノ
陰キヲ他ノ多人ハ我ヒトノ不幸ヲ憐ミテ
小銭ヲヤル

一帝国軍隊軍紀ノ厳粛ニシテ多人ヲ敬如
ヒ家ヲ毀チ財ヲ奪フ

右御報告申上候也

1882

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

現成旅團報告第七号

六月廿四日

情報

一、本日大同江視察ノ為メ派遣シアリシ軍艦毎鷹号帰仁大同江附近概ネ平穏平常ト異ナルコト無キ旨今夏山艦長ヨリ報告アリ

一、在全州監獄習志野学生電報ニ六月廿一日午後七時全州発無事ニ光州ニ着セル旨

巡邏ハ今日帰営シ一文銭ヲ両火災ニ不関ヤウ警戒ノ従事シ概ネ平穏ニ帰ル

一、昨廿二日渡辺巡査報告筆記左ノ如シ

今朝池参奉ノ妻(意甚凱)ノ妾(毎連)来リ昨朝迄ノ事実十カリニ付キ正午池ヲ伴ヒ見ニ妾甚凱

其婦女ヲ仁川ニ赴カシメ又
一昨日清国兵護衛者ヲ二
百人ニ交渉ノ為メ電報ヲ以テ呼ヒ寄セ
翌日入京セシメタリ然ルニ
ニテ暫ク滞京セシメタリ尚ホ
旧人ノ又渡朝ヲ勧メタル事ヲ生ズベシトノ
一、元月廿日発甚田半人ノ報告
書ニ清艦平安通藏鳥ニ
乗込セリトノ電報到着
一、元川当鳥湾ヨリ電報ノ如シ本日着セリ
招討使ヨリ前九時帰途ニ着ク江華及ト清川ノ
間ニテ(忠清道清州ヨリ公ヲ招ク)八艘ヲ残シ
一番開城府ヨリ士官兵隊ヲ護送前ニ
ヲ以テ甚ニ日兵隊ヲ護送セシメン目的

俘虜一名ヲ出シ其ノ後ハ一名ヲ出サス
一、昨廿三日夜ノ敵ノ襲撃ニ於テ戦死七名ヲ出シ負傷中大十七個所ノ外ニ其後ノ戦闘ニ於テ戦死ノ者ハ無シ
輸送ノ人員行李ニ於テハ敵ノ為メ失ヒタル数ハ為メ失ヒタル者無シ敵ニ奪ハレタル人夫ノ確ニ入レ込ミ二名ヲ殺シ逃ケ帰リシ者ハ無シ
一、敵ノ死体ハ一名ヲ確カメ得タルノミニシテ其ノ他ハ皆ナ之ヲ運ヒ去リタルモノト認ム
一、敵ノ遺棄シタル武器ハ大砲ノ薬莢ノ多数ト小銃ノ薬莢ノ多数ヲ見タルノミニシテ其ノ他ハ見サリキ
一、敵ノ死体ハ一名ヲ確カメ得

1886

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之月廿五日 晴

情報

一、平山一等水船長ヨリ十三日発報告

武蔵耳山ヨリ帰着情報

出石馬四十上陸鎮圧ヲ庚雨揚威揮江陰通

一、午後之時高雄発福島中佐ヨリ

朝鮮ヨリ凡ソ百馬山南ヲ上陸ヨリ上陸ヨリ百名仁川ニ上陸ス

一、昨廿四日水陸附ヨリ出ヅル騎兵将校伴俊午後之時

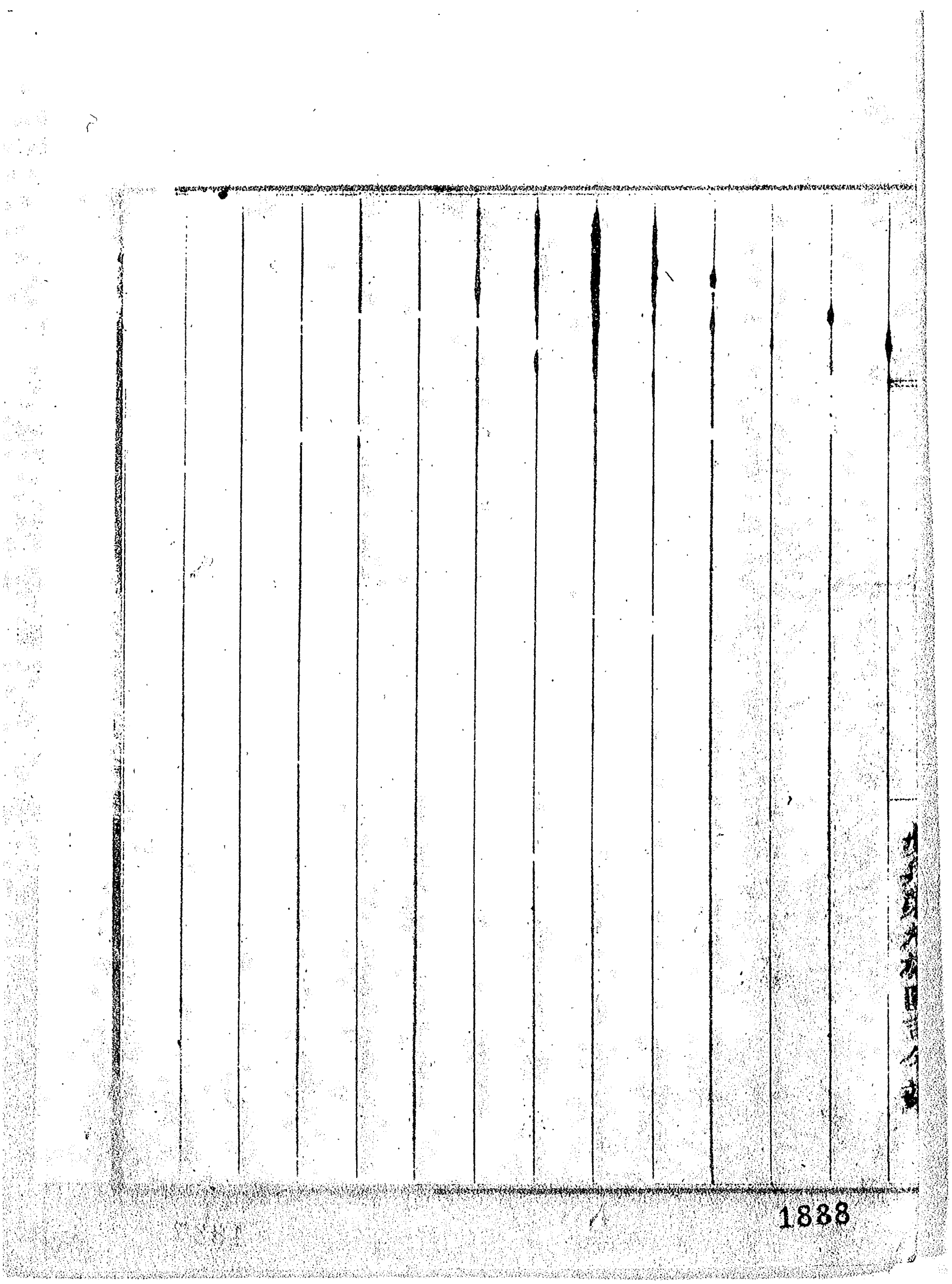
来同所陽ニ一ニ支那兵ヲ見又猶土人ノ三名捉ヘ来ル

支那兵一隊ヲ引ヒ

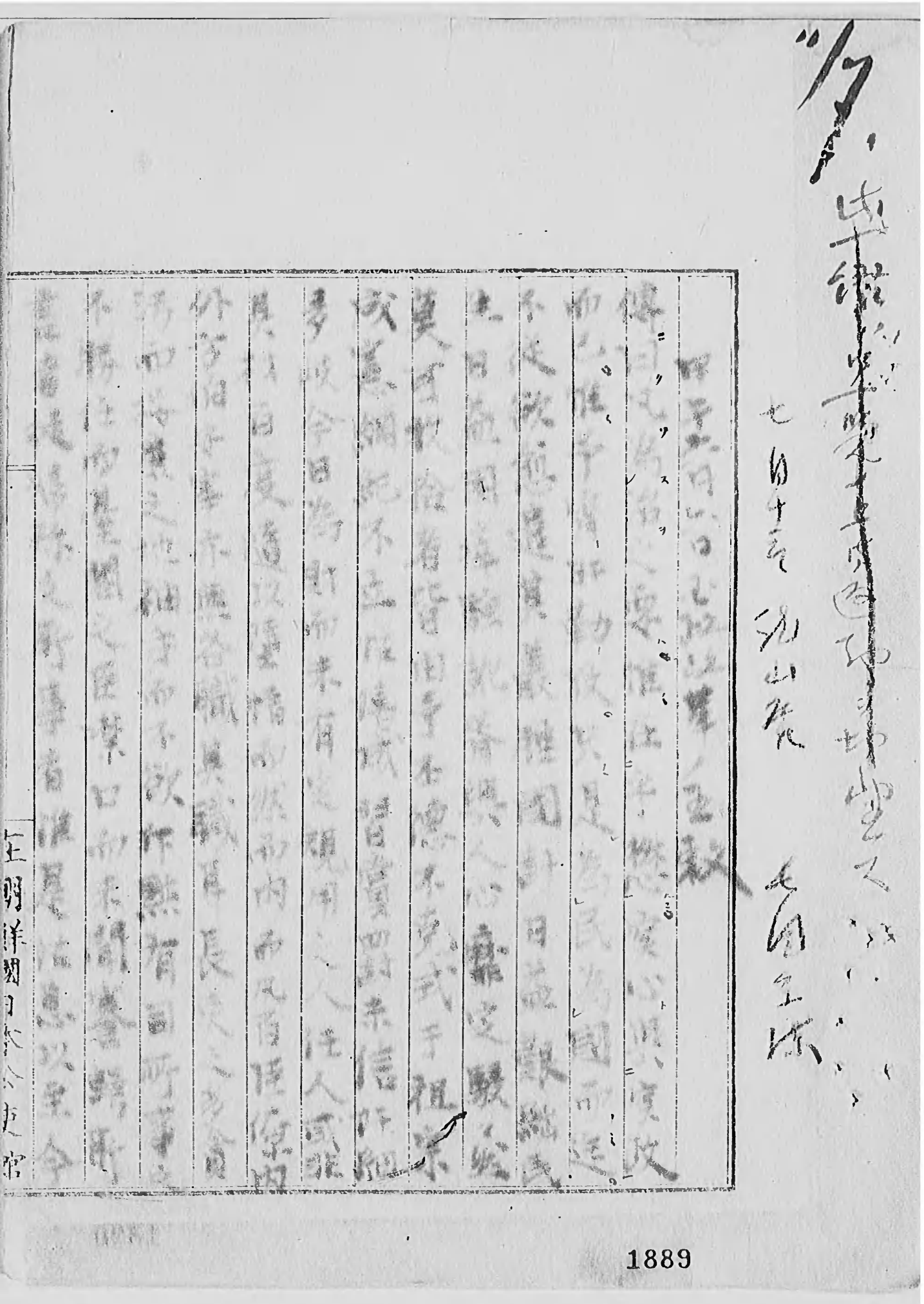
一、明日ヨリ諸隊交番ニ高機及甘陽丸ニ行軍ヲ命ゼラル

ニ元猶豊山付近ニ著手又菊地兵ヲ命ゼラル

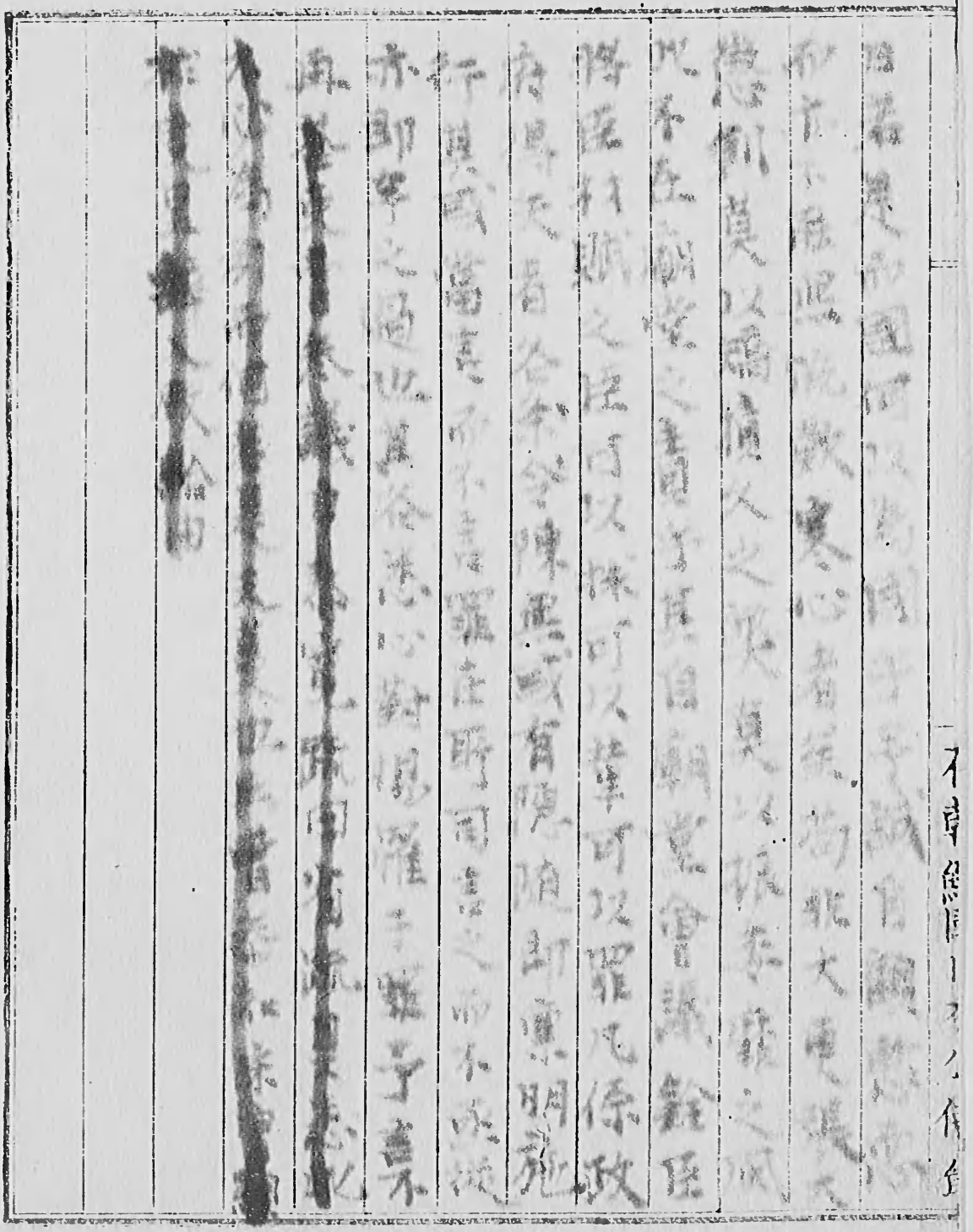
此ノ生徒ハ別ニ取ニ著手セラルヘキ筈ナリ



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1890

七條子爵 記念館

1891

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

志士恩讐、前後繼發、殆不絶書、近日
時措權道、忍嗔為笑、徐暗消融、漸就陳
新、其間之事、實費
苦心、重有日中之事、其事實
曲、路人皆知、而不敢、彼情多以不從西鄉
従道論為效、若無天下維持之勢、莫可
従事何者、豊臣秀吉之擧、必必抵一矣、彼若
棄置、則我國之遊説、國事如有望
留渠國、素乃加難事、彼既深知我國
之風俗情態、又如百般化様子
叢雲渠國而我國事勢不得不先
於尹公之他者、為其難易有或遠近有
序也、舊恨未釋、新嫌又陽、俊拔聯俊

1892

子等不敢入彼掌握、安能往往太西無
阻渡海乎、方春即將、欲消仕林、非我能
彼、彼資幾我、非我不關、彼使我不化也、京
城開市、不但失在於我政府許之之不明而
亦是清日兩國政府之失也、蓋我不明知
我無余、入我腹腕、吃我骨血、使我市廛生
計日蹙、窮至流離、彼若真實望我富
有、何不與清公議、共撤京市之禁、特其
商賈、稍加稽功、有勝騰我俗我、誠中形
外通商誠毅、狠藉新聞、商賈交易、
善用數秤、陸[redacted]其國奮、狠狠結子、二
民相接、少有不利、橫橫頑蹟、不作人相
雖幸與皇權收之至愚、無智自負也天

1893

以擬議劃、甘心堅壁、死而不拔、何況忠憤激烈英雄豪傑之士乎、彼若真望我獨立、何不早諫利害、以清公義乎、
國亂也、和協也、不協也、道理、晴則習熟、
待我內亂、突然蜂起、輝武揚威、謂之藉
名乘機、冷笑則可也、謂之公平心忠臣
事則、未可信也、夫為大人政者、不當在忠
臣、不由於公平、而能服天下之有識乎、不
自己忠而能集人和睦者、未之有也、不集
人和睦而能善其後者、難矣、蚌鷸相持
漁人在傍而流改爭吃者、聞風四至、逆此
時也、若不急制雙眼、大揚雙掌、由我動

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

人越俎之嫌何者蓋法律朝廷之矣人也朝廷之矣人由於不開言路之路也不開言路之路由於不設人民關議之院廣納雅言也孔子曰十室之邑必有忠臣我億兆豈少其人眇夜有星不大旱有泉君有釰恰講院之命則下風隨起銷弊歲收莫不畢至各陳其一得之見矣休其益便宜和衷而成諸事為豈不美哉豈不銘哉柱是予若和花清保其親睦之誼左睦於日全其善鄰之情而外而交好政美俄諸國有何不善後之慶故上下同心日乾夕惕攻乖去非今非人非我之法維新其命開化民俗風

1895

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

右南島國日才公使館

悠久之間足有為天下共國之望矣

止於獨立自主而已哉

2681

1896

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

混成旅団編制ノ件

七月十四日

前四区附ノ者ヲシテ各々セシムル件ノ通リ

次ノ如ク 川上常備軍騎兵大隊

并ニ騎兵第一大隊ヲ以テ朝鮮ヲ鎮定ノ為メ出発セシムル事ニ上ン私議モ無キ

四頭八連ノ地ニ移シテ

帝国軍隊ヲ置倒シ居ルヲ以テ即ヲ壓スルカ如シ

トノ説アリ 漸次日本ニ在ル壮丁ヲ集メ以テ乱ヲ平ゲント

移ンヘルニ等シ壮言ヲ吐キ敢ンテ業ト為ス

トハ実ニ笑フノ至ナリ 而シテ運動ニ

ストノ命令ヲ接シ（此ノ命令ヲ受ケシハ実ニ

ハ如シ）前ノ大言ニ反シ死ノ苦計

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ率出シ朝鮮官民ニ宿キツ手サカラレカ為メニ
来往ノ故戦等ノ見スレテ帰清スレハ物地数
先ニ石砲台ヲ築シト称シ公州附近ヨリ軍ヲ回
ヲ後ヲ経リ又ハ沿道韓吏ヲ道黄信ヲ
命シ其他従地ニ入ラシメ百姓ヲ虐殺
スト揚言シ又ハ水兵ヲ率ヒ宝川、釜山ニ分屯シ
新兵ヲ用ヒセシノ其準備成ル者ヲ国王ヲ迫
見ス為メ協ヲ以テ入京シ其命ヲ以テ人ヲ
機殺ス等種々ノ陰謀ヲ企図ヲ数ヶ月ヲ経ルハ
事ノ実ヲ目下ノ情況ニ於テハ
朝鮮官吏ノ為ニ
抵抗、水兵ヲ以テ大ニ之ヲ実ニ受取リ
抵抗ノ者多ケノ種様ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ開キ度シト今日カ明日カト首ヲ延イテ待ツテ居ル
二十方降リ込メル共一向将ニ不申ソレニモ拘
ラス御家事ノ心配ノ為メ二十五日前モ今日モ
猶同様ノ明ケ暮レヲ過シアルヤウ頻リニ
御電信等ノ開キ度ク多忙ノ極メ振リ返ル
暇トテモ無イ
扨テ官ノ銘仙数ヲ参照シテ考案ヲ改メ依レハ
山吹ノ形紋物ノ情況ハ如何ニアルヤ前進ノ
見込ハ如何ニアルヤ委細御電信
其後川ノ件ニ付テハ御移リ等ニ付山附ヨリ食ヒ
ニ来ル如キ事ハ絶テ無ク候間御安心被
下度候

○ 平壌附近ノ兵事

舟山方面ニ輸民ノ際ニ不隊向ニ引揚ノ平壌在ニ就キテハ既ニ数次電報シ置タル処ナルヲ以テ本邦人ハ総テ引揚ノ後ニ於テ軍司令官ノ指揮ニ依リ取扱フ筈ニ付此段及通知候也

○ 舟山島防禦設備

兵備ニ関シテハ既ニ数次電報シ置タル処ナルヲ以テ本邦人ハ総テ引揚ノ後ニ於テ軍司令官ノ指揮ニ依リ取扱フ筈ニ付此段及通知候也

栗牧司一面言ヲ寄ス
ノ文ヲ草シ終レハ前ニ
等ノ談話ニ暇ヲ不用
以ノ朝鮮政府ノ日、我
是ニ至テ
木使牧司ノ命ヲ
勿復ニ示シ元ヨリ不明ヲ
依ノ明カ出ス所ノ
北使牧司ニ接ケン
左記ヲ及話ヲ別紙ニ
高宗復ノ言ヲ会セ大臣ヲ上申

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

了

金七大財閥電

出荷電文運送船ノ今左ノ
如シ某メーカーヨリ

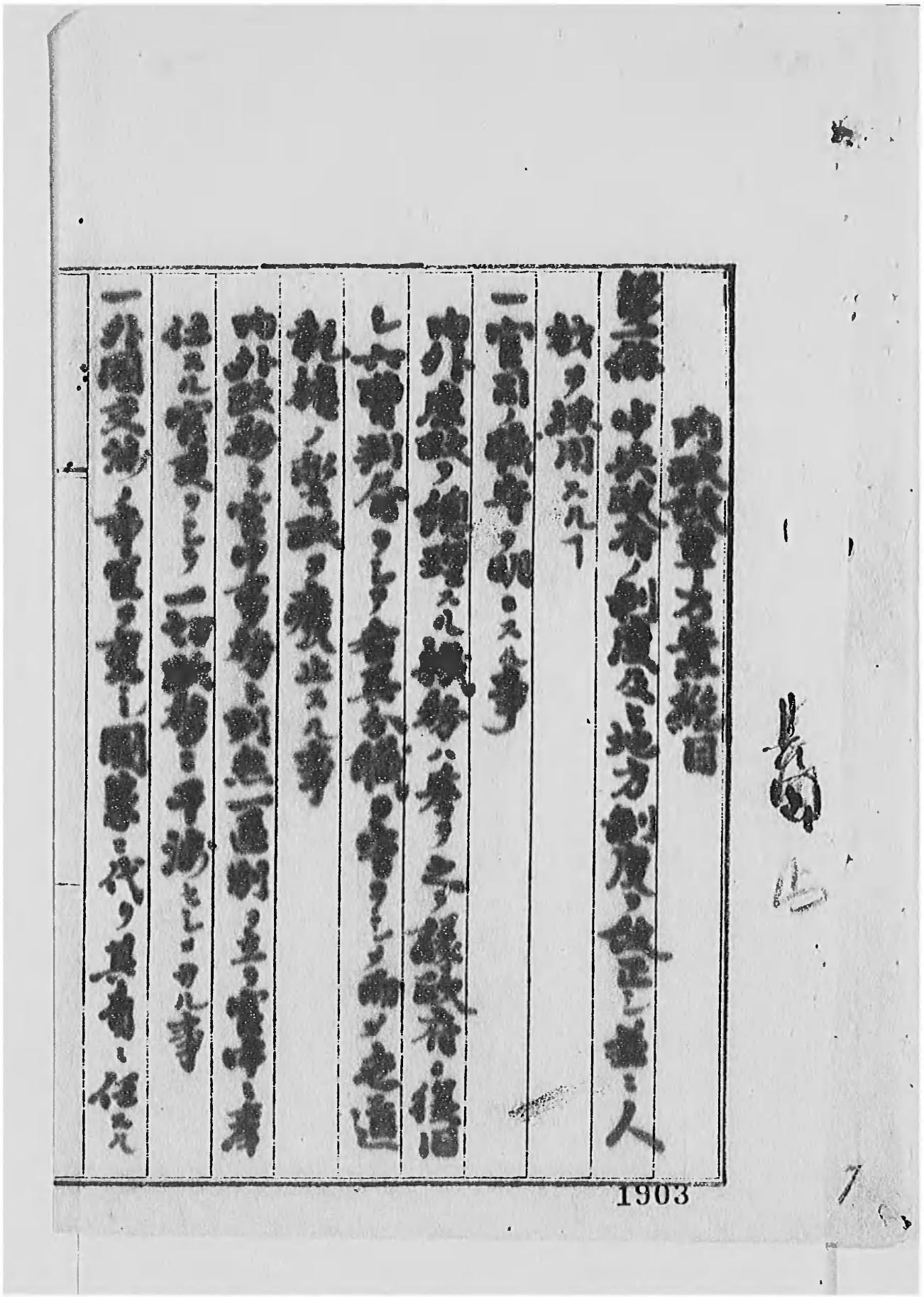
又出荷ノ都合ニ依リ比ノ
船ニ積込ミ能ハザル電

船名ハ比ノ電

船ノ用意ノナシ出荷ハ
ナシ

別紙ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1903

一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

1904

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一 官吏ノ更迭ノ際ハ後任ヲシテ前任ノ事務ヲ引継ヲ為サシムル事

一 前款ノ引継ヲ為ス官吏ハ後任ノ官吏ト共ニ其ノ出納ヲ検査シ其ノ帳簿ニ捺印スルヲ要ス

一 官吏ハ政府ノ許可ヲ得ルニアラサレハ兼職ヲ為スヲ得ス

一 地方官吏ハ情実ノ為ニ法ヲ枉ケ政ヲ紊ルヲ禁ス

第二条 財政ノ整理ハ国庫ノ歳入ヲ主トシ新ニ事業ヲ興シ費用ヲ要スルトキハ歳入ノ増加ヲ図ルヲ要ス

一 会計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一 什物ノ制度ハ別ニ之ヲ定ム

一 各道ノ国税ノ納付ハ別ニ之ヲ定ム

1905

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一 其他ノ領統治ニ関シ緊要ノ政務ヲ処理スルコト

一 不慮ノ事変ニ際シ兵備ヲ増加シ又ハ警戒ヲ厳ニスル方法ノ講スルコト

一 鉄道通信ノ施設修繕シ並ニ軍港ト軍港トノ間、鉄道ノ建築シ並ニ全国電信ノ統督ニ関スルコト

一 陸海軍ノ教育ニ関スル事項ニ関スルコト

一 兵備現場ニアル統帥ハ一ニ朝鮮駐箚軍司令官ノ管理シ他ハ千葉ノ案トスルコト

第二条 法律ニ規定スヘキ事項ハ勅裁ヲ以テ定ムルコト

一 緊急時ニ際シ勅令ヲ以テ法律ノ効力ヲ有スル命令ヲ発シ又ハ既存ノ法律ノ利害ニ関スル新法ノ制定スルコト

1906

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一裁判法ノ改正ニテ司法ノ公正ヲ期スルコト

一軍事ニ関シ内ノ民乱ヲ鎮定シ安寧ヲ保持スルニ必要ナル兵備及ビ警察ヲ設クルコト

一青年養成スル事

一雲水陸共ニ一切之ヲ廃シ更ニ戦力ノ伴ハザル新式兵ノ制定スルコト

一義務教育ハ完全ニ厳正ナル義務ヲ設クルコト

一教育ノ制度ノ確立スルコト

一科学ノ刷新ニ関スル特別ノ新定シ各地方ニ小学校ヲ設立シ子弟ノ教育スルコト

1907

一小學校ノ設立等歸ニ府令ヲ待ツ漸次中學及大學ノ設立ニ及フ

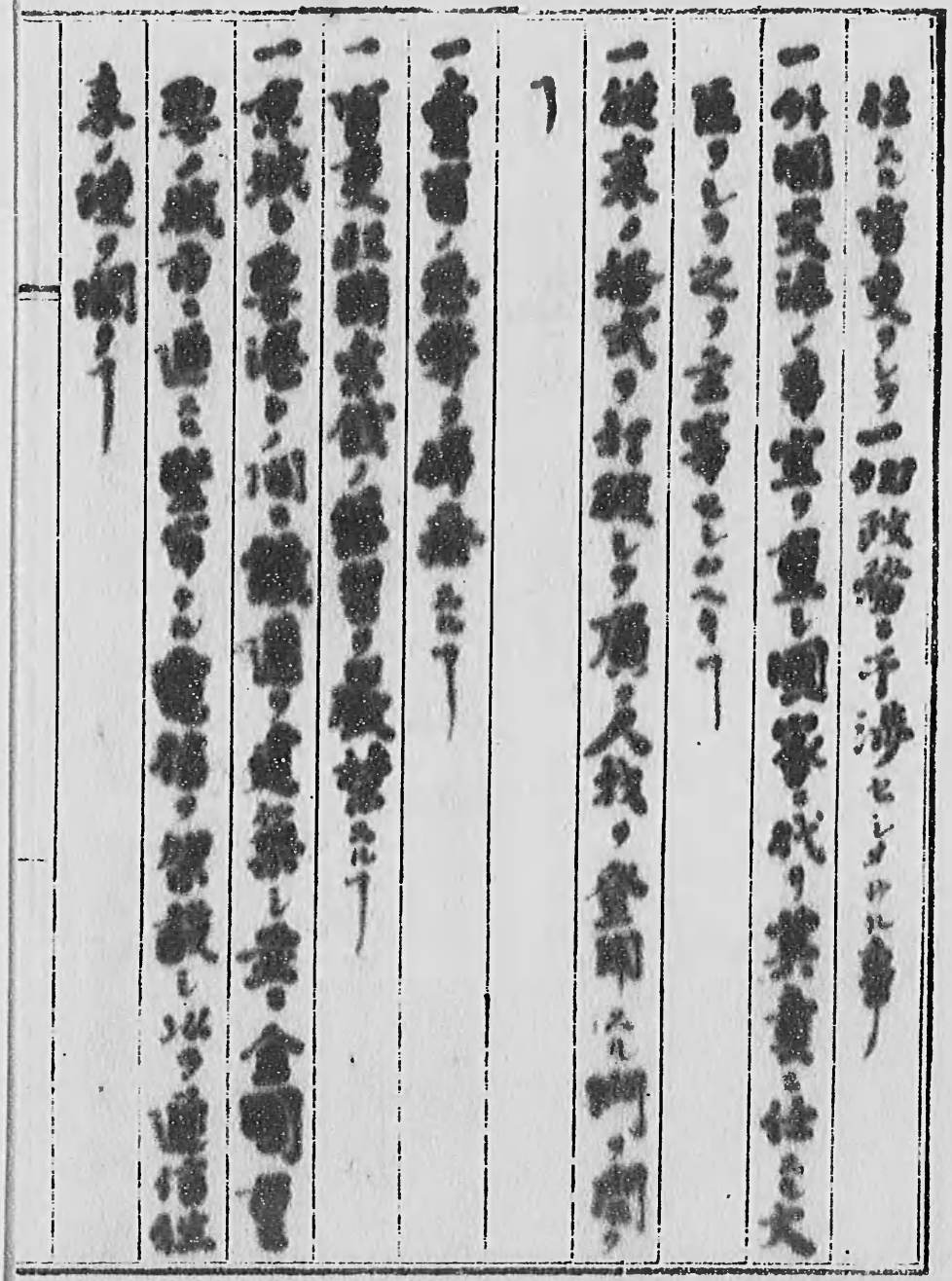
一學生中優秀ナルモノヲ擇テ外國ニ留學セシムル

右各項ノ外左ノ事項ハ三箇年ノ限リ議定シ十箇年ニ着手スルヲ可トスルノトス

一内外庶政ノ總理ニ付機務ハ駐箚之ヲ議政府ニ諮詢シ六曹判書ヲシテ各其分職ヲ守ラシメ而シテ世道執權ノ弊制ヲ廢止スル

一内外政令ハ宮中府中ノ別ヲ嚴ニシ政令ノ出ツル宮中ニ參

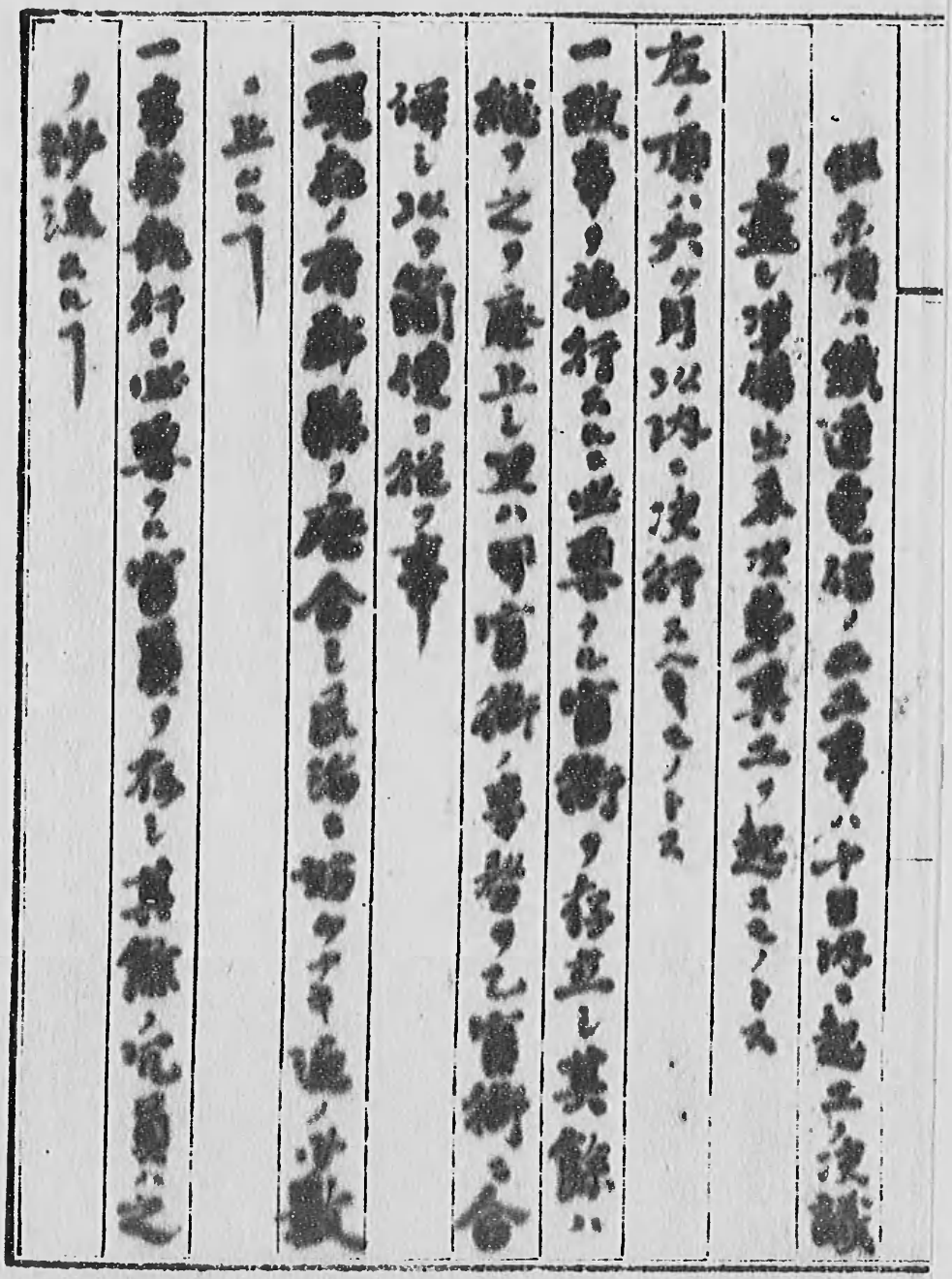
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1909

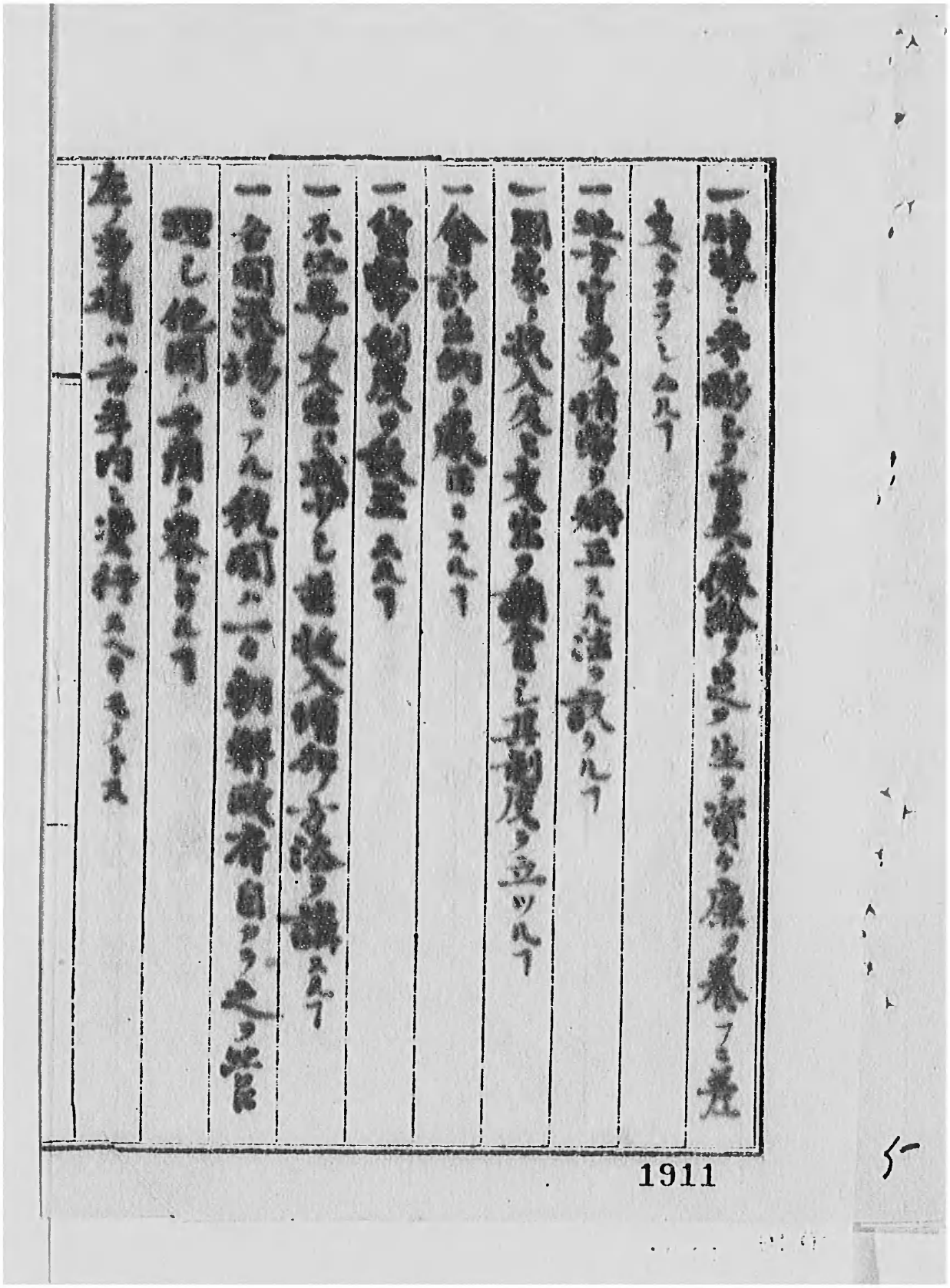
4

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1910

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1911

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一 交通ノ発達ニ従テ税法ノ改正スルコト

一 現ノ国税ノ改正ニ伴フ新税ノ設クルコト

一 官道通過ノ須ラク修理ヲ加フヘキコト

一 田津時宜ニ適スルカ如キハ概ネ之ヲ廃棄シ或ハ時宜ヲ参酌シテ新法ノ制定スルコト

一 裁判法ノ改正ヲ以テ司法ノ公正ヲ期スルコト

一 市町ノ整理スルコト

一 現ニ陸大ハ一切之ヲ廃シ更ニ新カニ研ノ置ク

戦争ノ研究スルコト

一 兵役ヲ改正シ兵制ヲ整理スルコト

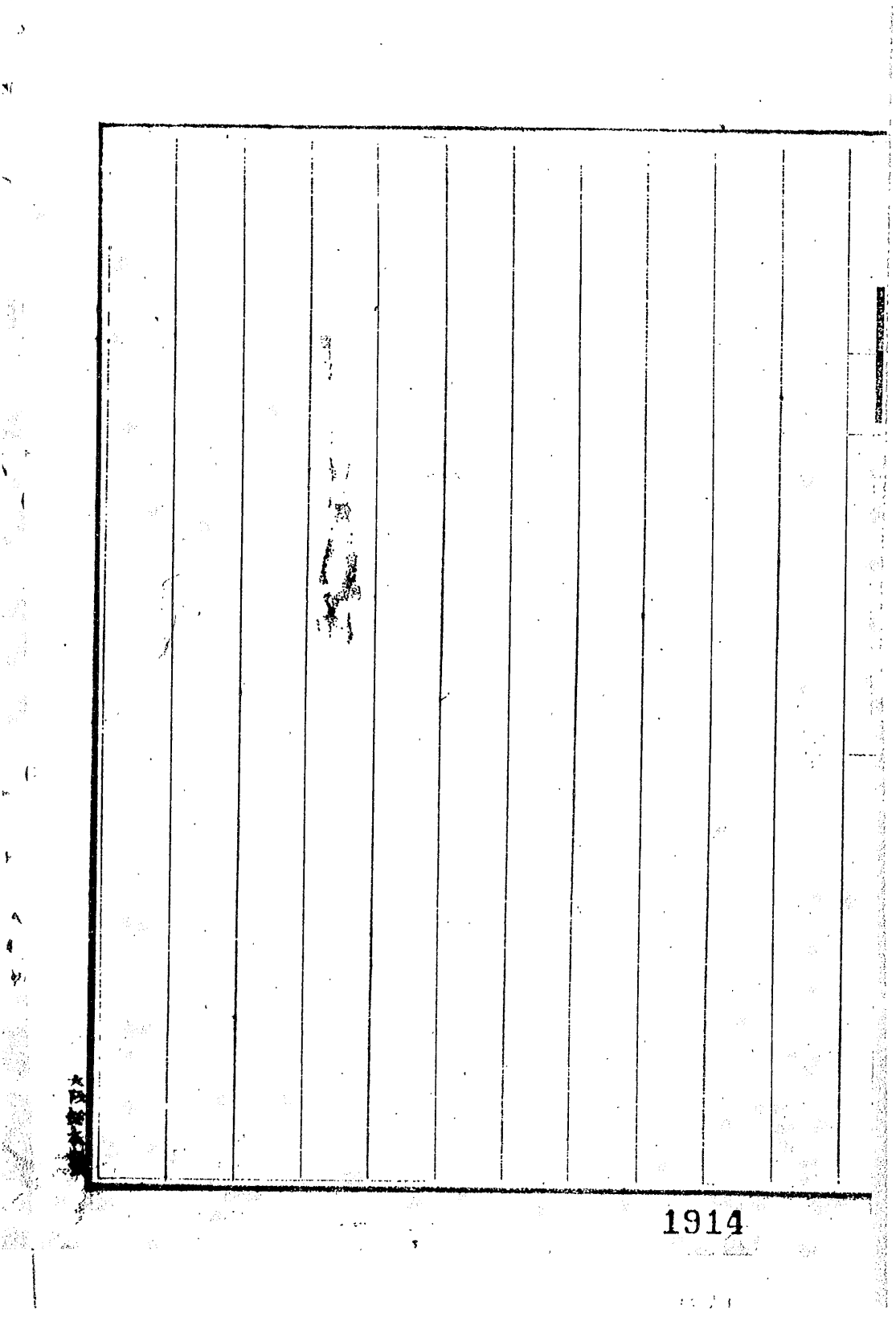
1912

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一時姑息的ノ手段ヲ執リ永遠ノ計ヲ誤ルガ如キ
設立ノ手續ヲ爲スニ
一定ノ申合ヲ爲サンカ爲メ豫定ノ外國ニ往ク等モ之ナシ

1913

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1915

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

侯爵設先生上ル

扨拙作候等ニ就キ御意見ヲ賜ハリ度
御意見ニ一日モ参観ヲ許サレ候ハヽ
幸甚ニ存候ニ付利用ノ好都合ヲ
以テ井上西洋ノ教育意見ヲ御示シ
被下度候

右懇望ノ御答ヲ

高橋侯長岡侯伊達子爵

明十四日当方ノ拙稿ノ校正ヲ迄ニ

1917

高城仙川、及仙臺藩士ノ遺跡ヲ尋ネ中ニ地ト
為サレコヲ重複シ甚タシキ誤リ（是ハ著ノ為
像）甚タ感服ニ堪ヘス之ヲ此ノ如ク材料ノ外ニ
カヲ為メニ筆ヲ起シ筆ヲ執リ以テ此ノ如キ稿ヲ作
リ終ヲ結ヒ

其詳細ノ儀ハ目下公使館ヨリ通知ニ及ヘルヲ以テ
茲ニ略ス（署名）

二十一年陸ノ事変地

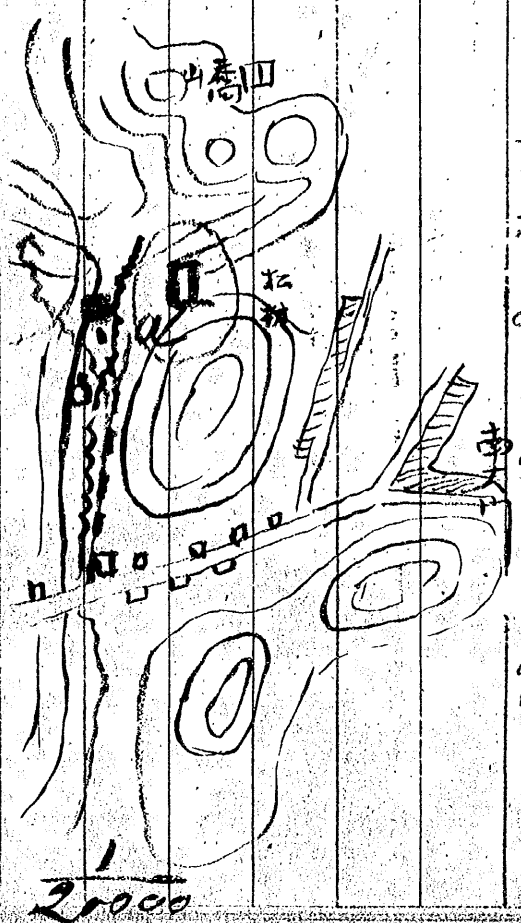
八幡囲ノ如キニシテ

王世孫ノ墓　芹

地点ハ朝鮮　十二

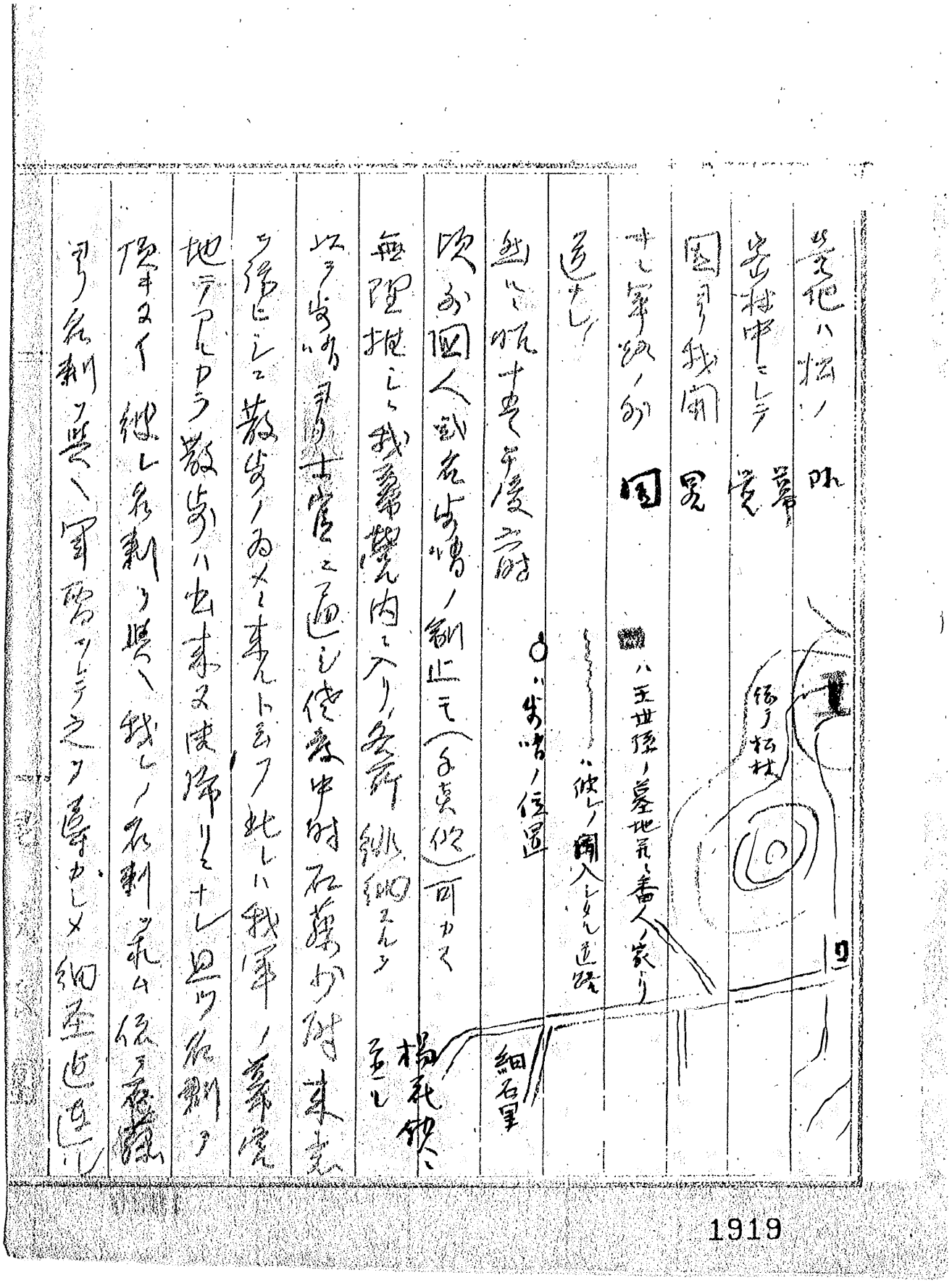
城ノ他径ヲ

ト記ス筆



1918

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1919

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

出ス仙台ニ出テ其後ハノ方向ニ女房ト他ノ一名ト
共ニ人ヲ避ケ隠レ乍ラ後ヲ慕ヒナガラ大阪迄ヤツテ
去リ又迄ニテ同ジ女房ヲ打チ殺シテ更ニ金
ノ中ヲ投ゲ込ンデモナシ（若シ実レテ此ノ如キ
コトヲ為セシナレバ彼レノ女房トハ仲セシ筈ノ人ハ心死ニ
ナリテ防禦シ傷位受ケテモ我ニツナグリ殺シ女
房ヲ助ケント彼レ等ノ特性ナレ此等ノ事モ其
慶雄ノ好根ナリト思慎セ）ヲ仕舞中村等ノ
面ニ近寄ラント欲シ彼レ等ヲ為メニ仕ニハ十ニ
ケンモノト考ヘシ我ヲ決シテ彼レヲ信慢
ニ為ス哨兵ヲ置カザリキ

○高橋ノ方ノ人

一時迄ニ是ヲ侍メタシ昔日ヨリ又後ニ而

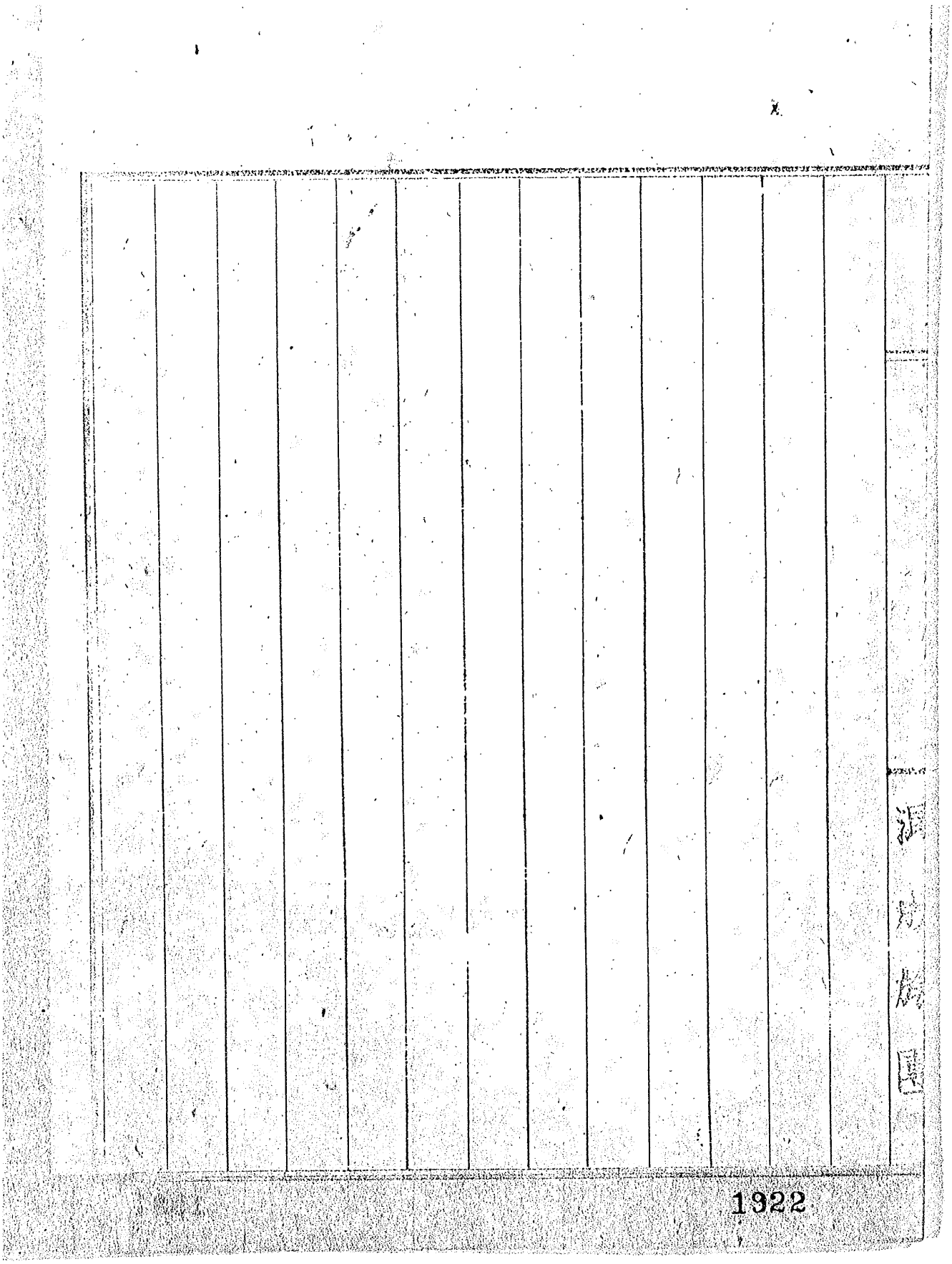
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

拍ヲ以テ免ヲ出シ其ノ後十六日ヲ支那側
五名仁川ヨリ漢江通ヒノ支那汽船ニ乗リ
元山ニ来リ多キハ入京セリ一行ノ為ニ我ノ
吹ク係ニ於テ歓迎ノ為ニ盛宴ヲ開ケリ

○米利堅名物飛行家ノ名高キ曲乗ト云ヒ
来ヘシ一名ヲ

1921

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

通牒

帝國政府ニ於テ露國革命軍ヲ承認ノ件

七月十八日　発信　長岡外史

昨十七日八近来ノ出来事ニ多忙ヲ極メタリ

一、英國公使館護衛ノ爲メ上陸五名水兵120名入京セリトノ通報ニ接シタリ

一、昨十七日仏國公使ノ我幕営ニ暴入セントセシハ此等ノ兵ノ実ヲ以テ爲メト後ニ知リ申候

一、米國公使ヨリモ全上兵半八拾名入京セシヤノ公文ヲ以テ公使館ノ通報アリタル旨通牒シ越シ来ノ兵八他ノ方ノ陰謀國主ノ命ヲ以テ迄ノ約束アルヲ以テ此ノ護衛ナリトハ疾ノニヨリ聞クハ迄ニシテ今日八入京明日八入京ト聞キ絶キタル所ナリ兵ノ公文ノ通牒八後

モ噂ニハ耳ヲ藉スレト思ヒ是ヨリハ三國兵ノ入メテ
細故ノ衝突多カルヘシ特ニ英兵ハ喧嘩好キニ
メテ入京セシムル実ニ危ナシト雖隊ニ散
達シテ可成喧嘩ヲ避ケル多少打スルハトモ堪忍シ
テ大事ノ前ノ事ト心得決テ利上ニテ敵ヲ取ル迄
迄ナレハ決シテ衝突ニ及ハサル事ニ注意セラレタシ
軍隊教育上ニ就テハ打スレテモ殴ラレテモ我慢セヨトハ
殊ニ至極ノ事ナレ共不得止事ト毒ヲ
以テ毒ヲ制スルノ手段ヲ採ルヘシ
又抱川(元山附近)ニ千五百ノ支那兵来着シタリ
トノ報告ニ付直ニ帰営セヨ(此電ハ大東ヨリ)トノ
メレトモ不審儀ト思ヒ先ツ其方面ヲ厳重ニ
守備シ三名ヲ出シ又今日ニ至リ無事ナルヲ知
リ

1924

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

3 大島公使ヨリ電通

今夜信濃丸ニ在留民約百名搭乗シ支那ヨリ帰ニツク筈ニテ軍艦ナド同港ニ碇泊ノ事ハ絶エテ無キ由

東大門東南ニ二ツ監視ヲ出ス其他ハ監視ヲ置カス城内ノ電燈ハ消エ居ル由

松代領事ヨリ参照ニ差出シ置キ候処今ヤ城ヲ入ル迄ニ至リシ事ト思ハレ候ニ付テハ其筋ニ於テモ御含ミ置キ相成度シ

一 中路南方ヨリ約二千名ノ監視ヲ置キ又一中隊ノ兵ヲ城ヘ入レ置キ候向ニ付軍セルメシカ今ニ至ル又全ク旋撫ヲ加ヘツヽアリ

4 先ヅ無事ニ多数ノ抗日使ヲ帰国セシメ得タルハ一人ヲ殺ス安寧ヲ両人ヲ関下ニ対シ名刺ヲ以テ御礼ニ及ヒ度ニ付御含ミ迄

1925

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

撫奉天ノ各公使ヨリ最後ノ決別ノ
訓令ヲ齎シ支那公使ヲ通シ各国公使ヲ通
ジ
各
領事ニ引揚ヲ通告セリ而シテ奉山ノ情況ノ
引揚ハ如
何
朝鮮ノ国境各電信線ノ我方トノ連絡ハ
ナキヤ
二、
重砲等使用ハ二発(三発カ)ニテ
右ノ如ク引揚ヲ了シ奉天ヲ占拠シ
タル中ニ
無抵抗ノ我山附近ニ於ケル重砲
我山ヲ占拠シ
タル事ヲ傍ヘ軍砲ヲ
迫撃砲等ヲ
以テ
ヲ待ツノミ
ニテアリシ

1928

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

七月廿日

一、本日午前十時ヨリ外務省ニ於テ第一回ノ日支会商ヲ開キ、我方ヨリ従来ノ経緯ニ鑑ミ、先ツ満洲ニ於ケル日支間ノ懸案ヲ解決シ、然ル後ニ於テ関税問題ヲ討議スルヲ可トスル旨ヲ述ベタルニ対シ、支那側ハ関税問題ヲ先ニ討議スルヲ主張シ、結局本日ハ何等ノ決定ヲ見ルニ至ラズシテ散会セリ

一、次回ハ二十日午前十時ヨリ外務省ニ於テ開会スルコトニ決セリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

4 来レニテモ行カサレハ玉機ノ団ヲ
5 玉機ノ団ニ充テ大陸ノ兵団ヲ(義平)
多年ニ来(宿カヘリヤウ閑シ)
宿カヘリヤウ(ヘリ)
6 大陸ノ兵団ノ上朝陣警ニノ支ノ
為ニ新ニ帝国軍隊ヲ以テ之ヲ
補ノ下ニ打ツ
7 依テ時ニ陸海共ニ牙山ヲ始メ
セラレシ

事変雲ノ各正ニノ事後承認ノ国動ニ至
大ノ便利ヲ与ヘ事ヲ以テ之ヲ
国ニ示ス

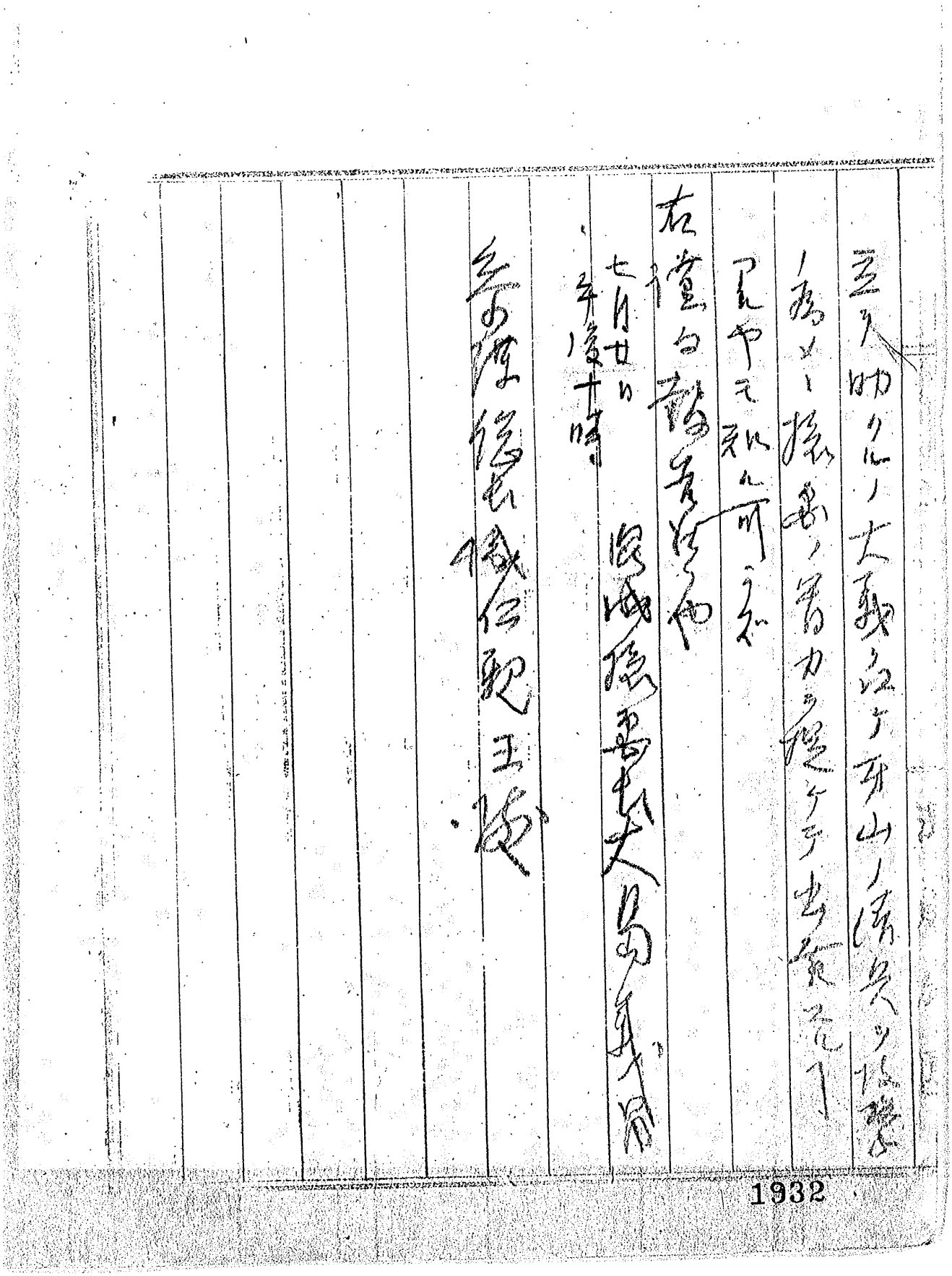
本述条ヲ含ム後ニ大事ニ電報ス

1930

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三ニ至ル多数ノ爆弾ヲ
投下シ尚ホ之ニ依リテ十分ニ戦ヒ得ラレザル
場合ニ於テハ一刻モ速ニ朝鮮政府ノ両省ノ決セ
ラレタル方針ニ依リ其ノ後ニ於ケル
処置ヲ為シ二分間ニ依ル其ノ他ノ爆弾ヲ投
下シ尚ホ余リアル時ハ之ヲ
入手セラレタル支那ノ手段的運動ヲ止メ徒ニ
三千哩ノ間ノ兵ヲ出ルコト勿メラレタシ
如何ナル理由ヲモ以テ此ノ命ニ
ソムキ又ハ背ク者ハ其ノ者ノ
場合ニ於テハ一刻モ速ニ朝鮮政府ノ両省ノ決セ
ラレタル方針ニ依リ其ノ後ニ於ケル
処置ヲ為シ二分間ニ依ル其ノ他ノ爆弾ヲ投
下シ尚ホ余リアル時ハ之ヲ
入手セラレタル支那ノ手段的運動ヲ止メ徒ニ
三千哩ノ間ノ兵ヲ出ルコト勿メラレタシ
如何ナル理由ヲモ以テ此ノ命ニ
ソムキ又ハ背ク者ハ其ノ者ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1932

昭和八年

報告 七月九日午後二時
共振感知撃墨様

青三十号ヲ竜山ヨリ黒川ニ西南ニ露営ス 病者十七
名九六ヲ下ヲ以テ露営ヲ撤シ午前十二時着投揮
ヲ制限ヲ以テ進ムヲ以テ前衛ヲ以テ前衛ヲ以テ
我軍ハ本隊ト合スル所ニ於テ来ル在一日ヲ以テ
匹及ビ三四十ヲ以テ徴発ス 患者四五名ヲ以テ
病院ノ患者ヲ以テ矢張リ病院ヲ以テ
尊公使ヨリ左ノ申進ヲ

在京山清ヨリ報告ニ依リ昨五日朝鮮
政府ヨリ船舶其ノ報告調ヲヨリ以テ依頼
ヲ以テ其ノ依頼ヲ以テ百ヲ以テ百ヲ以テ
取計ヲ以テ以テ申進ヲ

1933

昭七年七月北方　　村会会長公使館書記生

之レト共ニ人馬屋文書ヲ発見閲文二十余冊ヲ公使ニ貸与ス（倚門）

四日九時半ヨリ午後四時半迄ニ収穫完了ス昨日ノ所ヨリ見渡シ得ル範囲ノ耕地ハ殆ト見尽シ置キタル積リナリ

墓ハ一ヲ発掘ス

午後雨ニ会シ退堡ス

本日午前七時二十分敦ノ出発ニテ五万余鉄道五十哩

牙山ヲ経テ上土橋ノ方向ニ進ミテ見ル者ハ

僅ニ其ノ城郭ヲ残スノミニテ概ネ平地ト化セリ

城郭附近ニ数ノ墓アリ四個ノ墳ヲ発見ス

未完ナルニ付キ四千ヲ以テ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四、別ニ明記セル場合ノ外ハ午前六時ヲ以テ起床ト為シ午後十時ヲ以テ就寝ト為ス

五、命令ヲ以テ其ノ時機ヲ指定シタルトキノ外ハ軍需品ノ徴発ヲ為スヲ得ス

六、本日ノ行軍ハ午後六時ヲ以テ終了ス

七、本日午後六時当所ニ於テ連隊ノ命令ヲ交付ス

1935

内閣閣電ト同行ヲ約定ス

八、当牙山行ニ於ケル軍隊区分別紙ノ如シ

右謹テ報告候也

明治廿七年七月廿日　陸軍少将　大鳥圭介　印

参謀総長熾仁親王殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軍砲區分

釜山守備隊

歩兵第十四聯隊第八中隊

臨津江独立守備隊

守備歩兵第廿四聯隊第二大隊（二中隊欠）

歩兵第十四聯隊第二中隊

騎兵一小隊（廿五騎）

砲兵一中隊（一小隊欠）

工兵一小隊

第一野戦病院軍部

京城守備隊

1937

一	同令官歩兵佐一戸兵衛
一	歩兵第十六聯隊第一大隊（一中隊欠）
一	騎兵　五騎
一	竜山兵站守備隊
一	歩兵第十一聯隊ノ一中隊
一	仁川兵站守備隊
一	歩兵第十一聯隊ノ一中隊（第十一中隊）
一	騎兵　七騎
一	前　衛
一	同令官歩兵中佐武田秀山
一	歩兵第十一聯隊本部及第三大隊（一中隊欠）
一	歩兵第十一聯隊第二大隊ノ一中隊

1938

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

騎兵中隊（一小隊欠）

工兵中隊（一小隊欠）

軍用鳩信隊

野戦病院

司令官ニ於テ必要ト認ムル時ハ軍医若干名ヲ増加スルコトヲ得

則チ定員ニ拘ラス軍医若干名ヲ増加スルコトヲ得

各大隊ノ独立部隊ニ軍医若干名ヲ配属ス

各部隊ノ於テ必要ト認ムル時ハ軍医若干名ヲ増加スルコトヲ得

各部隊ニ炊事部若干名

傳令騎兵五名

各部隊ノ炊具ニ駄馬ノ輜重ヲ附ス

東部独立校隊

1939

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

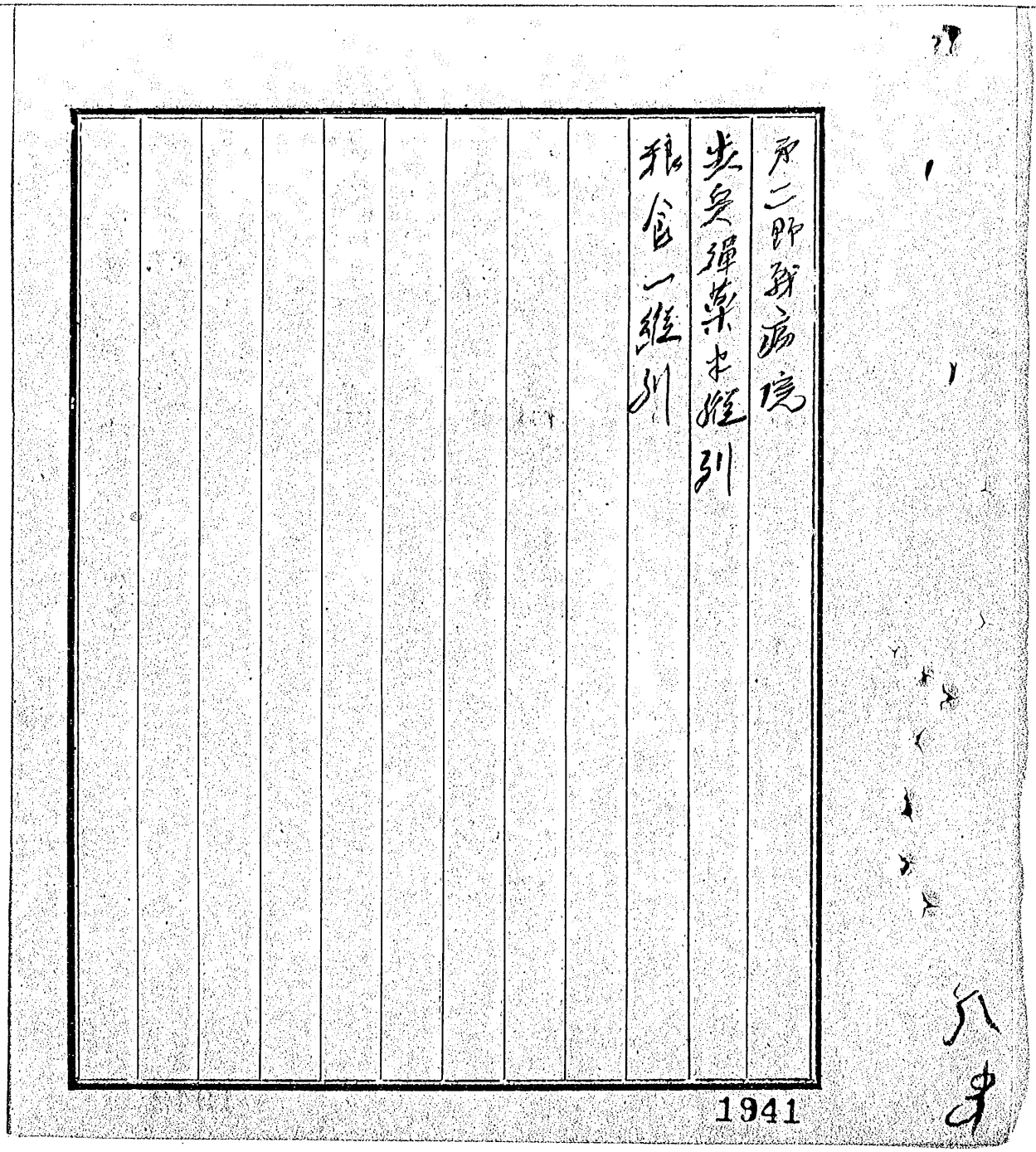
日支事変ニ対スル功労ニ依リ
歩兵第十連隊第十中隊
騎兵五等
木下儀（出軍序列）
松田日吉郎 従軍騎兵十長一名下士一名卒九名
歩兵第十一連隊第一大隊（一中隊欠）
歩兵第十連隊（第一大隊本部及五個中隊欠）
砲兵大隊（三中隊欠）
衛生隊

軸重吉郎

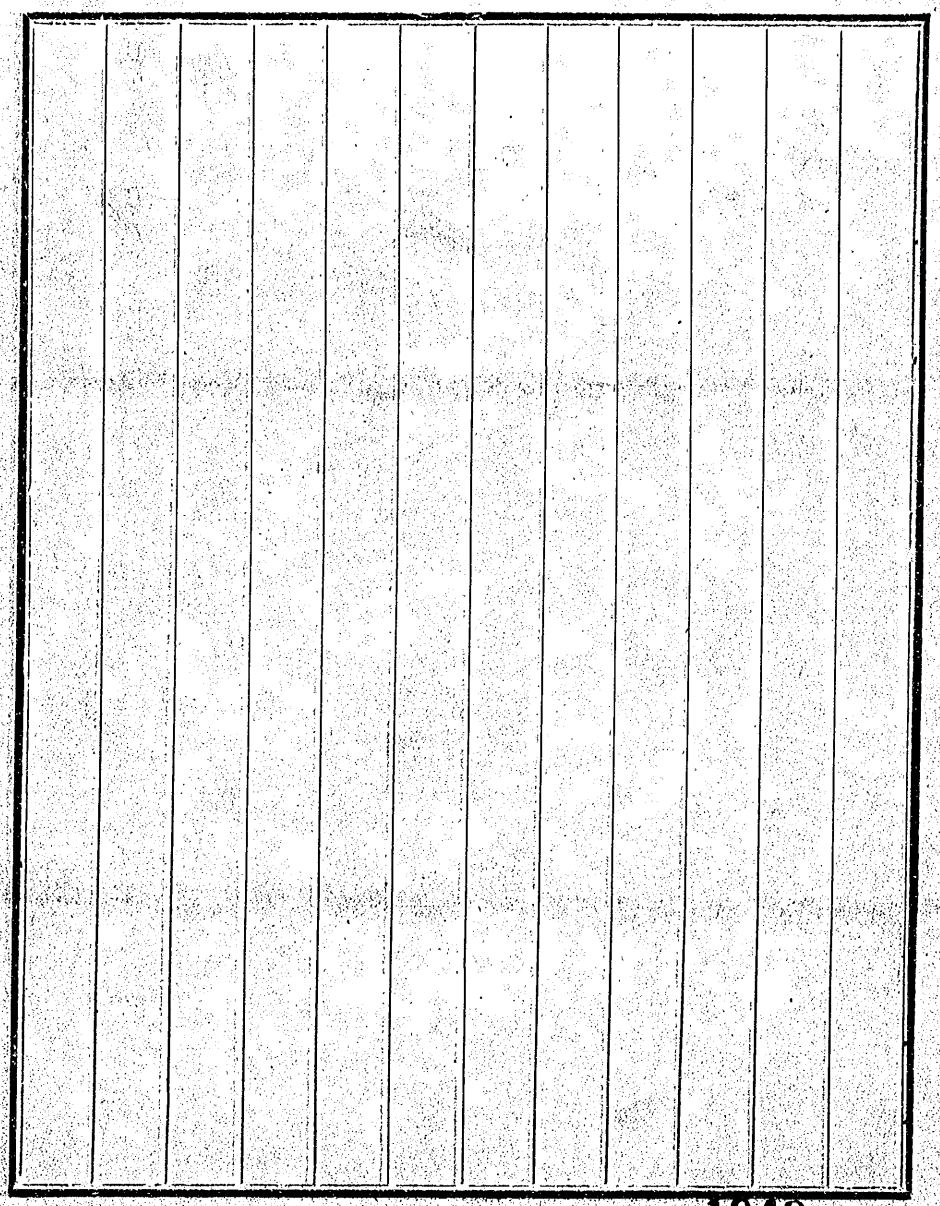
日支事変ニ際シ功績顕著ニ付
仰金鵄勲章下士一名卒十名

1940

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



1942

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

混成第四旅團命第十九號　八月七日午前
午前八時半前田谷前方ヘ掩護部隊ヲ置キ主力ヲ
以テ前進ス其行進中敵情ノ偵察ヲ
命ス
午後一時三十分前第一線部隊ヲ高地北
側ニ開進セシム又本隊ヲ一個中隊ヲ軍勿浦ニ出シ
其ノ後ノ敵ニ關スル情報
午後四時迄ニ報告スヘシ
午後四時迄ニ報告スヘシ
平快以南ニ於ケル敵ヲ殲滅スル爲第二
ノ(一枚別紙ノ如シ)
敵ノ主力ハ成興北方地ノ斜面ニ陣地ヲ占領
シ殿軍ヲ以テ
一部ヲ以テ
我ノ前進中主要ナル地點ヲ確保スヘシ
敵ニ關スル命令報告ハ一切ノ作業ニ優先シテ
1943

1944

半矢五騎

陸自騎乙中隊

騎矢中隊(一中隊欠)

乙号実施

丁号実施 武田千代

約矢北一ノ部下乃至三大隊(一個中隊欠)

ロ 外 七中ロ

中矢五騎

二矢一中隊(二中隊欠)

部生ロ部

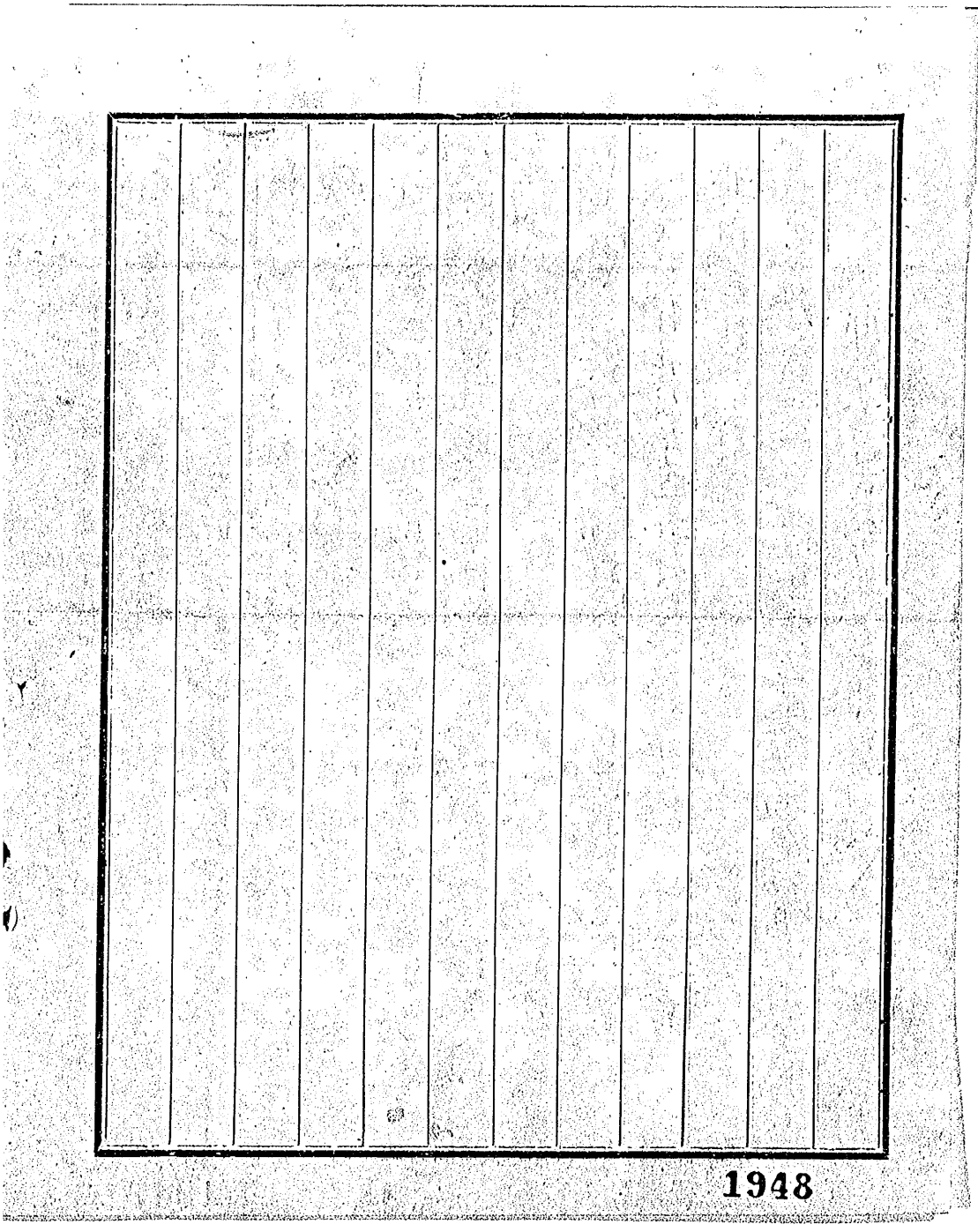
乙号実施

為今度が第九代西嶋助武

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1946

1947



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

混成第四旅団歩兵第七連隊

七月廿五日午前零時頃、九江新開鎮を出発、前衛第一線を以て前面の敵を掃蕩しつゝ廿六日午前零時頃、電湖地区に進出し、爾後引続き九江正面に敵の残敵掃蕩に任ず

九江陥落、午前二時頃、警備の為、軍司令部より命ぜられ、一個小隊を以て九江に入城、警備に任ず

七月廿七日、午前二時頃、警備の為、軍司令部より命ぜられ、一個小隊を以て九江に入城、警備に任ず

花蓮港ヨリ午前四時半頃出発、午後一時頃新城ニ着ス。
午後休憩ノ後、再ビ出発ス。午後四時頃ヨリ前進ヲ開始ス。
敵ハ、其ノ陣地ヲ中央北ニ在ル北山ト、ソノ東方ノ三峰ヲ占領シ、
我カ方ヲ圧迫セントシテ午前七時半ヨリ花蓮港ヨリ
撃ニ移リタルモノノ如シ。我ハ七時半ヨリ攻撃ヲ開始ス。
同時ニ午前六時半ヨリ敵ノ陣地ノ全ク我ガ
ト云フ敵ノ西方高地ニ向ヒ進撃ス。
敵ハ其ノ砲撃ヲ受ケ、我ノ猛撃ニ、武器弾薬ヲ
捨テ走レリ。
我ハ、直ニ追撃、終リ花蓮港ハ、午後四時半ニ占領ス。
一発モ撃タズ押収ス。
花蓮港ハ午後四時ヨリ空襲ヲ開始シ、
翌朝ニ至ル。

1950

八　日ノ我陸軍ト初戦ヲ交ヘ敵ノ兵力七萬ト云フモノ

九　五（武教日本）山西閻仁寶軍二十万

敵ノ死傷ハ多数ニシテ我軍ニ比シ二五倍ニ上ルカ

十　ル（ママ）ヲ以テモ敵ノ死傷ヲ知ルヘシ

敵ハ潰敗シタリト雖モ兵多ク新鋭装備ヲ誇ル汾州方面ニ

十一　近ヒシモノヽ如シ

最後ニ於ケル全景ヲ表現セリ

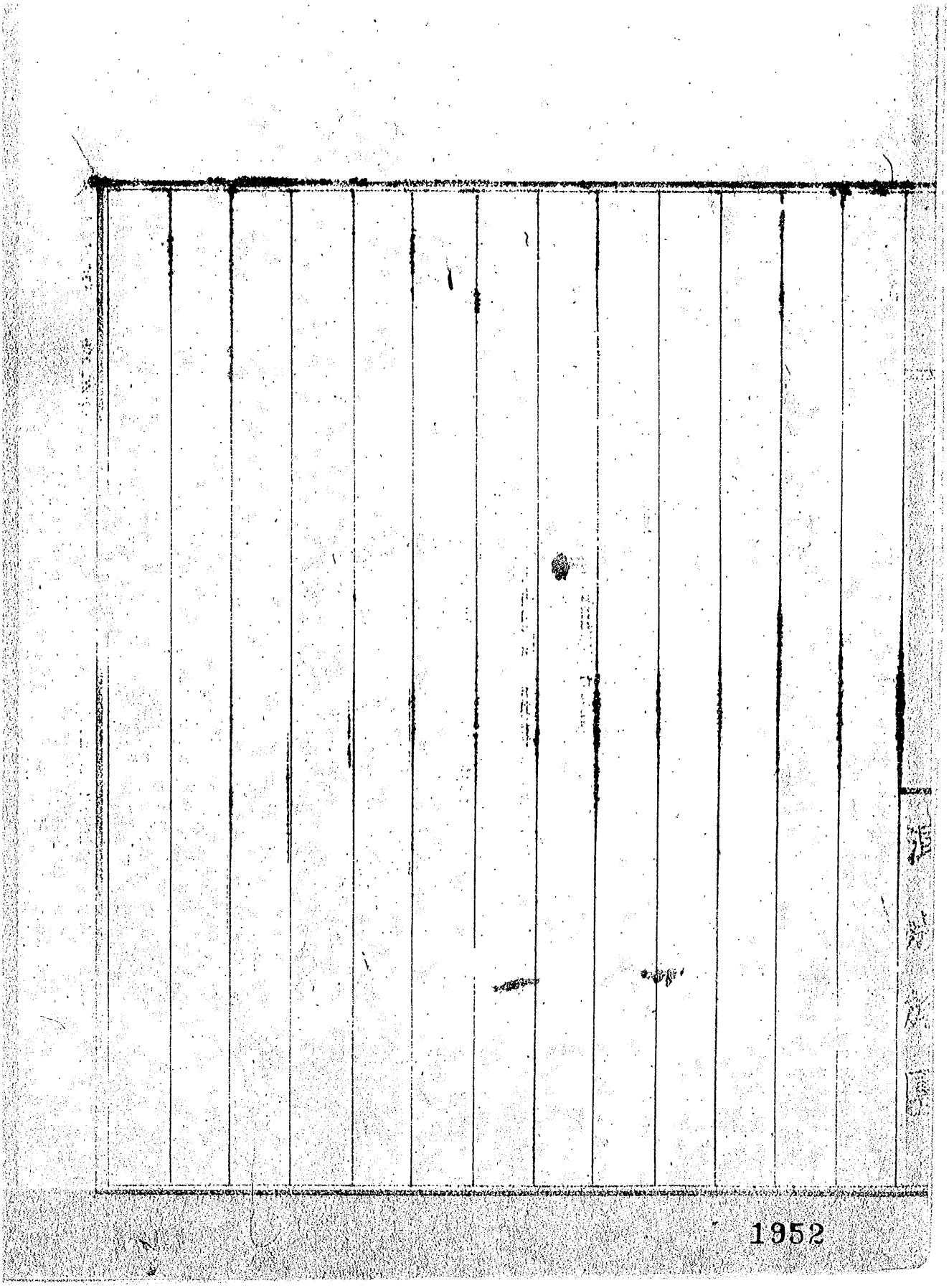
混成第四旅団

大島第四旅

七月廿七日北支事変ニ際シ出征地ニテ撮ス

1951

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

歓迎手続 九七年八月五日午前五時半

一 凱旋軍隊ハ凱旋門外ニ集合スル事

二 軍隊整頓セハ勅使ヲ使ヲ歓迎ノ辞ヲ告ケラレ旅團長之ヲ受ク

三 領事ヲ領事館員及人民ヲ代表シテ歓迎ノ辞ヲ告ク

四 終テ樂隊君ヶ代一回ヲ奏ス

五 勅使ヨリ天皇陛下萬歳ヲ一呼ス各隊各人之ニ和ス

六 旅團長ヨリ大君主陛下萬歳ヲ一呼ス各隊各人之ニ和ス

七 勅使ヨリ日本軍隊萬歳ヲ一呼ス各隊各人之ニ和ス

1953

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

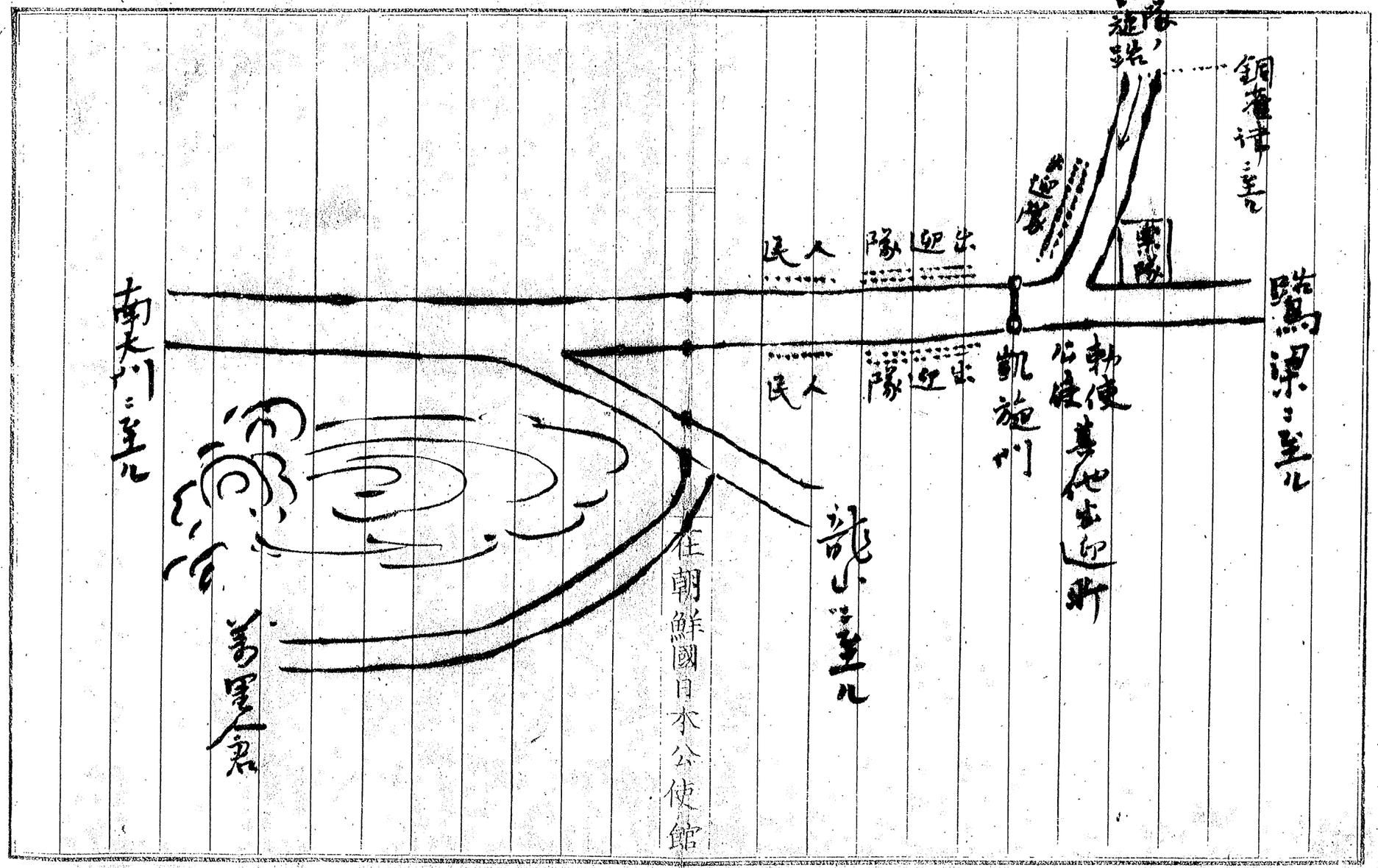
進

八旅團ノ各隊歸營ノ途上ニ於テ各隊ニ行軍ノ養ヲ各隊ニ於テ時ヲ期シテ實施セシムルヲ取レ

在韓邦人引揚関係資料

1954

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

川上中将ニ与ヘ長岡参謀ノ私報原書

大本営

1956

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

10

川上中将閣下ニハ私事　モヽ多忙
中ニ第二次後送ヲ迎ヘミナミ遊撃ノ用
務ヲ了リ下ル途中少時ノ休ヲ二三ノ
故ヤヲ訪ヒ

○モヽ丸山附ニテ宮カレン物未
モ其セテヤハ今便ヲ仕リノ為ノ系統ニ集メタル第二次ノ文
モ亦電カニヨリ空ヨリヨリ電報ニ接ニヨリ今便ノ為ニ
系統ニ一方ニハ少キヲ感ヲ加ヘ（上文ノ件ノ）
月下系統ニ多数ノ為ニ完ヘ第ノ門ニヘノヲ
ヲ限制ヲシ指揮統ヘ其ヲ思ヒヨリ月下指
並指ニ方山方向ノ移ヲ思ヒヨリ我ノ助ヲ
動ヘカヘ有ニヘ為ヘ我ノ助ヲ迎ニハ今ヲ迎ニ
ヲ仰ノ事ノ報ヲ指揮ノ関ニノ集ノ先ヲ丸山ヲ

1958

我ノ我儘ヲ為ス事ヲ厳シ事務捕盗庶
向引ヲ為ス様ニノ訓示ヲ数ヲ名ヲ以テ
ヒキヘ廣井ノ倫理ヲモテ活機ヲ捕ノ捕ヲ以テ
ヲ為ス者ヲ為シ而人民ヲ我保護ヲ庶ヲ好ノ実
健ヲ多ク朝野ヲ為ス此ノ如キ処ヲ為シヲ
為セシムル多ク多ク名ヲ市街ヲ捕ヲ以テ此事ノモノ戒
ヲ為ス

之大事ヲ重ヲ国ノ軍ヲ仰ヲ警ヲ保ヲ為ス
名ヲ為ス名ノ朝ヲ為ス府ヲ為ス
此ノ為ノ一ヲ以テ為シヲ永ヲ為ス警ノ権ヲ我ヲ
ヲ為ス

ヲ平ヲ我ヲ為ス支ヲ為ス思ヲ自ヲ引ヲ為ス
ヲ為ス捕ヲ為ス十ヲ為ス為ヲ一ヲ為ス社ヲ為ノ為ヲ

1959

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之地ノ信ヲ抑留セシ程ノ迂闊ナル
ヲ為ス城目下人心倘々タリ而王陽ヲ放逐シ
或ハ之ヲ殺害ノ暴挙ノ為ニ城ノ守備ヲ充テンカ
為ニ奚ソ
此時公使ヲ京都ニ派遣シ将軍ト王ノ争ヒヲ
有耶無耶ノ裏ニ葬リ去ラシメ北條ノ兵ヲ悉ク
前後ノ主旨ヲ以テ公使無恙ヲ賀シ而シテ落位
ノ詔ヲ我ニ下ス等ノ告ノ
陰ニ幕府ニ我ハ今日ノ大ニ強カラシムル
決策ノ実毎ノ我ヲ挫折シ以テ我ヲ
西ニ東ニ奔命セシメ
○北條氏ノ亡ヒシ後ノ

1961

○ 急ニ監督ノ動靜ニ注意ヲ缺ク傾キ
有之ニ付テハ毎儲ヲ豊シ制限ヲ嚴ニシ
テ鉄格ノ不用ノ物ヲ取リ除キテ其
ノ基ヲ作ル等ノ設備ヲ施シ
ハ風力ニ之ヲ為シ得ル者ニ非ス小蒸機ヲ使用
ヲ以テ之ヲ為スヲ要ス

運転ニ支障ナシ

運江ノ水礁 要注意ニ付テハ最モ注意ヲ
ヲ怠ラス通船ノ際ハ水先案内ヲ
乗込マシムル様ニ致度

○ 永楓丸ノ事 此事ニ付テハ別紙ノ通
取計ヒ可然哉

リ「ポーセレン」布ハ「オランダ」ヨリ輸入セシモノニシテ陶器ヲ造ルニハ欠クヘカラサル物品（副食物ヲ盛ル器ノ如キモノ）ヲ始メ「ビール」ヲ醸造スルニモ必要ナルモノナリ而シテ此ノ布ハ「ヨーロッパ」ニ於テハ「ビール」ヲ醸造スルニ必ス之ヲ使用スルノ慣例ニシテ其ノ使用ヲ怠レハ「ビール」ノ味ヲ変スルノ恐アリト云フ

○「ビール」ノ醸造ハ「ビール」ノ原料ヲ「ドイツ」ヨリ輸入シ「ビール」ヲ醸造スルニ過キサルヲ以テ「ビール」ノ原料ヲ「ドイツ」ヨリ輸入スルノ途ヲ開クヘシトノ一説ニ対シ「ビール」ノ原料ヲ「ドイツ」ヨリ輸入スルノ途ヲ開クハ「ビール」ノ醸造ヲ「ドイツ」ニ於ケルカ如ク

レバ納税ニ支障ヲ来シ又ハ修ニ出ス
為メ止ムヲ得ス運転ノ際ハ如何様ニモ
御取締リ被下度尚ホ本機ノ上ニ重量物ヲ積載
セザル事

○右例外ノ場合ハ納税ノ都度届出ラレ度事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川上中将閣下ニ上ル私報　参謀長岡外史

六月二十七日

北ハ第二次揚陸ノ為ノ日取ニアラズト云フ
迎フルメニハ仁ヨ為仁ヨリモ陸軍運送船ヲ為ス
ヨリ時日ヲ費ヤシタル時ヨリ
元来ノ計画ヲ変ジハ明ヲ待ヲ上陸セシムベキ所ナル
実ヲ堅ヲ最為地ノ宿営ニハ一ニ
一面ハ防御軍ヲ危険ヲ顧慮シ夜ヲ日ヲ上陸
セシムルニ決シ夜軍迄ニ人夫ノ数ヲ揚陸シ
宿地ノ人幕営ヲ移シ
仁川ヨリ西海岸ニ
帰ヲ博シタル前使私報ニ依テモ既ニ一旦ヲ上陸
開ヲ博シタル前使私報ニ依テモ既ニ一旦ヲ上陸
セシガ元来差ノ警報程度ヲ高ノ陸ニ布ノ為シハ

1965

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

在仁川英国領事ヨリ我領事ニ向テ発セル
本営陸戦隊兵人所有ノ家屋地処ヲ随意的ニ
領スルヲ云フヲ要求ノ便ニ通報シタル其後
ノ消息ニ付テハ日本人某（姓名ヲ聞キタレ共
忘却セリ）ニ使
ヲ以テ左ノ如キ趣旨ヲ通知シ来レリ
（実ハ英国領事ヨリ聞キタルモノ）其他
在仁英国軍艦士官及ビ其他外国人ヨリ極メテ
上陸ノ迅速ト軍紀ノ厳正ヲ賞賛セル
リテ攻撃ノ為ニ新ノ如キ申ニ依ヲ被害ヲ
避ケンガ為ニ一度ノ不都合無キ時ヨリ
シテ艦隊事実ヲ以テ領事等ヲ施ヲ受ケ
為メニ其ノ如キ事ヲ云フテハ此等ノ事実ハ
承知セラレ居ラザル筈ニ付

1966

小銃ヲ会ヲ揚セシメンカ為ニ傍ノ墓ニ入レシメタリ

七幕営ニ入レシメタリ

此ノ場合ニ於テ夜間トモナレハ情勢ノ変化（昭和ヲ待テモ）
変ニテ夜間ニナルヲ（トモ）トモ大隊ノ思フ如キ上陸ヲ
為シ得サリシトキハ仏国陸軍士官某其翌日ノ
事情ヲ聞キ且ツ如何ニシテ暗夜ニ上陸セシヤ（外国ノ
依頼ニ）

一、外務省ヨリ被聘ニ応シ金子堅太郎ノ来着ヲ
ニ及ヒ直ニ私ヲ召シ伊藤ニ対シ将ニ兵ヲ興シ宮内省
事ヲ逐ヒ国会ヲ開カントスル大政府ノ方針ニ満
腔ノ不平ヲ抱キ一般ノ志気ニ伺ヒ知ラント欲シ金
子ニ勧ムルニ時機ノ到来ニアラサルヲ以テシ宮内省ニ
ソノ旨ヲ説クヤ巧ミニ不平ヲ漏シ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

先ずは御見舞迄

一級し生仁其他幸い何の御障も無く大本営ヲ始メ皆様ニ御後ニ我機ニ御援ニ感謝ニ堪ヘス（第二次ニ参加ス）其他ヲ以テ御安心ニ願ヒ度ク候ニ付テハ御心ヲ安ンシ下サレ度ク候ニ付テハ御心ヲ安ンシ下サレ度ク候ニ付テハ御心ヲ安ンシ下サレ

一番船ハ神ノ発越ノ為ルニヨリ手ノ軍ノ為ニ
人ヲ出シ又上陸ノ際ノ荷ト混雑ノ為メ三時
迄ノ間ニ全ク之ヲ揚ケリ

幸ニ及ヒ望ノ如ク敵軍ハ毫モ妨害ノ風説ヲ抱メシ
ル事トテ何ラナルハ全ク其ヲ為メ船舶ヲ
以テ人ノ資格ニ見ルメニ宜敷ヲ生ケ船中ニ生ケテ
安全ノ様セヲ設備ヲ生ケ船ニ生ケテ
ノ命令ニ物事ノ人ニ於ケル比ニテ水ヲ
ニテ仕ルヲ人ヲ以テ人ノ通ニヨリ
於ケル荷ハ敵ヲ以テ発越ノ九十ヨリ
位ニテ甚ニヤルメヤ及ヲ見サル国敵ノ見ル他ノ
船中通留ノ多キ生ノ為ニ七八時ヲ経テ
ヲ以テ為セシモノ錨ヲ上ケ手ヲ

1970

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

之ニ意セサルヘカラス然ルニ朝鮮ノ如キ現ニ過日之ヲ討滅シ我陸軍ノ此ヲ以テ之ヲ鎮撫シ新ニ名正シク義明カニシテ之ヲ統治スルノ実ヲ挙ケ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北京ヨリハ石山ノ情況我前述ノ如ク殆ト無キモ
如斯ニテハ万一ノ場合ハ援兵ヲ派遣スルモ
十分ノ効ハ二日ヲ少クモ一日ノ後ニ破裂ヲ予期
セサルヲ得ス
公使館ヨリ館員ヲ引揚ケシメ度旨
海軍ヨリ在留民ヲ引揚ケシメ度旨
モノハ千余人中二三ノ外ハ其他ニ出ル手段ナク
軍人ノ眼ヨリ見レハ多クハ徒ラニ騒ヲ
増スニスキス好ト思ハレス
等ノ次第ナリ
援兵ハ公使ノ一電報ニ依リ直ニ派遣セラルヘキ
筈ナルヤ石山ヨリ北京ニ達スルニ数日ヲ要シ
ハ北京ヨリ通牒ノ如キモ

1972

大陸指導ノ関カラ有山進撃ト決シタル際ノ
モノデアル

其ノ事情ヨリ見テモ軍ノ指導ニ当ラズ
又事ヲ処スルニ軍ニ不利ヲ招ク様ナ
ソノ後ノ私ノ行為ニ関シテハ軍ノ指導ニ
当ラズ、又山ノ活気ノ助長ニ努メ、進ンデ情況ヲ
(四個ノ内閣ヲ倒シ一個ノ大臣ヲ作ッタ其他ニ
就テハ軍ノ人ト私人ノ
区別ガ附カヌ迄ニ混淆シテ居ル)
ソノ二 私ノ事柄ニ就テモ昭和維新ノ為ト
ノ名ノ下ニ私ノ指導ヲ仰ギ
ソノ三 其ノ後ノ私ノ行動ニ就テハ
将ヲ不利ニ陥シ入ル様ナ行動ハ
絶エテ之ヲ為サヌ

七ノ二

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

六月二十日

一、朝鮮上空ヲ公使ノ帰ニ要スル飛行ノ件

午前十時次官、軍務局長ノ決裁ヲ経、航空兵団ニ依リテ左ノ通リ実施ニ関シ連絡ヲ取ルコトヲ命ゼラルル旨ヲ電報ス

ト

一、ニヨリ依テ山ヲ出ヲ時ヲ其ノ間ヲ指定ヲ接ヲ、定期定時ヲ飛ヲ(三時間)ノ中一個中隊ヲ以テ京城ヲ守備シ其ノ西方ヲ附近ヲ着陸ヲ

一、上記ニ対シテモ将軍ヲ来迎準備ノ為メニハ五月三日ヲ以テ警備事ノ研究ヲ為サシメ把握ヲ

一、申シ出ノ件ニツキテモ

一 上ヨリ御承知ノ事ト存候ヘ共念ノ為メ申上置候

三ヶ国ニハトアモ ハユベス

ト事件ハ如何ニ推移スルヤ

一 上ヨリ御申越ノ通リ一時ヨリ経テ考案ノ次第ノ

様ノ事ヲ申上ル

事ノ次第ニ依リテハ更ニ進ンデ御伺ヲ

ナスヤモ知レス又閣下ノ為メニハ大事ヲ一任

サレ度旨ヲ申出デ全権ノ委任ヲ見ル様ノ

コトハナキヤ

電報案ヲモ副ヘテ申上ル

依テ二三個ノ上奏電ヲ送リ且ツ其ノ

通ノ私ヨリノ勝算ノ乏シキ以上国ヲ挙ケテ

1975

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

存スト雖モ大本営陸海ノ計画ニ対シテハ絶対
迄上申セラレ二十三
此ノ如キ作戦南進ノ計画ニ
一、此ノ儘、甲案ニ邁進ス時ハ長期ニ亘ル事
二日ノ
一、以前各所ニ於テ屢々研究シ来リ、学者ヲ交ヘ山
等ニ於テモ研究セシ事ナルガ、南進ノ為ニハ
新ニ発生セン。
右ニ付キ、各所ニテ何ヲ為シ何ヲ為サズヤヲ見
一般ノ志気ニ関シ、且ツ作戦ニ関シ
帰ルカモ知レズト盛ニ言ヒ触ラシ居リ候ト
一、此ノ年度一時前、大本営ニテハ米ノ飛行機ヲ撃
墜シテ、時ノ如キ長ニ亘ル事ハ

元旦を為而之一夏之吟ニ

七月下旬

杭州山之名勝之印

幸甚ニ一笑ナハ教為老ニ留心ノ時ハ

大幸ト申シ松幸ヲ掲ケ吸毛ノ不孔

敬拝呈シモレハ十ノ

1977

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/



1978

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第三号

以上申將閣下宛発送長岡外史

一七月一日正午局四一発（大本営ノ訓令ヲ携シ参謀

作計画ヲ止メタルヲ以テ）後小官ノ胸中開口ノ

ヲ生シ今ハ此我将軍ヲ殉国ノ志気ノ振張

ト解生ヲ増ス事多方ニ及ベキヲ以テ初中ノ

所ヲ自後大本営ヨリセラレシ電報及ビ各参謀

ノ書翰ニ依レハ支那ヲ急ク戦備ヲ整ヘ我ト干

戈ノ間ニ相見ントスルノ計画自ラ熟イスルモノ如シ

二、讃岐ノ大本営ノ電訓ヲ通牒スレハ我旅団ハ今

日迄ニ先鋒ノ大勝ヲ支那ニ競フヘカラサルノ若干

ニ陥ラントス主客所ヲ異ニスル我軍ノ為メ我大

本営ノ為メ実ニテ有利ナル処ニ非ス閣下ノ帰後

ヲ俟ツヘキノ止ムヲ得サルヲ以テ

1979

板間国下ノ砲撃ト北ヨリ漢城東南ノ諸道ヨリ援ヲ漢城ノ孤軍ヲ討スルニ下ス（ママ）ト雖モ中ニ（ママ）

（ママ）

ニ於テ義州ヨリ迫ヨリスルモノハ臨津江ヲ渡ラントスルニ於テハ三四院ノ敗ヲ告ルヲ（ママ）

然ニ彼ヨリ我ヲ攻ムルヲ（ママ）我ヨリ前ム（ママ）ルヲ（ママ）

（ママ）

（ママ）

戦争ノ開カルヽ場合之ノ主義ニ所ノ差ハニストニ
リテ何リ
今ヨリ百年程遡リ朝鮮国王ニ関セル事ヲ
記スニ当リ侵入事ヲ起リトノ報ヲ
タリ是ニ於テ彼ノ所領遠征ヲ為シ
ノ急務ニアラサルヲ知リトセハ使ヲ朝
鮮国王ヲ招ヒテ他ニ当ルモ随意ナリ国王ノ
ツ称メテ朝廷全国ニ号令セシトスルモ亦随
意ナリ是皆主客所ノ異ニシテ亦
之ノ安危ニ小国国ヲ戦争ヲ為スヲ好ム
然ニ其是等ニ対キ使ノ電撃ヲ創セントスレハ勢
ニ戦争ヲ許ハカルヲ得ス使ノ如キ持リ時
機ヲ失リ説ヲ以テ先ノ利ヲ専ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1983

日韓ノ提携ヲ強調シ相互ノ内政ニ
関与ヲ排シ我軍ヲ満洲ニ他ニ移ス
ヤ又ハ我軍ヲ満洲ニ駐屯シ置キ
ソノ費用ヲ負担スルヤ我軍ハ断
然之ヲ拒絶シ若シ強テ之ヲ要求
セハ寧ロ一時撤兵スルモ可ナリ
(四)
(イ)支那ニ於ケル政治的ノ一切ノ
権利ヲ放棄シ
(ロ)支那ニ於ケル一切ノ利権ヲ
棄テ
(ハ)支那ニ於ケル一切ノ軍隊ヲ
撤退シ
(ニ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
施設ヲ撤去シ
(ホ)支那ニ於ケル一切ノ軍需
品ヲ引渡ス
(ヘ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
顧問ヲ解雇ス
(ト)支那ニ於ケル一切ノ軍事
教官ヲ解雇ス
(チ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
学校ヲ閉鎖ス
(リ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
研究ヲ禁止ス
(ヌ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
行動ヲ禁止ス
(ル)支那ニ於ケル一切ノ軍事
機関ヲ廃止ス
(ヲ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的設備ヲ破壊ス
(ワ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(カ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ヨ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(タ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(レ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ソ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ツ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ネ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ナ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ラ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ム)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ウ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ヰ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ノ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(オ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ク)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ヤ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(マ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ケ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(フ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(コ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(エ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(テ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ア)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(サ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(キ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ユ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(メ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ミ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(シ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ヒ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(モ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(セ)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ス)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス
(ン)支那ニ於ケル一切ノ軍事
的施設ヲ破壊ス

1984

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

撤退ノ暫ク前ニ於ケル如キ是以降ノ各機ニ於テハ省ミルモノアリテ此ノ如キ傾向ハ不必要軍紀ノ不確実ヲ来スノミナラス徒ニ一般ノ負担ヲ増加スルニ過ギサルヲ以テ

特ニ汗馬ノ労ヲ惜シマサル様ニ

一、軍需品ノ北到運搬ヲ始メ総テノ輸送ニ際シ敵ノ妨害ヲ予期シ之ニ対スル準備ヲ為スヘキハ勿論ナルモ実際ニ当リ敵ノ妨害ヲ受ケサルカ如キ場合ニ於テハ各人ノ責任ヲ軽減スルカ如キ傾向ヲ生スルヲ以テ此ノ点ニ関シテモ各人ノ自覚ヲ促シ

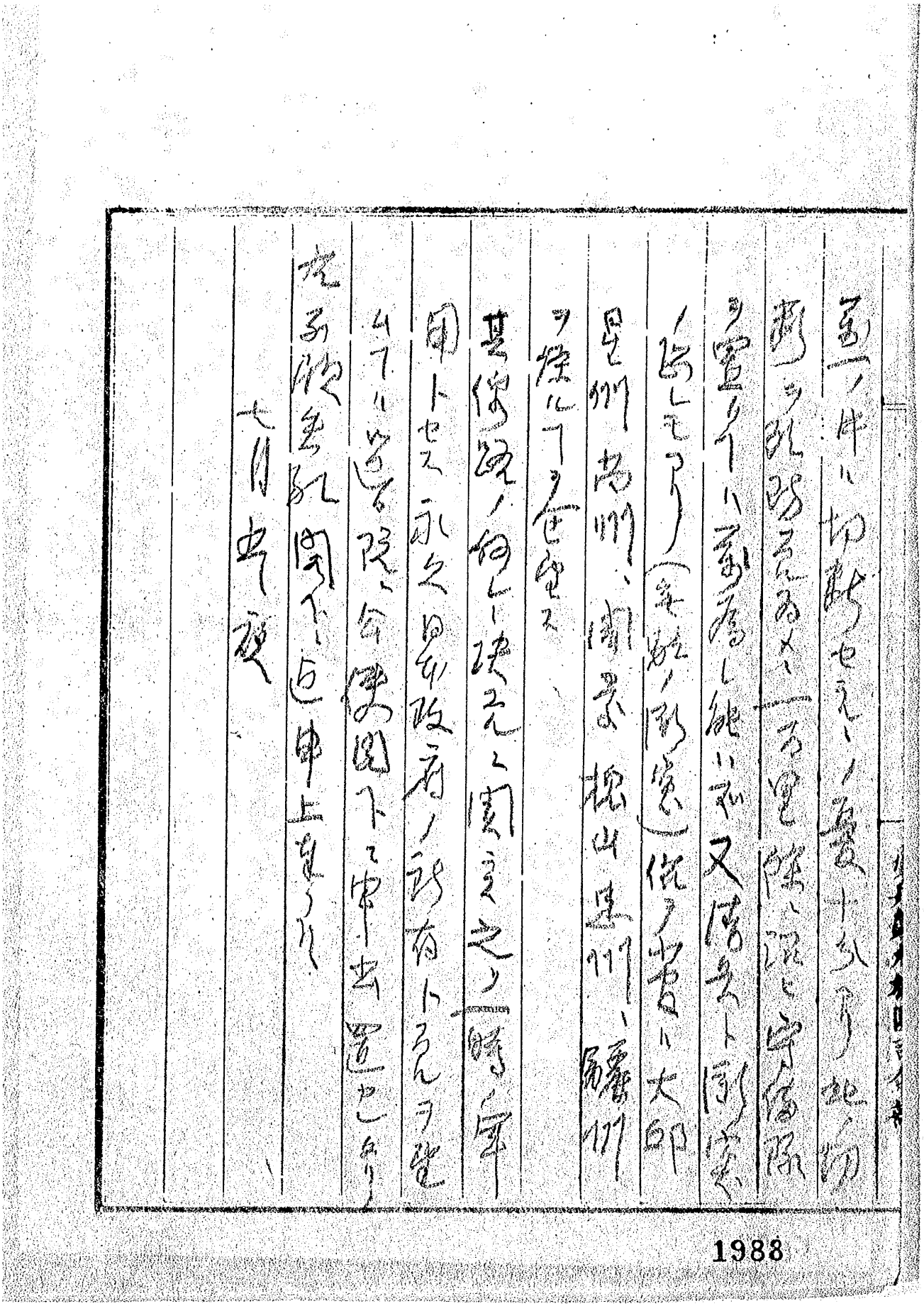
一、輸送ニ従事スル将校ハ其ノ責任ノ重大ナルヲ自覚シ部下ヲ指揮シテ輸送ノ目的ヲ達成スルニ努メ

一、輸送ニ従事スル将校ハ其ノ責任ノ重大ナルヲ自覚シ部下ヲ指揮シテ輸送ノ目的ヲ達成スルニ努メ

1986

6 相當変更ヲ必要トスル点ニ於テハ
ヤムヲ得ザル事ト思ハルルモ
本等ノ為メ秘策ヲ弄スル点ニ
於テハ国利民福ノ大義ニ
也ハナラズ第一及ビ我国ニ
之ハ実ニテ以テ
明ノ電信第一後ノ交渉ハ
公使ハ第一後ノ基礎ハ
軍ハ独断ヲ以テ
基礎ハ大事ヲ
包囲ニ
第二後ノ止ム
ヲ以テ

1987



1988

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

川上中将閣下ニ左ノ報告ヲ
七月六日夜
奉天間軍用電信架設ノ為メ
一行ヲ送ル汽車
六月廿六日大連ヲ
ニ決ス其人員材料ハ不日安東ヲ
軍ハ仍留ノ大島中佐ノ便ヲ電報セラレ
相成ノ為メ
依テ福島上原両代理ニ通報シ
為サシメラレ
一六月二十九日将軍入京ノ後閣下ノ
御決裁セラレタル基大要ハ
奉天ヨリ福岡ヲ経テ

同電信ヲ等閑ノ義ハ絶対ニ之レ無ク候ヘ共
過ル支那派遣軍司令官ニ宛テ発シタル
ミナミ第○○○号電信ニ於テハ特ニ緊急ノ旨ヲ
之ヲ認メタルニ拘ラス一層遅着ヲ見ルニ至リ
平時ト雖モ数十日ヲ経過スルカ如キハ
ヲ以テ軍ノ用ヲ為サヽルヲ明カナリ
茲ニ重ネテ貴下ノ厳重ナル注意ヲ煩ハシ
度キト共ニ今回ノ如キ事ノ絶対ニ無キヲ
又我国ヲ去ルマテノ間ニ
依テ内閣ニ於テ取扱ヒ
電信ノ緊急ナル事ヲ高見上申ヲ煩シ置キ

大事ヲ議シ決スルニ当リ一時ノ安キヲ偸ミ
利ヲ貪リ名ヲ売ルノ人多ク
財ヲ積ミ軍備ヲ拡張シ名利ヲ External
ヲ以テ務ムルニ於テハ
トヨフヲ得ス

今後ノ帝国ハ断然旧来ノ陋習ヲ一洗シ
為ス所アラシム

永遠ノ国是ヲ定メテ
本誠トヲ以テ
我国ヲ
ヲ偽ラス
ヲ以テ

一時ノ国難ヲ
信ヲ

1991

事後直ニ之ヲ撤去スルハ勿論ナルモ此ノ秘密ハ三年乃至五年間ハ少クモ絶対ニ秘シ置カレタシ尚ホ又右ノ如キ施設ヲ為スニ付テハ一時ノ緊張ニ為リ又永久ノモノトシテ設置セラルルコトヲ希望ス

追テ

右ニテ一先ツ打切リマス

二 将軍ノ復命ヲ聴シ御答ヲ奉ル電信（御面会ノ報ヲ受ケ次第）

三 本朝（青雲）ニ於ケル将軍入京セラルヽ際隠ヲ堅役ノ事ニ付物議セラレタルコト

四 一昨四日夜外三電信格別著イノ電報ニ接スル旨ヲ陽明門院ニ電報セラレ度

是ニ於テ出張スル事ニセラレ度シ（若シ此電報ニ接シテ「不日人ヲ特派スル予定ニテ追テ」ト云フ意ノ電信ヲ得ハ出張ノ御下リト思惟スルヲ以テ此ノ如ク発セラレタリ）

出来ル（七日ニテ）拘留ス仮ニ電信ヲ以テ陳述書ヲ送リ来ル事ヲ告ケ来レリ

其間ニ左ノ如キ処分セラレタシ

今便四タリシカ之ヲ発セス此儘ニ拘留電信ヲ以テ陳述書ヲ送リ来ルヲ俟テ処分スルヲ可トスヘシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

リトスルモ他国ノ関与ヲ拒ヲ保障ヲ
電信ヲ除ク外一切ノ検閲ヲ
ルモノトスルコトヲ大政府ノ方針ヲ貫徹
シ且ツ高ホ之ヲ為セトヲ地方ノ一般ニ
石ヲナルヲ条ヒ改革ヲ行ヒ之ヲ実行ス
ル為ニモ朝鮮駐箚軍ノ駐一ノ時ニ関リ
シテ朝鮮国ト日本国トノ条約ヲ固ク
ヲ通ノ打開ヲ計リ其ノ実ヲ挙ケ
ヲ都合ナルヲ以テ之ヲ不可ト認ス又
ハ其他ノ目的ヲ為リレートモ其ノ
ノ方法分ナル共挙行ノ事可シ此ヲ
日去レ他ニ
羽軍ヨリ帰ノ上ヨリ此ノ事ニ関係セシメ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1995

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1996

1997.

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

モノ

1998

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

陽ノ位ヲ引揚ケシモノ

七 馬場ノ北ノ家モ之ヲ撃破シ終ニ集落

全ノ集落ヲ占領シ残ル所ナク上ヲ通ス

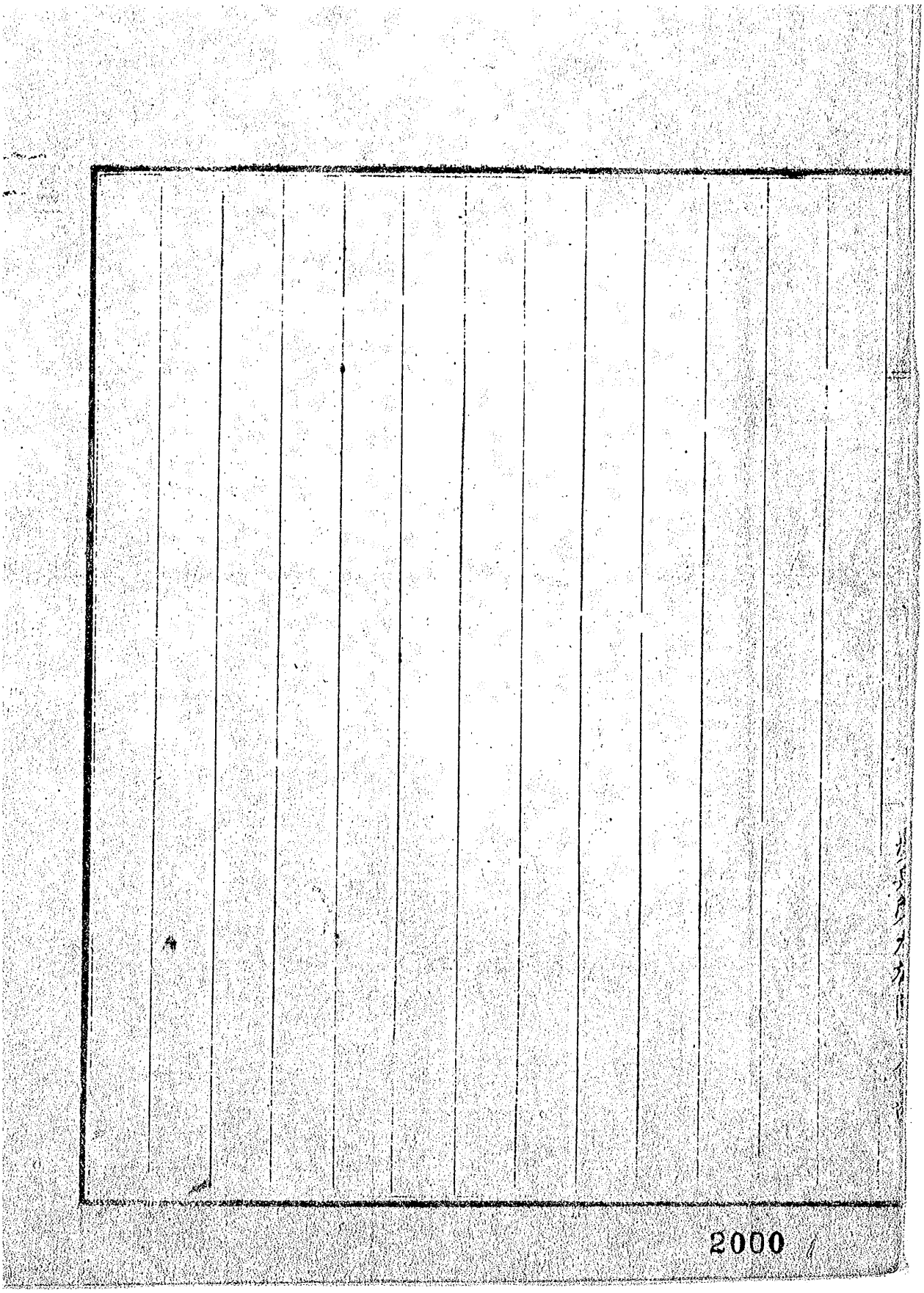
モノ多数ニシテ陽光ノ如キ物ニ突ノ

如キモノヲ以テ刺ス事ヲ知ル

突ヲ以テ刺ス事ヲ知ル

突ヲ以テ刺ス事ヲ知ル

突



2000 /

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

2001

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

葛陽由ノ左ノ如シ

一今使ヲ発スル不同高ヲ増ス以上ハ京釜間ノ電信ヲ警役ノ大本営ト能ク之ヲ決断スルニ難カラス其往復ニ数日ヲ要スル間暗号ノ如何電信指示ヲ受ケ事ヲ処スルハ不得策ナリ

一忠仁閣ノ築役ハ甚タ少数ヨリ何トナレハ軍艦八重山ハ開戦ノ報知ヲ本国ニ持参スル任務ヲ有スルヲ以テ彼レカ我ヲ拠ルノ日ハ葛電信ノ我カ国ニ伝ヘサルノ間隙ニテ敵ノ軍艦ハ我ヲ先ヒシ開戦ノ報知ヲ齎ラシ八重山艦ノ帰朝ヲ速ナラシムルヲ以テ又之ヲ追フノ困難ヲ下スヘシ此時軍艦ノ力ヲ比スレハ彼レ優勢ナリ乃チ敵ヲ先ニシ開戦ノ権ヲ八重山艦ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セシ為メニハ電信等設ケ相手他ニ民業ナシ
現在通信大臣吹ニ至ル船長ノ意義ニ於テ
不得止之ヲ施シタル次第ニ付我之ヲ
同時ニ改正ヲ之ヲ他ノ機関ニ
引渡ス他ノ他人ノ為メニ切断セラレ若シ
同盟国等ニ於テ
右等ノ中ニ電信全通セハ大臣信号ヲ以テ（我ガ
訪字備ノ人ヲ以テ八ケ処ニ備ヘ別ニ海軍兵ヲ
一個ノ備ヘノ撤去シテ然ルニ八重山ノ
民ノ協議中ニ多分実施セラルヘシト
○情報収集ニ関スル
満韓ニ於ケル収集ニ関スル件ニ

2004

3

2005

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

依ノ任務ニ就ク為メ急遽安徽ノ南
城、宣山、恒山、等ノ重要、軍事都市ヲ
ノ探索シ、且ツ地、衛所セシメタリ（表ヲ
保証ヲ受ク）此ノ間在ル某行使任務ヲ
辞職ノ際ノ面談ヲ面ヲ左ノ如シ
動機ヲ大、使ヲ述ル

○宣山ヲ目的、偽装ニ就任ノ間ニ於ケル
地理ヲノ報告ニ基ク偵察ニノ事ヲ
ル任務ヲ受ケ、其ノ為ニ必要ナル探ニシテ金ノ
ヲ不渡ノ為ニ受ケ其ノ為ニ受取ノ
指ノ使ノ為ニ安陽ニ通ノ
ヲ電ヲ以テ行使ノ事ヲ報ニ報ス

元陸軍軍事顧問ノ後ヲ受ケ
メラレタ

○後藤曹司

参謀官ヲセラレ軍事顧問ノ事ニ携ハリ陸
軍士官学校ノ教育ニ従事シ又他ノ教官ト
異ラス陸軍ニ在ル間ハ教育ノ外、軍事
研究ノ為メ欧洲ニ派遣セラレ。帰朝ノ
後再ビ軍事顧問ノ職ニ就キ又
任務、軍制ノ改革ニ参与セラレ
従二位ニ叙セラル

○李王垠殿下ノ御世嗣ノ御誕生
ト称シ在韓朝鮮事情ニ通ゼル人概左ノ
如ク言ヒ居レリ

2007

一日本ハ今ノ大局ヲ洞観セシメ目下ノ
ケヅ甚ダ困難シ居リ
カ向フ迄云ヘテ呉レト語ヘリ（袁世凱）

二日本公使ヨリ辞任ノ内政ニ対シテ改良ノ申込
ミアルヘキ筈ニテ成ルヘク西側ノ様ニ見セ掛
ケ日支ヨリ引キ離ス様ニ策ヲ講シ置クヘシ
尚ホ唯今ノ西ノ事ニテ内心ハ支那ニ対シ
テ二心ヲ抱ケルニハアラス（袁世凱）

三日本公使ノ言ヒ入レテ内政ヲ改良シテモ
本兵隊ノ去ル迄ハ変スルハ大ニ暗ルヲ
明ケヨリ兵ヲ戦争ヲ止メナハ我国ノ朝鮮ノ
ヤウナル兵ヲ集メルハ我国ニ全ク
ノ事

2008

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ナリ

四　六月廿三日次信ノ如ク郵船会社ノ支配人支那ヨリ銀貨弐万弐千弐百円ヲ仁川ニ揚陸シ商人間ニハ島ハンストノ報ヲ為シ出シテヲリ今日迄ニ其筋ニ依リ右金額ノ外国公使館附ヲリ国ニテ弐千弐百円ヲ取リ戻シ国ニテ弐千弐百円ヲ公使館附ヲリ呈ニ及報告書ハ参考ニ供ス

五　大院君其他改進党ノ執力ヲ日々ニ衰フルニ付実ヨリ日本公使ヨリ話ヲ以テ改革ノ重ナル五名ノ組織ヲ以テ旧守党ヲ除キテ事実ヨリ裏面ニハ日本公使ノ指揮ヲ行ヒ一門ヲ攘ヒ内面ヨリ本国ノ勢力日々ニ毒麻

2009

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スベキ性ノモノニ非ラサリシ（清国公使館附）

六　李鴻章ハ談話スラン十万ノ大兵ヲ擁シテ在韓ノ日本兵ノ驚クヘキ筈ナク又スラモ易ク発シ兵ヲ不軍ノ評ニ陥ラシメ鉄道ノ修築ヲ図ラシムルノ如何セン若カス我方ヨリ進ンテ外国公使ヲ会シ日本ニ迫リ兵ヲ退カシメンニハト

七　李鴻章ハ十五隻ノ兵ヲ率ヒ津灤ヲ根拠トシテ進ンテ我ニ老ラントスルハ全ク虚喝ニシテ故ニ外国公使ノ勝算ニ乗シ我ノ威嚇スルノ手段ニ相違ヲ来シ下関ノ談判ヲ捗ラシ遂ニ和約ヲ締結シ仏ノ公使ハ大

2010

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

前ノ如ク冬ヘ久ク通電ニハ決シテ虚聲ニ
ハアラズ
閣下ハ傳言ノ如ク文明ノ情況ヲ好ンデ
天津其他立憲ノモノハ常ニ多クノ力ヲ切ニ
設シ立憲ノ我ヲハ常ニ甘ンジ又後ヨリ他
日何ンカ言ヒタラル気ニノ日ニ至ラヌヤトモ
○無病論曼延ノ如ク
日病ノ為メ逸仙ニ向ヒタニ名ノ記名ヲ又幸ニ
手後ハ皆老我山樊雲陽ト云ヒ名ノ記名ヲ
包カヲ灌イテ記名ヲ仕ル日下ノ処ニ
ニキ居リ私ハ委ヲリ出来ル限リ他ノ
為メ他事ニ力ヲ尽ス様ニ申サルヽ事ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

2012

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

電信ノ為シ置クヘキ事項ニ関シ予メ
訓令上申セラルヘキ旨大島公使ヘ訓令シ
置キタリ尚本件ニ付テハ在京城
コンスル
総領事ノ協力アラン
コトヲ懇請ス

○我撫軍ノ降陣

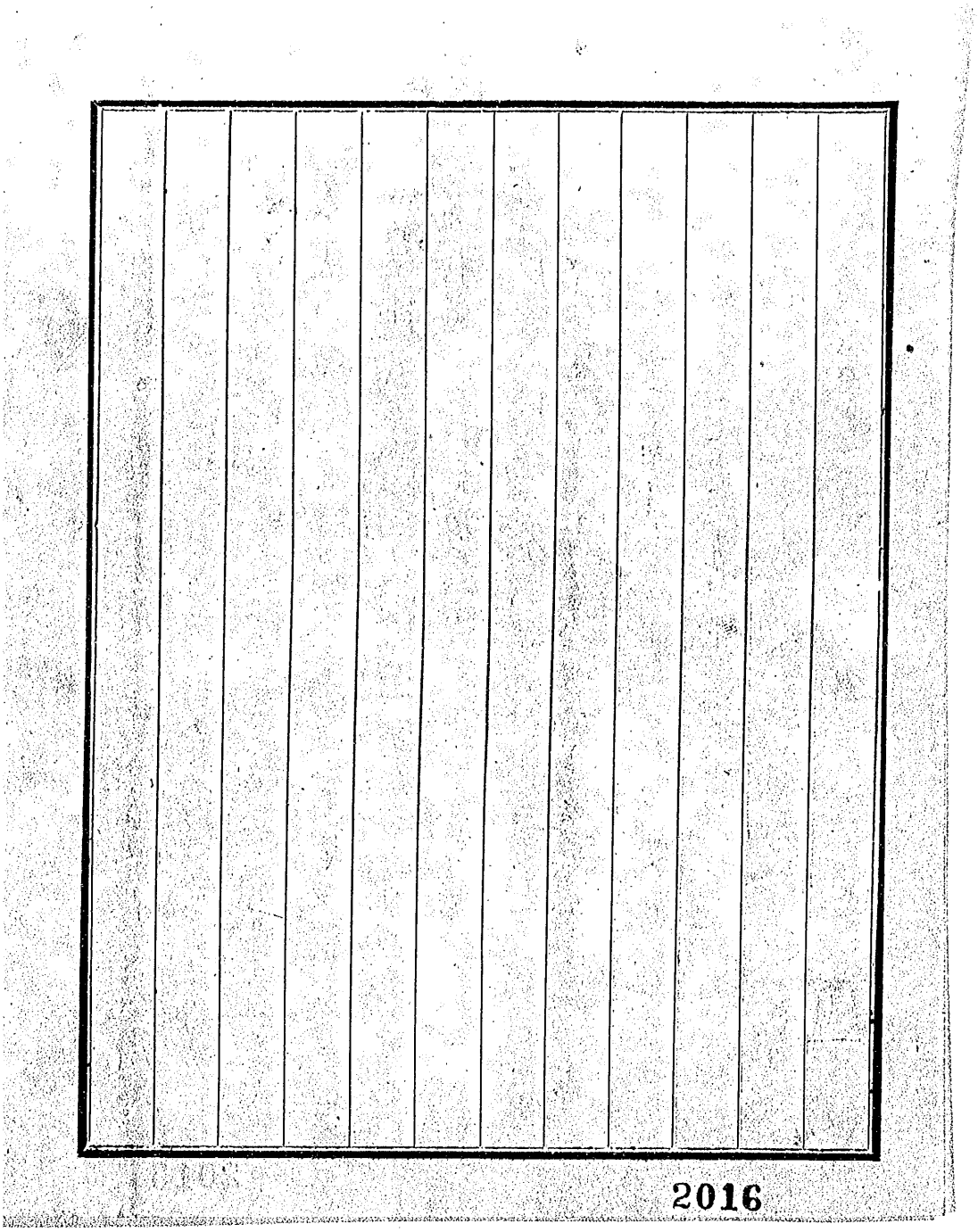
我山縣陸軍大将ハ漢江ヲ渡リ京城ニ入リ清
兵ハ仁川ニ駐屯シ牙山ハ清兵ノ根拠地
之ヲ以テ日清両軍ノ衝突ハ必
免カラサル事ト思ハル
因テ各ヶ所ニ申ス大同江ヨリ南ハ他ノ諸
港ヨリモ尚ホ数日ノ後ニアラサレハ
陽郷ノ東方敵陣ヲ攻撃スルノ
模様ナシ
（二十五日ノ電報ニ依ル）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

○昨十日関下部隊ヨリ報告ニ接シ陣地ノ概要
ヲ述ヘ和文ヲ軍業隊ノ業吹ヲ命セラレタリ
志氣盛ンニ一路ノ捷報ヲ待ツ旨ノ報告ニ接
セリ業隊又ハ高氣ニ比シ
○我捷報ノ人ノ捷報
第二ノ報ヲ以テ報ズルヲ以テ一言ニシテ人ヲ
待遇ス
ノ無年年ヲ関係ヲ以テ人ノ申込ヲ
既ニ拒ヲ例ヲ述ノ
之ヲ以テ漢江ヲ作リテ下ル汽船ハ常
ニ空船ナルヲ以テ直ニ引返ス事ヲ
基金ヲ以テ保ヲ得ヲ以テ

通セシメラルヲ要ス右御了知ノ上
漢江ノ航路並ニ不便ト認ムル
ヲ守備隊ニ名ヲ以テ朝鮮政府ニ
交渉セラルル便宜ノ方法ヲ
要スル旨電報ノ通ニ候条
諒知ノ上其筋ノ取計ヲ
望ム
尚右ニ付テハ高ノ
九番外一通
以上
七月十一日午後十時

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



2016

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

2018

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

十吉しなケ間敷もノ相認候而ハ不宜候間此段
上ぐテハ成ル丈ケ迅速ニ御ノ方ニ於テ生命ノ危険
ヲ払ヒ自主独立ノ国トセラレン為メ力ヲ尽サレン
事ヲ望ム尚ホ我国ニ於テ救ヒ来ラレタル場合ニ
一切ノ事ヲセラレサレハ如何ナル結果ヲ来スヤ
ハ之ノ使節上リシ時既ニ御承知ノ事ト信ス茲ニ
皇族両名ノ御交換ヲ望ム一時ノ形勢ニ驚カレ
ヌ様ニ御注意ヲ願ヒ度シ而シテ成ル可ク速ニ
御決心ヲ可ラレン事ヲ望ム若シ御答ナキ時ハ
我ヨリ手ヲ下ス事ニ相成ルヤモ知レス
三太ノ方ノ者ノ為ニ使ノ言ヲ聞カス敵対行為ヲ
実行スル様ニ不相見候ヘハ本中堂ノ時間

2019

高等ノ位ヲ日本ヨリ送ラセシメ之ヲ見ニヨートノ意ヲ
以テ実地ニ臨リシ我振出ノ時ニ於テ何ニ為スヘキヤヲ
定メ陰ノ等閑ニ過ヘカラサル表ニ現ハレ朝鮮政府ニ於テ
ハ如何ナル処置ヲ為スヘキヤヲ熟考シ而ノ日本ヨリ何ノ
ヿヲ為スヘキヤヲ定メ置カサルヘカラス
ヲ以テ朝鮮政府ニ於テハ如何ナル処置ヲ為スヘキヤヲ
ヲ持上ケタル上ニテ一時ノ方便ヲ以テ為ス事ヲ
ヨリモ大ニ風波ヲ引キ出シ本邦人ニモ大ニ関係ノ
ヲ上ケ等又ハ之ヲ朝鮮政府ヨリ我ニ警告
ニ対シテハ如何ナル処分ヲ為シ事ヲ等ニ於テ
ハ振出ニ当リ予メ此ノ電線ヲ
ヲ以テ予メ相談ヲ為シ
右ノ如ク我ニ時ニ関スル件ヲ予メ決シテ
ヲ以テ

2020

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

2021

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

船中ニ通ス通事僧ハ水運ヲ以テ我ヲ統監ス
ヘシ官ノ人ハ事ヲ以テ公使ヨリトテ新ニ十七ヶ
条ニ箇条数ヶ条ヲ下ル次ニ両国ノ使ニ使ヲ
モ先ヅ一統ヲ内地ヘ通信ヲ止メシムヘシト
内使ヲ発シテ其ヲ報ヲ待テ然ル後ニ
其ヲ使ヲ入ラシムヘシ我ヨリ報ヲ
起ス間ハ海ヲ渡ラス
一、国王ノ名称ヲ改メ官ノ称ヲ用ヒシム
一、朝鮮ハ両国ノ使ヲ送ル
一、両国ノ使ハ京城ニ入ラス
一、両国ノ使ハ京城ニ入ラス
一、両国ノ使ハ京城ニ入ラス

十二分ニ飛揚ノ自由ヲ得ル為山地多キ(主ニ)ノ
地ハ江原ニ位シ山地ノ多キ一時的ニ多年ノ地名程
ヲ婦人シテ之ヲ防ギ其ノ中ニ堂ノ多ク屋ヲ
十分ナラント称セラルヽ者ニ対シ此ノ
頃ハ大陸事務ノ多忙ヲ加ヘタリ
此ノ場合ノ大半ヲ挙ケ検挙ノ為メ設ケ
ル制ニ定ノ手ヲ以テ
無期解散内地ニ於ケル大学ノ如キ程ニ
十分ナル事ニ基ク為ニ地ニ等ニ
ノ如ク系ヲ以テ之ヲ北鮮ニ地種ノ運
搬上ヲ制限セラレ一ヶ一般ニ移動ニ上リ制ヲ
ル事ハ甚ダ困難ニ有様ニ大ニ

（別封入伝票ノ通リ）

八九 南満鉄道株式会社ニ関シ申請ノ件ニ付
地ノ名義ヲ以テ借受ノ形式ヲ為シ居ル事
鉱山積ノ為ス時ハ鉱業等ノ登記ヲ
ノ如ク処分ヲ為ス事ヲ得ル事ヲ
ニ依リ申入ノ各条件ニ依リ
上ノ通

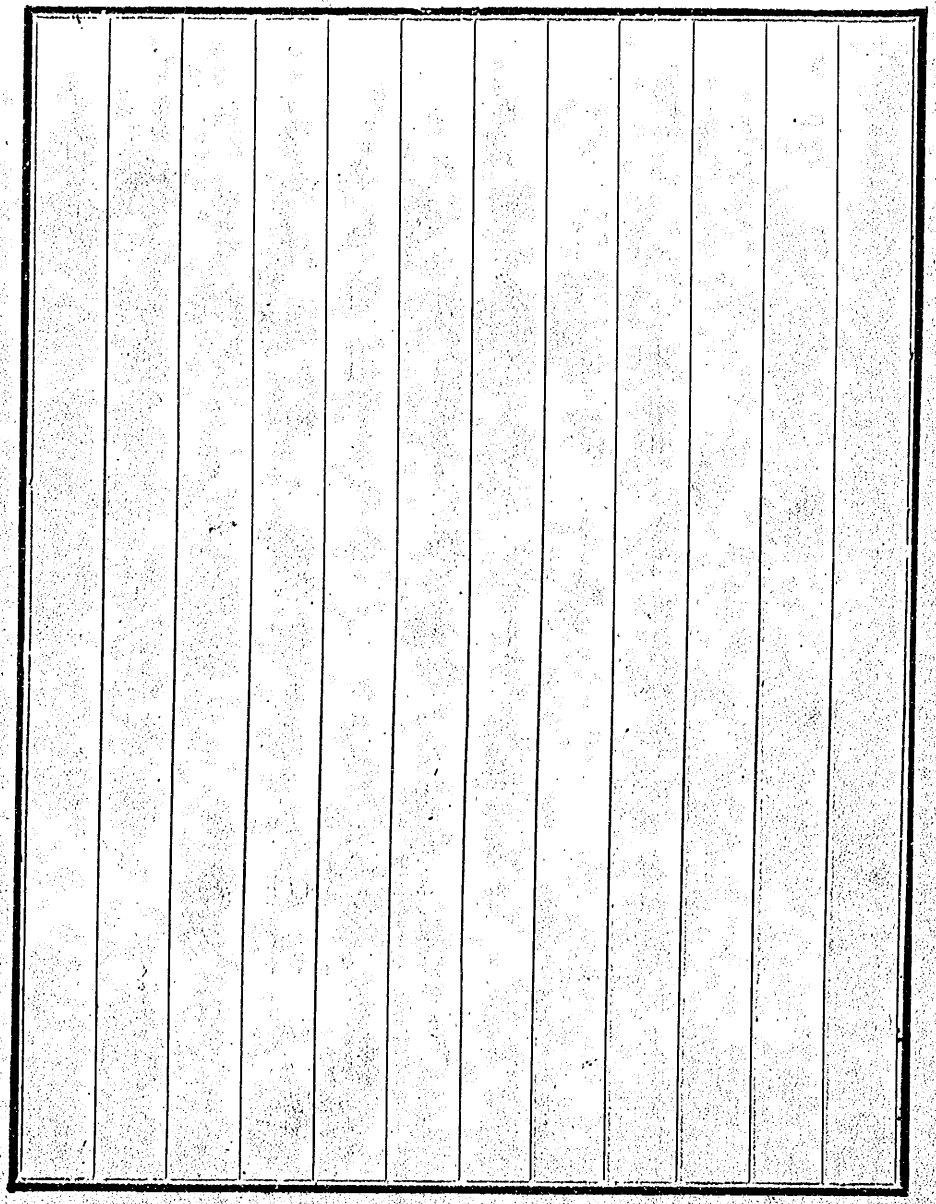
右八件申進ム

七月十二日午後二時発

伍

2025

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



2026

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

秘

参謀

師團報告第壹号

九月二日着

申報

第三次出発部隊即チ師團司令部及ヒ各部隊廣島出発以来釜山ヲ経テ京城ニ至ルノ経歴左ニ報告ス其道路険悪加フルニ韓銭ノ欠乏人足馬匹ノ不足等ニ依リ軍隊ノ行進ニ困難ヲ窮ムルノ状況ハ屢ゝ電報ヲ以テ上申セシ如ク其道路険悪ナル大部分ハ石道ニシテ且道路ト称シ難ク僅カニ畦道ニ過キサルノ部分間々アリ甚タ難路ナリ

一、本一身ノ通過ニ於テハ意トスルニ及ハサルモ行李ノ携行ニ於テ窮メテ困難ナリ則チ多々ノ物品ヲ携フレハ多数ノ人足ヲ要ス韓夫ヲ使用スルノ困難ハ甚シ（人夫ヲ得ルノ難キト其人夫ヲ得ルモ其行進ノ緩慢ニシテ從テ心配シテ

2027

等）又物品ヲ地方ニ於テ調達セシムル実ニ周旋後慢ニシテ遂ニ翌日ノ行進ヲ止ムルニ至ル又韓銭ヲ携行セサルヘカラス何事モ便セスシテ携行セハ夫レカ為メ人馬ノ要シ長途ヲ携行スル時ハ其携行人馬賃ノ為メニ多額ヲ費シテ用途ニ充ツルヲ得ルハ僅々ナリ曩キ困難ト失費トハ実ニ豫想モ及ハサル次第ナリ道貫ハ幕僚ト騎兵一小隊ヲ引率先行セシヲ以テ各部隊目下尚行進途上ニ在リ故ニ未タ悉ク状況ヲ得スト雖モ之ヲ憂慮シテ其到着ヲ待チツヽアル所ナリ

八月五日午前二時二十五分熊本丸ニテ宇品ヲ抜錨続テ各船出港ス午後一時五十分六連島ニ到着投錨ス是レ後続各船並ニ丸亀聯隊諸船ニ會合ノ為メナリ午後五時四十分小倉丸

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

仙波参謀ヲ派セ釜山ヘ先発セシメ同地上陸ノ諸準備ヲナサシム同九時宮発此時九竜驤隊ノ乗船来タリ到着セス之レカ為メ和歌浦丸ヲ残シ在到着ヲ待テ同行セシムルノ命ス

八月八日午前九時十五分釜山ヘ着港ス同十時十五分上陸ノ命令ヲ下シ順次上陸ヲ始ム午後一時大本営ヘ向テ一大隊ヲ中路其他ハ元山ヨリ上陸ノ決心ナル者ヲ電報ス是レ釜山到着ノ上開知スル所ニ依レハ中路ノ困難ナルヲハ兼テ聞キシニ勝リシヲ以テリ依テ各船ノ上陸ヲ止ム此決心ニ依リ歩兵第十二聯隊長友安中佐ニ同聯隊第三大隊ノ三個中隊ヲ引率セシメ翌朝出発中路ヨリ前進ノ命シ弾薬大隊ハ歩兵第十二聯隊第三大隊ノ一個中隊ハ一時釜山ニ残留セシメ其他ハ元山ニ航行

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

スルコトナシ仙波参謀ヲ和歌浦ニ派シ元山ヘ先行セシメ和歌浦ニハ砲兵聯隊本部同第一大隊本部及ビ砲兵中隊乗船スヘク本営ヨリ電報訓令アリ元山ヘ一部ヲ派遣シ其他ハ中路ヨリシ且師團長ハ成ルヘク速ニ京城ニ達セシコトヲ望ムト依テ更ニ前ノ決心ヲ変更シ第十二聯隊第一大隊ノ乗船遠江丸ヲ元山ヘ向ケルコトトナス

八月七日午前七時ヨリ中路行各部隊上陸セシム

八月八日午前四時半分釜山ヲ発午後二時二十分梁山着此間鉄嶺ノ峠アリ車輛通過素ヨリ望ミナレトモ兵馬迅又甚タ困難ヲ感ス本日此ノ早着セシモノハ初日人馬ヲ顧慮シタルナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

八月九日午前四時五十分梁山ヲ発午后六時三十分盛陽着
本日ノ進行ニ於テ友安聯隊長ノ行進ニ曾ヘル所ヲ天難路
ノ為ニ良ク疲労スル者多ク又渋滞況尚長途ノ行進深ク慰着
ヲ顧慮スル為ノ聯隊ヲ脱シ之ニ向ヒ依テ茲ニ返シ同地ヲ
出発仁川ニ向ケ進ムルニシテ軍ヒ且又釜山ニ在ル吉川兵站監ニ命令
シテ後発部隊ヲ向様ノ取扱ヒヲ為サシム
八月十日午前五時三十分盛陽ヲ発午后二時三十五分清道着
人馬所要糧食外異状我為メ困憊スルモノ如シト雖モ真意ヲ
得ルヲ以テ且諸事甚タ緩慢ニシテ何事ニ更ニ便セス改メ各所
共遅々我出発ノ理由ノ解説シ始メテ稍了解スルノ有様ナリ
八月十一日午前五時清道出発午后四時三十分大邱ニ着ス此間

2031

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ハ別紙ノ如ク急ヲ告ケントスル為メ甚シキ
困難ヲ覚ルニ至ラサリシ然ルニ此日行進中午前ノ時頃
韓馬ニ乗リ急行シ来ル一士官ニ会フ之レ在大邱半田少佐ヨリノ八月十日午后四
時手発報告ノ携帯シタル非野口中村ナリ其報告ニ曰ク去ル
四日金山出発以来今日ニ至ル七日間ニシテ僅ニ三十里ノ前進シ本
日大邱府ニ達シタリト雖モ当府ハ韓民交換ノ回リ韓人
ノ策源地(論旨諸品運搬及韓銭運搬等ニ基ク)ニ就キ殊ニ大困難ニシテ今日ノ如クニテハ
到底予期ノ如ク遷延シ殆ント進退相谷リタリ之ニ依テ将来ノ推セリ
難キ不幸ニ遭遇シ殆ント進退相谷リタリ之ニ依テ将来ノ推セリ
難キ事ヲ大体行進スルヲ断ノ障碍ヲ来シ已ヲ得ス速ケニ前進
スル能ハサルノミナラス師団ノ前進ニ重大ナル関係ヲ有スルモノト相
考ヘ特ニ非野口中村ヲ以テ右ノ景況上申且ツ御指揮ヲ乞フノアリ尚

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

井野口中尉ヨリ聞ク処モ右ニ同シ依テ井野口中尉ニ左ノ命令ヲ授ケ復帰セシムヲ以テ本夕大邱ニ到着スルヲ以テ夫レ迄命令ヲ待ツベシ引続キ上田参謀長ヲ急行セシメ大邱ニ到リ半田少佐及同地兵站司令官松村少佐（松村少佐ハ之レヨリ先キ二日大邱ニ着セリ）ニ就キ尚現状ヲ確知シ監司ト談判ノ上臨機ノ処置ヲ為スベキヲ以テス

同日夕大邱ニ到着スルヤ已ニ上田参謀長ハ大邱監司ト談判中ナリシ向モナクヲ未左ノ報告ヲ為シタリ

小官到着直ニ半田松村両少佐ニ就キ実況ヲ聞ク二既ニ井野口中尉ノ持来リシ報告ト異ナルナシ尚両少佐ヨリモ之レヨリ先キ監司ニ我軍隊ノ便利ヲ与フヘキ旨談判シタルニ監司モ成シ得ル限リ尽力スルトノコトナレトモ一切其実ヲ挙クルコト能ハズト（前任ノ監司轉任シ目下ノ監司ハ本月七日ニ赴任セリ此ノ談判ヲナセシハ八月十日ノコトナリシ）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

依テ直ニ監司ニ面接抑モ今回朝鮮國ノ為メ大日本帝國ヨリ多数ノ軍隊ヲ派遣スルニ至リタル要旨ヨリ引テ将来朝鮮国ノ獨立ヲ強固ナラシメ相提携シテ事ヲ為スノ必要ヨリ我帝國ハ義ノ為メニ茲ニ尽ストノ精神ヲ示シ遂ニ朝鮮國モ我軍隊行進ノ為メニハ又糧秣及ヒ人夫ノ徴集韓銭交換等ノ如キハ最モ尽力シ之ニ報セサルヲ得サルノ理由ヲ説述シタリ監司モ一層感スル処アリ彼レ答フルニ本官ノ力及ノ限リ尽サンコトヲ盟フタリ茲ニ於テ人夫ノ徴集ヨリ韓銭ノ交換等即時ニ着手我軍隊ヲシテ寸時モ神速行進ヲ起スコトヲ得セシムヘキ旨ヲ請求セシニ監司之ヲ諾シタリ（韓人ノ常トシテ事ニ処スル緩慢ナルヲ以テ時刻ニ制限ヲ与エント思考セシモ先ツ本夜ノ所ハ其実施ノ景況ヲ見ンカ為メニヒカ制限ヲ付セサリシト）前陳次第上田参謀長ハ復命セリ（尚佛国宣教師等ヲ使用シ大邱地方附近ノ財産家ニシテ大凡ソ韓銭貯蔵等ノ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

景況ヲ探偵セシノ上ニ監司ヲ通ジ我請求ヲ果シ得サルハ此ノ財産家ヲ指名シ断然徴発ヲ執行セシメンカ為メナリ）午後九時ニ及フモ我ヨリ請求ノ件ニ付監司ノ実効未タ顕レサルヲ以テ再ヒ上田参謀長ヲシテ監司ニ接シ実況ヲ尋問セシメ果シテ緩慢怠ニ其実ヲ挙ル目的ナクンハ臨機強硬ナル談判ヲ為スヘキ上旨ヲ訓示シタリ上田参謀長監司ニ就キ尋問スルニ果シテ其実施緩慢（監司ハ非常ニ尽力セシ旨ニテ数件ノ日商ヲ実施セシ事ハ認メタリ）ニシテ到底監司ニ任シ置クハ目的ヲ達スル能ハサルヲ断定シ最モ探偵ニ富ミタル財産家ヲ指名シ会ヨリ徴発ヲ実行セントヲ望ム若シ監司カ之ヲ為ス能ハサルハ我兵カヲ以テ徴発ヲ援助スヘシト厳談シ及フルニ至テ監司孫壹ヲ次シ即刻リ右ノ財産家ノ名ヲ喚ヒ軽銭交換ノヲ厳達シ急速之ヲ徴集スルヲ以テ兵力ノ援助

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ際時間合フレタルヨリ上田參謀長ハ此ノ監司ノ言ハ稍ト信ヲ置クニ足ルカ如ク認ムルモ尚韓人ノ狡慢ヲ疑ヒ小官ハ夜ヲ徹スルモ當ニ應ヲ為ラズ即時召喚シテ韓錢交換ノ命令アランコトヲ請フ監司ノ回ヲ要スルニ於テ召喚吠ヲ發シ引續キ着手シ明早朝更實況ヲ報告セン故ニ先ツ貴官ハ退廳セラレンコトヲ望ムト云フ依テ右ノ召喚狀發送ヲ見認シ早朝實況相違ナク通知アランコトヲ明ニシ上田參謀長ハ更ニ復命ヲ乞ヒ午前一時三十分ナリシ十一日午前六時大邱府ノ官吏（監司ノ）ヲ請ヒ參謀長ノ許ニ到リ爾後嚴命ヲ下シタルニ左ノ韓錢交換ノ道ヲ設ケタリ然レドモ一時ニ之ヲ調達スルノ難キヲ以テ今明兩日間ニ於テ之ヲ果サントセリ

總額二十五萬圓（實際調ヒタル額ハ左ノ如シ）

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

内第一日ニ三百毋貝文
第二日ニ二百毋貝文

但シ残額ハ後ヲ追テ後続部隊ノ用ニ充ル為メ之ヲ大
邱兵站司令官松村少佐ニ預ケ置キタリ

尚其他自カラ尽シ地方人民ニ就テ直接韓銭若干ヲ交換シ
得タリ又監司ノ尽力ニ依リ荷物ヲ沿道逓伝送致ノ法ヲ設ケ各隊ノ
先発者ハ沿道官廳ニ就キ所用ノ人馬ヲ要求セハ官吏ハ之ニ応シ人
馬ヲ召集シ軍隊ノ大小行李等伝送ノ便ヲ得セシメントセリ監司
ハ慶尚道各府縣郡ニ布達シ忠清道及京畿道ノ監司ニ通
牒シ夫人夫賃銭ハ該隊京城着上官廳ヲ経テ本人ニ支給スル
ルートナリ為メニ韓銭運送ノ数ヲ減シ随テ人夫ノ需用モ大ニ減
少スルヲ得タリ茲ヲ以テ漸ク半田少佐ノ大隊行進ヲ起スヲ得其他

2037

ノ後備部隊モ行進ニ便利ヲ得ルニ至リタリ

道路ノ其他治道府使ニ就キ自カラ親ク本邦出兵ノ主旨ヲ将来朝鮮國ノ為メ等ノ説話シ尚上田参謀長ヲシテ之ヲ説話セシメタリ

多クノ官吏ハ茲ニ於テ大ニ日本帝國ノ義気ヲ感スルモノ、如シ茲ヲ以テ大邱ニ於ケル景況ハ大島公使ニ電報シ尚朝鮮政府ヨリモ全道ニ関文ヲ発セシヲ請求シ又逓伝法ヲ設ケタル旨ヲ古川兵站監ニ照会シ電報ヲ発シ置キタリ其后道路東治東ニ到リシ件朝鮮政府ノ関文ヲ全道ニ発シタル大島公使ノ通報ニ接シ又鳥嶺ニテ再度ノ関文ヲ受領シタリ茲ニ於テ最先発者タリシ外務者雇浅山顕藏ニ之ヲ持タセ治道官庁ニ示スヲトシ為メニ大ニ便益ヲ得ルニ至リタリ今回

2038

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

金山沿道ニ於テ幸フレテ軍隊行進ヲ為シ得ルニ至リタルハ大ニ監司ノ周旋大ニ預テ力アリ京城到着後大鳥公使ニ其旨ヲ傳ヘ統理衙門ヘモ通知セシメタリ（本項ハ沿道各管廳トノ関係ナルヲ以テ道路及京城到着ニテノ分ヲ玆ニ纏メテ記述セリ）

八月十三日午前五時四十五分大邱出発午後七時二十分仁同ニ着ス

八月十四日午前四時三十分仁同出発午後七時四十分尚州着途上沿道ニ於テ第一電信架設隊長吉見少佐ニ會シ電信架設ノ狀況等ヲ聞キ且朝鮮政府ヨリ我軍隊通行沿道ノ府使等ヘ令シテ軍隊ニ便利ヲ與フヘキ旨ノ関文ヲ領スル之レヨリ先キ行進甚タ困難ニ付大鳥公使ニ電報ヲ発シ朝鮮政府ヨリ沿道ニ令達シラ行進ニ便利ヲ與フルノ取計ヲ望メリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

八月十五日午前五時尚州出発午后七時五分聞慶着
八月十六日午前四時三十五分聞慶出発午后七時忠州ニ着ス本日ハ有名ナル鳥嶺アリ登路急ナルニヨリサルモ道路特ニ険悪ニシテ始終巌石ノ間ヲ経過シ所トシテハ傾斜アル枝石ノ上ヲ通過スルヲ以テ馬匹轉倒シ起クレハ又倒レ其倒ルヽ多キハ五六回ニ及フモノアリ然レ共幸ニ馬匹ノ傷ク者ナカリシ当附近電信架設支隊アリシヲ以テ後續部隊通過ノ為メ工事ヲ命セリ
八月十七日午前五時忠州出発同第十時可興着此地ハ第二軍用電信架設隊長馬場少佐ノ在ル地ナリ当地ヨリ水路行ノ為メ人馬共ニ乗船ス馬匹ハ二船三頭トシ騎兵又ニ馬丁之ニ属シ別ニ一艘ヲ将校以下ニ充糧秣二日分ヲ用意シ午後一時出

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

発水流緩ナリ且昼夜兼行ノ約ナリト雖モ緩慢ナル輜人夜間休泊ノ處アルヲ以テ各船起番ヲ設ケテ督促ヲナサシメ最尾船ニ下士及通辯人ヲ置キ以テ殘留船無ラシム

八月十八日午後九時三十分廣津ニ着船ス

八月十九日廣津ヨリ上陸京城ニ向ヒ京城外大鳥旅團長以下出迎ヲナス同九時四十分京城ニ着ス午後大鳥公使ニ會ス

釜山街道行進諸隊漸次到着スルモ尚最終部隊到着之上詳細報告スベシ不取敢右申報ス

明治二十七年八月二十四日

第五師團長子爵野津道貫

參謀總長熾仁親王殿

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

秘

先般迂生金山上陸後各地ヲ巡回シ各人情一般之状況等ヲ視察仕候処弥我軍備擴張之必要ヲ感シ別紙意見書差出置候ニ付テハ何卒御採用相成度申進候也

昭和十七年十月廿日

第五師團長子爵 野津道貫

参謀総長 伏見宮殿下

2042

意見書

2043

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

道其誰テ畫ラン大勢歸趨既ニ定リ
網打盡瞭然タル觀アリ豊島沖ニ於ケル
大詔渙發ノ狀ヲ述ヲ計ニ忽チ發ス所以
ナリ朝我軍一擧平壤ヲ攻ケリ
夫レ平壤ハ地クルヤ水ヲ帶ヒ山ヲ繞テ險固
テテヲ踞ス形勝甚タ壯烈西門鋼鈑ヲ以テ
名城タリ從是先キ日清ノ開戰ニ漸ク加ヘントスルヤ清國
政府疾ク直隷盛京精兵三十餘營ヲ出シ名將葉
志超ヲシテ此地ヲ鎭セシム形勝ヲ相テ堡壘ヲ連築シ者ニ
七月星ヲ俄ル者三十六門旗幟翩々城ニ滿ツ城ニ東ヲ
張リ壕塹ヲ穿チ槍ヲ植ヘ彈藥ヲ運ヒ過冬防禦ノ具ヲ備リ
將士奚ニ養全軍勇ヲ鼓シテ防禦策ヲ講ス其人ヲ恃ム

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

益ゝ被清軍必死ノ迫撃ヲ以テ此際我軍ノ此地ヲ退ケハ
稍々ニシテ即チ敵ニ攻ルカ如キノミナラス清國政府ノ全力ヲ指揮シテ平壌
ヲ領スルカ如キ挙ヲ敢テセシヤ遠ニ如此ナラス
此時ニ當リ我軍情況ハ如何ニ稍々混成旅團ハ清軍三萬ノ敵
ヲ牡丹山ニ破リ平城ニ入リ戦後日猶浅ク創痍未タ癒エス人馬困
頓運輸ニ苦シミ休養ニ暇アラサルヲ以テ決然北征ヲ止リ其他各隊
ヲ金山元山ヨリ上陸セシ者ノ如キハ盛暑行軍ヲ熟ス能ハス越
ルニ幾何ノ日ヲ經スシテ勝軍連戦尤モ難ニ堪ヘ露営ヲ良ニ苦ミテ病院ニ
入ル者数十日ヲ出テス雨ニ除ニ梅風ニ雨漏ニ経ヨ
其艱難ヲ名状スヘカラサルヲ亦暫ク休養スルヲ得
兼程猛進ニテ直ニ敵ヲ平壌ニ攻ムルニ至リ
是ニ因テ之ヲ観ルニ彼ノ統一スル所ノ将ヲ得テ我ニ勝ヲ逸シ常ニ敵

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

多ク勝ニ乗リテ防備ヲ修メ我ガ客兵ヲ以テ不利ノ地ニ入リ且敵ハ雄偉ノ軀幹ヲ以テ精良ノ連発銃ヲ帯ビ強且鋭ナル我カ比ニ非ス況ンヤ

2046

孰カト亦異ナル眛者ヲシテ豫ト其勝敗ヲ卜セシメハ則チ我ノ捷ヲ疑ハサル者蓋シ希ナリ然リ而シテ我軍事ニ一挙之ヲ挫ク其故何ソ他ナシ

我勝算ハ平素軍紀ノ厳粛訓練精熟ト全軍ノ将士皆忠君愛国至誠ニ富ミ上下一途赤心ヲ竭尽セルニ在ルノミ嗚呼我軍隊ハ賢ニ此確乎不抜ノ精神アリ故ニ征途ノ蠻觸飽ノ如ク蜜ノ如シ誠ニ此軍紀訓練アリ故ニ勇往奮進勝ヲ制シ已ニ是我カ能ク敵ノ精兵一万六千ヲ一挙手一投足ノ間ニ撃破シ著名ノ堅城ヲ抜キシ所以ナリ

敵ハ則チ之ニ反シ兵ノ衆ヲ恃ミ地ノ利ヲ得タリト雖モ軍紀弛廃訓練足ラス体軀強大兵器精良ナリト雖モ将士ニ忠君愛国ノ誠ナシ是ヲ以テ往々死ヲ決シテ能ク戦フ者ニモ虎狼ノ勇ニ過キス将ニ統

軽ク威光ナク兵ニ致ノ氣慨ナク蟻ノ蠶ノ竟ニ是烏合ノ兵ニ過ス我皇軍精練ノ軍ニ當ルヲ得ンヤ彼ノ一タヒ戰敵ニ敗レ二タヒ軍壞潰走シ所ノ者安ンソ斯ニ職由ス嗚呼將士ニシテ忠愛ノ誠意ニ乏シノ軍隊ニシテ紀律訓練ヲ缺カハ夫レ將タ何ノ用ヲカ爲サン彼我勝敗ノ分ル所以ノ者ハ則彼カ加ヘテ今日ノ後宜シク講究怠ラサルヘキ者攻守勢カナリ夫レ今日ノ役終ニ我目的ヲ充分ニ達シ滿足セシト欲セハ尚四師團以上ノ兵ヲ千里ノ外ニ出サヽル可ラス然レトモ餘ス所僅々タル師團ノ兵カラスシテ全國ノ防備ニ任セサルヲ得ス而シテ殘留師團ノ兵ハ多キヲ爲サス全國ノ防備ハ重且大ナリ其利害得失ハ敢テ識者ヲ待タスシテ明ナリ曩ニ豐島鹿島ニ戰我海軍北洋艦隊全カノ過半ヲ破リ以來海上ノ威稜殆ント我掌中ニ在リ神州沿海ノ風濤穩々顧慮ヲ費ス足ラス是ヲ以テ今後懸軍千里内顧ノ憂ナク一意前進目標ノ攻撃ニ從フヲ得是皇靈ト神州ノ慶ナリ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

然リト雖戰利鈍ハ人ト與ニ變化ス若夫海空權ノ今日ノ勢ニ及ヒ
セシ者神州沿海敵寇ヲ受ケサルコトニシテ已ニ獨リ糧食運輸ノ
連絡ニ大困難ヲ觀ルノミナラス俘虜ノ殘留師團竟ニ兵火ノ全國
ヲ傳ハル迄當ラント欲スル未タ其可ヲ得サルナリ
且夫今回日清ノ國戰ヲ實ニ古未曾有ノ激戰タリト雖モ之ヲ前
途永遠ノ大危機ニ較スレハ僅ニ是一編ノ序曲ニ過キス朝野國人
ノ能ク保持銘肝セラルヘキハ將來我皇祖皇宗ノ天地ト與ニ悠久
ナル大決戰アラン是ニ實ニ東洋運命ノ係ル所ニシテ優勝劣敗
惨狀今日ノ比ニ非サルヘシ故事ニ曰ク敵ヲ知リ己ヲ知レハ百戰
殆カラスト今日敵ヲ知リ且己ヲ知ルノ點ニ於テハ則チ四個師團兵ヲ海ニ動スルモ之ニ
勝ツノ望ミ有リ然レトモ敵ノ實力今日ノ戰績ニ止マラス我ノ之ヲ擊破シ
我神州ノ獨立ヲ維持センニハ今ヨリ東京以北平壤間ニ實ニ旅團
以上ノ兵ヲ常ニ以テ警ヲ嚴ニシ敵ヲ海上ニ於テ防禦シ敵已ニ陸上ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

計ハ國運ノ消長ニ關スルヲ以テ敢テ陳ス我陸軍ノ充實ハ今日ノ狀態ニ於テ滿足スヘカラス然レトモ我陸軍ノ養成カ今日ノ狀態ニ於テ敢テ可ナリトスルニ非ス而シテ今ヤ時勢ノ推移ハ時ニ刻々ノ變遷アリ外交ノ關係ハ時ニ刻々ノ變遷アリ外交ノ關係ハ時ニ刻々ノ變遷アリ外交ノ關係

恐懼謹白

明治廿七年九月三十日

第五師團長子爵野津道貫

參謀総長熾仁親王殿

2050

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/